

オーナーズマニュアル

DIAVEL

DIAVEL

**DIAVEL
CARBON**



オーナーズマニュアル

日本人

DIABEL

DIABEL

DIABEL
CARBON

本取扱説明書はモーターサイクルを構成する一部であり、使用期間中はモーターサイクルと併せて保管してください。

所有者が変更される場合は、本取扱説明書も併せて新しい所有者に譲渡してください。

本取扱説明書は大切に保管してください。損傷や紛失した場合は、速やかに Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターに新しい取扱説明書をご請求ください。

ドゥカティモーターサイクルの品質と安全性は、デザイン、装備、アクセサリーの開発に伴い絶えず進化しています。本取扱説明書には印刷の時点での最新情報が記載されていますが、Ducati モーターホールディング社は本書内容を予告なしにいつでも変更する権利を有します。そのため、お客様がお持ちのモーターサイクルは本書に記載する参照図と異なる場合があります。

本マニュアルの全部または一部を複製、配布することは禁じられています。すべての権利は Ducati モーターホールディング社に帰属しており、理由を明記したうえで（書面による）許可の申請をしなければなりません。

楽しいライディングを！

目次

はじめに	7
安全性ガイドライン	7
本取扱説明書で使用されている警告シンボルマーク	8
用途	9
ライダーの義務	10
ドライバーのトレーニング	11
服装	11
安全のための“ベストプラクティス”	13
燃料の補給	15
最大積載時の運転	16
危険物 - 注意事項	17
車両識別番号	19
エンジン識別番号	20

インストルメントパネル(ダッシュボード)	21
ハンドルバーのインストルメントパネル	21
LCD - メイン機能	24
車両スピードインジケーター	25
エンジン回転数(RPM) インジケーター	26
時計	27
エンジンクーラント温度	28
ディスプレイの背景色(自動調整)	29
タンクのインストルメントパネル	30
TFT - パラメータ設定/表示	32
総走行距離“オドメーター”表示	34
“TRIP 1”メーター表示	35
“TRIP 2”メーター表示	36
“RANGE” インジケーター - 推定航続可能距離	37
“CONS. AVG” - 平均燃費表示	38
“CONS.” - 瞬間燃費表示	39
“SPEED AVG” - 平均スピード表示	40
“TRIP TIME” - トリップタイム表示	41
“AIR” - 外気温表示	42
ギア表示	44
“設定ライディングモード”表示	45
“LAP”機能ON/OFF表示	46
“SIDE STAND” インジケーター	46

“ライディングモード”機能 48
メンテナンス時期表示 50
メンテナンス作業表 50
最初の表示 - OIL SERVICE 1000 Km 52
SERVICEまでの残りの距離の表示 53
SERVICEの距離到達の表示 55
警告表示（アラーム/信号） 57
バッテリーレベル“低” 59
トラクションコントロール(DTC) OFF 60
Hands Free (HF) キー識別不可 61
Hands Free (HF) キーのバッテリーレベル“低” 62
エンジンクーラント温度 “高” 63
ステアリング解除エラー - ステアリングブロック未解除 64
インストルメントパネル診断 65
設定メニュー 71
“ライディングモード”的パーソナライズ 73
DTC (ドゥカティトラクションコントロール) 設定機能 76
ENGINE (エンジン出力制御) 設定機能 81
DEFAULT (ドゥカティデフォルトパラメーターの修復) 機能 83
メニュー2解除/再起動機能 85
タンクインストルメントパネル - DASHBOARD 1背景調整機能 87

ハンドルバーインストルメントパネル - DASHBOARD
2バックライト調整機能 89
エンジン回転数表示機能(デジタル) 91
LAP ON/OFF機能 92
LAPの記録機能 94
メモリーされている LAP の表示機能 96
メモリーされている LAP の削除機能 98
バッテリーテンション (BATTERY) の表示 100
時計の調整機能 103
単位の変更機能 105
ABS解除機能 109
イモビライザーシステム 111
キー 112
アクティブキーのバッテリー交換 115
キーの複製 119
イモビライザー解除手順 119
ランプコントロール 125
その他の機能 133

運転時に必要なコマンド 137
コマンド類の配置 137
“Hands free”システム 138
左側スイッチ 148
クラッチコントロールレバー 149
右側スイッチ 150

スロットルグリップ	151	パーキング	182
フロントブレーキレバー	152	燃料の補給	185
リアブレーキペダル	153	付属アクセサリー	186
ギアチェンジペダル	154		
ギアチェンジペダルとリアブレーキペダルの配置調整	155		
主要構成部品 / 装備	157	主な整備作業とメンテナンス	187
車両上の配置	157	エアフィルターの交換	187
燃料フィラープラグ	158	クーラントレベルの点検および補充	187
シートロック	160	ブレーキ / クラッチフルードレベルの点検	187
サイドスタンド	163	ブレーキパッドの摩耗点検	190
パッセンジャーハンドル	165	ジョイント部分の潤滑	191
フロントフォーク調整	166	スロットルケーブルの遊びの調整	193
リアショックアブソーバー調節	168	バッテリーの充電	194
 		バッテリー充電および冬季の断熱	202
運転のしかた	171	トランスマッisionチェーン張力の点検	204
慣らし運転の方法	171	チェーンの潤滑	206
走行前の点検事項	173	ハイ/ロー ビーム電球の交換	207
エンジン始動/停止	176	ヘッドライトの光軸調整	208
車両の発進	179	リアビューミラーの調整	210
ブレーキ操作	179	チューブレスタイヤ	211
ABSシステム	180	エンジンオイルレベル点検	213
車両の停止	181	スパークプラグの清掃と交換	215

メンテナンスプログラム	219	定期点検メモ	241
メンテナンスプログラム：ディーラーで行うメンテナ ンス	219	定期点検メモ	241
メンテナンスプログラム：お客様が行うメンテナ ンス	223		
テクニカルデータ	224		
重量	224		
寸法	225		
給油	226		
エンジン	228		
タイミングシステム	229		
性能データ	230		
スパークプラグ	230		
燃料供給	230		
ブレーキ	231		
トランスミッション	232		
フレーム	232		
ホイール	232		
タイヤ	233		
サスペンション	233		
エキゾーストシステム	233		
カラーバリエーション	233		
エレクトリカルシステム	235		

はじめに

安全性ガイドライン

この度はDucati製品をお買い上げ頂きありがとうございます。貴方をドゥカティストの仲間としてお迎えできるのは、私達にとって何よりの喜びです。この新しいバイクでは日常的に利用されるだけではなく、ロングツーリングも楽しまれることだと思います。Ducati Motor Holding S.p.A.は、そのライディングが常に快適で楽しいものであるよう願っています。

お客様のモーターサイクルはDucatiモーターホールディング社の絶え間ない研究と開発から得られたものであり、メンテナンスプログラムに従い、オリジナルスペアパーツを使用することで品質を維持することが重要です。本取扱説明書には簡単なメンテナンス作業の実施方法が記載されています。より重要なメンテナンス作業は、Ducatiオフィシャルディーラーまたはサービスセンターに配備されているディーラーマニュアルに記載されています。

あなた自身のため、また製品の安全性及び信頼性を保証するために、定期メンテナンスプログラムで行うあらゆる作業は、Ducatiオフィシャルディーラー

またはサービスセンターにご依頼頂くよう強くお薦めしますページ 219参照。

Ducatiオフィシャルディーラーの熟練したスタッフが、どのような整備作業にも対応できる専用器具と適切な工具、完璧な交換可能性、円滑な作動、ロングライフを保証するDucatiオリジナルパーツのみを使用し、最善のサービスを提供致します。

全てのDucatiモーターサイクルには保証書が付属しています。

車両を競技やそれに類する目的に使用する場合は保証の対象外となります。

車両や部品の一部でも交換したり、改造したり、変更した場合、保証は適用されません。メンテナンスが正しく行われなかったり、不十分だったり、オリジナルでない又はDucatiに承認されていないスペアパーツが使用されている場合、車両に損傷を招いたり、期待される性能が得られないばかりでなく、保証が適用されなくなることがあります。

お客様とその他の人の安全性は非常に重要です。Ducatiモーターホールディング社はお客様にモーターサイクルを責任をもって使用されることをお願いします。

お客様のモーターサイクルをはじめてご使用になる前に、本取扱説明書を最初から最後まで注意深くお読みになり、記載されているガイドラインに忠実に

従ってください。正しい使用法とメンテナンスに関するすべての情報を得ることができます。車両について不明な点、さらに詳しくお知りになりたい点がある場合は、ご購入先のオフィシャルディーラーにお問い合わせ下さい。

本取扱説明書で使用されている警告シンボルマーク

お客様又はその他の人に負わす可能性のある危険について、以下のような異なる形式で記載されています。

- モーターサイクルの安全性に関するラベル
- 注意シンボル、及び警告又は重要シンボルのうちの一つで表わされる安全性に関するメッセージ。

警告

これらの注意事項が守られない場合、ライダーまたは他の人の重大なけがや死亡事故を招くことがあります。

重要

車両や車両構成部品に損傷を与える可能性があります。



参考

作業上の追加注意事項。

文中の「右」、「左」の表記は進行方向を見たときの方向です。

用途

本モーターサイクルはアスファルト舗装、または平らで整備された路面状態の道路においてのみ使用してください。未舗装道路やオフロードでは本モーターサイクルを使用することはできません。



警告

オフロード走行に使用すると車両のコントロールを失い、車両の損傷、身体の傷害または死亡事故にいたるおそれがあります。



警告

本モーターサイクルでのトレーラーのけん引やサイドカーの取り付けは行わないでください。車両のコントロールを失い、事故を招くおそれがあります。

本モーターサイクルにはライダーが搭乗し、 passenger を一人乗せることができます。



警告

ライダー、passenger、荷物、オプションパーツを含む車両総重量が 400kg を超えないようにしてください。

ライダーの義務

すべてのライダーは運転免許証を所持していなければなりません。

!**警告**

無免許運転は違法です。こうした行為は法律で罰せられます。モーターサイクルを運転する前に、運転免許証を携帯していることを必ず確認してください。経験の浅い運転者や運転免許証を有しない人に運転をさせないようにしてください。

飲酒後や麻薬の使用後には運転しないでください。

!**警告**

アルコールや薬物の影響が残っている状態で運転するのは違法です。こうした行為は法律で罰せられます。

薬の副作用に関する情報をかかりつけの医師から説明を受けていない場合は、運転前の薬の服用は避けてください。

!**警告**

薬によっては眠気やその他の症状を引き起こすことがあります。運転者が思うようにモーターサイクルを操縦できず、制御不能に陥り事故を招くおそれがあります。

保険の加入を義務付けている国があります。

!**警告**

現地の法律をご確認ください。保険に加入し、保険証明書はモーターサイクルの他の書類と一緒に大切に保管してください。

ドライバー及び必要に応じてパッセンジャーの安全を守るため、規格に適合したヘルメットの着用を法律で義務付けている国があります。

!**警告**

現地の法律をご確認ください。ヘルメットを着用せずに運転すると罰則が科せられることがあります。

! 警告

事故が起こったときヘルメットを着用していないと、重大な傷害を受ける危険性が高くなり、最悪の場合死に至ることがあります。

! 警告

ヘルメットが安全規格に適合していること、十分な視野が取れ正在こと、頭に合ったサイズであること、ご使用になる国 の基準適合マークが貼付されることを確認してください。道路交通法は各國で異なります。モーターサイクルを運転する前に現地の法律を確認し、必ずそれに従ってください。

ドライバーのトレーニング

多くの事故は経験不足のために起こります。運転、操作、ブレーキは他の車両とは違う方法で行わなければなりません。

! 警告

ライダーの経験不足や車両の不適切な使用は、コントロールを失い、死亡事故や重大な損傷の原因になるおそれがあります。

服装

モーターサイクル使用時の服装は安全性の面で非常に重要です。モーターサイクルは衝撃に対して車のように人を保護することができません。

適切な服装とは、ヘルメット、目を保護するゴーグル、手袋、ブーツ、長袖ジャケット、長ズボンです。

- ヘルメットはページ 10に記載されている要件を満たしていかなければなりません。バイザーの付いていないモデルのヘルメットを使用する場合には、適切なメガネを使用してください。
- 手袋は革製又は摩耗に耐える素材のもので、5本指のものでなければなりません。
- 運転用ブーツ又は靴は、滑り止めソール及び足首のプロテクションが付いていなければなりません。
- ジャケット及びズボン、又は防護スーツは、革製又は摩耗に耐える素材のもので、非常に目立つ色でなければなりません。

! 重要

車両の部品に巻き込まれるおそれがあるような、ゆったりとした衣類やアクセサリーの着用は避けてください。



重要

安全のために夏冬季節に関係なく適切な装備を着用してください。



重要

パッセンジャーも安全のため、適切な服を着用してください。

安全のための“ベストプラクティス”

モーターサイクルの使用前後および使用中には、人の安全を確保し、モーターサイクルを最善の状態に維持するために大切な、簡単にできる作業は必ず実行してください。

!**重要**

慣らし運転期間中は、本冊子の“使用規定”的章に記載されている指示に従ってください。

この条件が遵守されなかった結果としてのエンジンの損傷や寿命の短縮については、Ducati モーターホールディング社はいかなる責任も負うものではありません。

!**警告**

運転する上で必要なコマンド類について十分な知識がない状態で運転を行わないでください。

エンジンを始動する前に、本冊子が定める点検を必ず実施してください（ページ 165 を参照）。

!**警告**

これらの点検を怠ると、車両に損傷を与え、ライダーやパッセンジャーに重大な傷害を招くおそれがあります。

!**警告**

エンジンの始動は必ず換気の良い適切な場所で行ってください。閉めきった場所では絶対にエンジンを始動しないでください。

排出ガスは有毒です。短時間で意識を失ったり、さらには死に至る危険性があります。

走行中は適切な姿勢を保ち、パッセンジャーも同様に正しい姿勢で乗車していることを確認してください。

!**重要**

ライダーはハンドルから絶対に手を離さないでください。

!**重要**

走行中、ライダーおよびパッセンジャーは必ず足をペダルに乗せてください。

!**重要**

パッセンジャーはリアテールガード内に設けられたパッセンジャーグラブハンドルを必ず両手でしっかりと握ってください。

ページ 165 の“パッセンジャーグラブハンドル”的段落を参照してください。

重要

私有地や駐車場からの出口、または高速道路の入口などでの交差点では十分に注意してください。

重要

相手から良く見えるように心がけ、前方車両の死角に入って走行することは避けてください。

重要

右左折や走行車線を変更する際は、常に十分な余裕を持ってターンインジケーターで意思表示を行ってください。

重要

モーターサイクルはサイドスタンドを使用して、他の邪魔にならないように駐車してください。路面の悪い場所や柔らかい場所には駐車しないでください。モーターサイクルが転倒する危険があります。

重要

タイヤは定期的に点検し、特に側面に傷やヒビがないか、突起、広範囲のシミ、内部の損傷を表すような箇所がないかチェックしてください。損傷が著しい場合はタイヤを交換してください。

トレッドに入り込んだ石や異物は取り除いてください。

警告

エンジン停止後でもエンジン、エキゾーストパイプ、サイレンサーは高温な状態が続きます。身体が触れないよう十分注意し、車両を木材や木の葉などの可燃物のそばに駐車しないようにしてください。

警告

モーターサイクルの傍から離れる際は、必ずイグニッションキーを抜き取り、他人が勝手に使用できない場所にキーを保管してください。

燃料の補給

燃料の補給は屋外で、エンジンが停止している状態で行います。

給油時には絶対に喫煙せず、火気を近付けないでください。

エンジン及びエキゾーストチューブに燃料がかからないように注意してください。

給油中、燃料タンクを完全に満タンにしないでください。燃料レベルは燃料タンクの給油口より低くなければなりません。

給油中、燃料の蒸気をできるだけ吸いこまないようにし、目、皮膚、服に触れないようにしてください。



警告

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料 (E10) のみ使用することができます。

エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁じられています。こうした燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用した場合は保証の対象外になります。



警告

燃料の蒸気を長時間吸い込み気分が悪くなった場合には、屋外にとどまり、医師に相談してください。目に入った場合は大量の水で洗い流し、皮膚に触れた場合は速やかに水と石鹼で洗ってください。



警告

燃料は非常に引火しやすいため、間違って衣服に付着した場合には着替えてください。

最大積載時の運転

このバイクは最大積載時でも長距離を安全に走行できるように設計されています。

車両の重量配分は、安全基準を維持するため、また悪路走行や急な進路変更時のトラブルを避けるためにとても重要です。



警告

最大許容重量を超えないようにしてください。
また以下に記載されている車両への積載に関する注意事項をよくお読みください。

車両への積載に関する注意



重要

積み荷は車両の中心に近く、できる限り低い位置に配置してください。



重要

車両が不安定になりますので、ステアリングヘッドやフロントマッドガード部に体積や重量のかさむものを固定しないでください。



重要

バッグなどの荷物は車体にしっかりと固定してください。確実に固定されていないと、運転が不安定になる危険があります。



重要

車両の可動部分の妨げになるおそれがありますので、フレームのすき間に絶対に物を挟まないでください。



警告

タイヤの空気圧が適正であり、コンディションが良好であることを確認してください。

ページ 211 の“タイヤ”的段落を参照してください。

危険物 - 注意事項 使用済みエンジンオイル



警告

使用済みエンジンオイルが長期間わたり繰り返し表皮に触れると、上皮がんの原因になる場合があります。日常的に使用済みエンジンオイルを使用する場合、作業後すぐに水と石鹼で手を十分に洗ってください。お子様の手の届かないところに保管してください。

ブレーキダスト

ブレーキユニットを清掃する際、圧縮空気のジェットやドライブラシは絶対に使用しないでください。

ブレーキフルード



警告

車両のプラスチック、ゴム製部品、塗装された部品にブレーキフルードがかかると、部品が破損する原因になる場合があります。作業をおこなう場合は、毎回システムのメンテナンスを実施する前にきれいな布をこれらの部品の上にかけてください。お子様の手の届かないところに保管してください。



警告

ブレーキフルードは腐食性があります。万一目に入ったり肌に触れたりした場合は、流水でしっかりと洗い流してください。

クーラント

特定の条件下ではエンジンクーラントに含まれるエチレングリコールが発火し、その炎は目に見えません。エチレングリコールが発火するとその炎は目に見えず、重大なやけどの原因になることがあります。



警告

エンジンクーラントがエキゾーストシステムやエンジン部品にかかるないようにしてください。

これらの部位は高温のためクーラントを発火させる危険があり、見えない炎で焦げてしまします。クーラント(エチレングリコール)は皮膚の炎症の原因になることがあります。飲み込むと有毒です。子供の手の届かない場所に保管してください。エンジンがまだ熱いときにはラジエーターのキャップを取り外さないでください。クーラントは圧力がかかっており、やけどの原因になることがあります。

クーリングファンは自動的に作動するので手や衣服を近付けないでください。

バッテリー



警告

バッテリーは爆発性のガスを放出します。火花や炎、タバコを近づけないでください。バッテリー充電中、作業エリアが適切に換気されていることを確認してください。

車両識別番号



参考 これらの番号は車両モデルを識別するもので、部品を注文する際にも必要です。

以下の欄に自身のモーターサイクルのフレーム番号を控えておくことをお勧めします。

フレーム N.

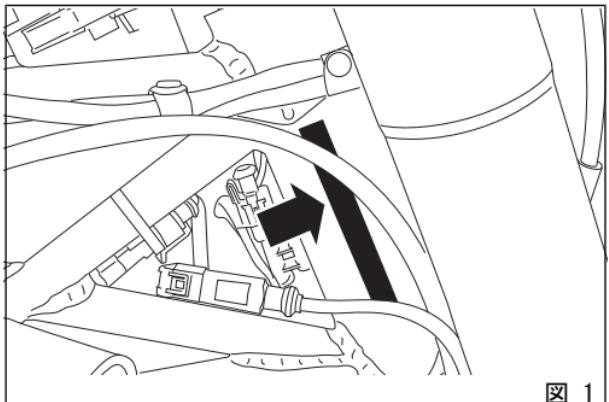


図 1

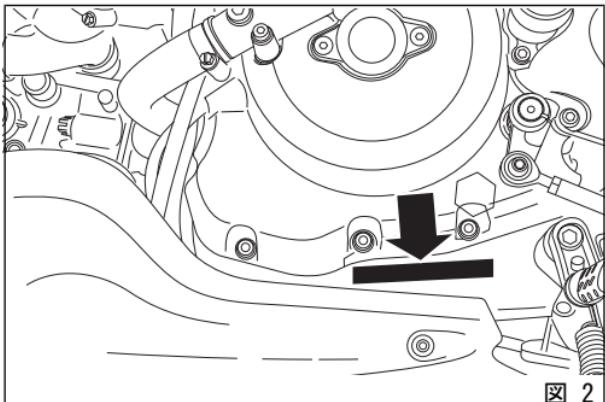
エンジン識別番号



参考 これらの番号は車両モデルを識別するもので、部品を注文する際にも必要です。

以下の欄に自身のモーターサイクルのエンジン番号を控えておくことをお勧めします。

エンジン N.



インストルメントパネル(ダッシュボード)

ハンドルバーのインストルメントパネル
ハンドルバー上のインストルメントパネルを構成する LCD ディスプレイ (1) には、メイン情報（車両速度、エンジン回転数、エンジンクーラント温度、時計）が表示されます。

1) LCD ディスプレイ

2) ニュートラルランプ N (緑)

ギアポジションがニュートラルの時に点灯します。

3) ハイビーム表示灯  (青)

ハイビーム点灯時に点灯します。

4) エンジンオイル圧警告灯  (赤)

エンジンオイルの圧力が低下すると点灯します。“Key-ON” 時に点灯しますが、エンジンを始動してから数秒後に消灯します。エンジン温度が高い時に、場合によって数秒間点灯することがありますが、回転数が上がると消灯します。

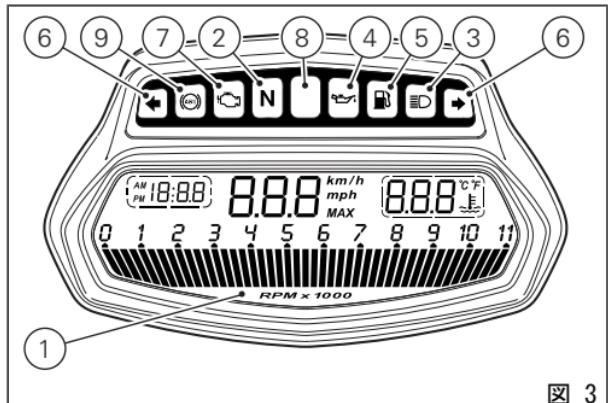


図 3



重要

エンジンオイルランプが点灯し続ける場合は、エンジンが破損するおそれがありますので車両を使用しないでください。

5) リザーブ燃料警告灯  (琥珀色)

燃料レベルがリザーブ状態になると点灯します。この際、燃料残量は約 4 リットルです。

6) ターンインジケーター表示灯  (緑)

ターンインジケーターを ON にすると点滅します。

7) “エンジン/車両診断- EOBD” ランプ  (琥珀色)

エンジンや車両にエラーがあると点灯しますが、場合によってはエンジン停止につながることもあります。

8) リミッターランプ “OVER REV” / トランクションコントロールランプ “DTC” (赤)

OVER REV ランプ	
介入なし	OFF
第一起点 - リミッタ ーが作動する回転数手 前 (*)	ON - 点灯
リミッター (レブリミ ット介入) (*)	ON - 点滅

(*) それぞれのエンジンコントロールユニットのキャリブレーションは、モデルにより、リミッターの起点値とリミッターの設定が異なる場合があります。

干渉なし	OFF
点火の進角カット	ON - 点灯
燃料噴射カット	ON - 点灯



OVER REV 作動ランプと DTC 介入ランプが同時に点灯する状態にある場合、インストルメントパネルは OVER REV 作動ランプを優先させます。

10) ABS ランプ (琥珀色) (図 3)

エンジン停止 / 走行速度 5 km/h 以下		
ランプ OFF	点滅	点灯
-	メニュー機能から ABS が解除されている (**)	ABS は起動しているが、まだ機能していない
エンジン稼動 / 走行速度 5 km/h 以下		
ランプ OFF	点滅	点灯
-	メニュー機能から ABS が解除されている	ABS は起動しているが、まだ機能していない
エンジン稼動 / 走行速度 5 km/h 以上		
ランプ OFF	点滅	点灯
ABS 機能作動中	メニュー機能から ABS が解除されている	問題発生のため、ABS は解除され作動していない

(**) エンジン始動後もランプが点滅する時のみ、ABS が実際に解除されていることを示します。

LCD - メイン機能

- 1) スピードメーター
走行速度を表示します。
- 2) タコメーター
1分間のエンジン回転数を表示します。
- 3) 時計
- 4) クーラント温度計
エンジンクーラント温度を表示します。



重要
温度が最高値に達した時は、エンジンが破損するおそれがありますので車両を使用しないでください。

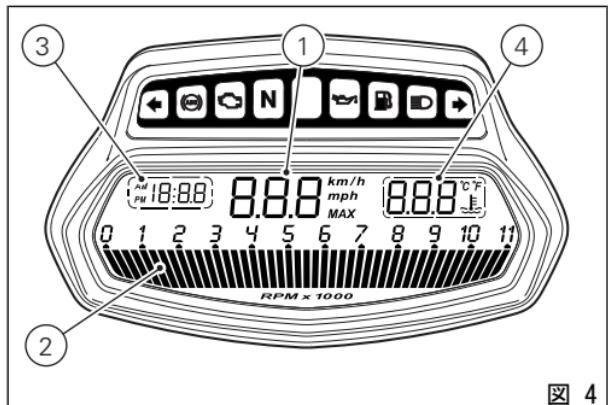


図 4

車両スピードインジケーター

この機能は走行速度 (Km/hまたはmphの選択が可能) を表示します。

インストルメントパネルは実際の速度 (km/h) 情報を5%増大させたデータを表示します。

表示可能最高速度は299 km/h (186 mph) です。

299 Km/h (186 mph) 以上の場合、“---”(連続表示) が表示されます。



インストルメントパネルがデータを受信していない場合、“---”(点灯) が表示されます。

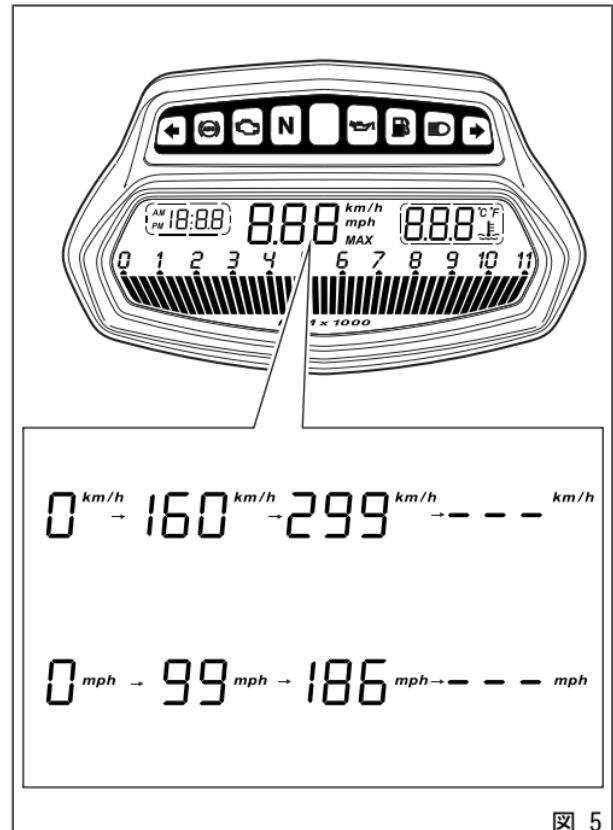


図 5

エンジン回転数(RPM) インジケーター

この機能によりエンジン回転数が表示されます。
インストルメントパネルにはエンジン回転データが
表示されます。
左から右に見えるデータは回転数を表します。

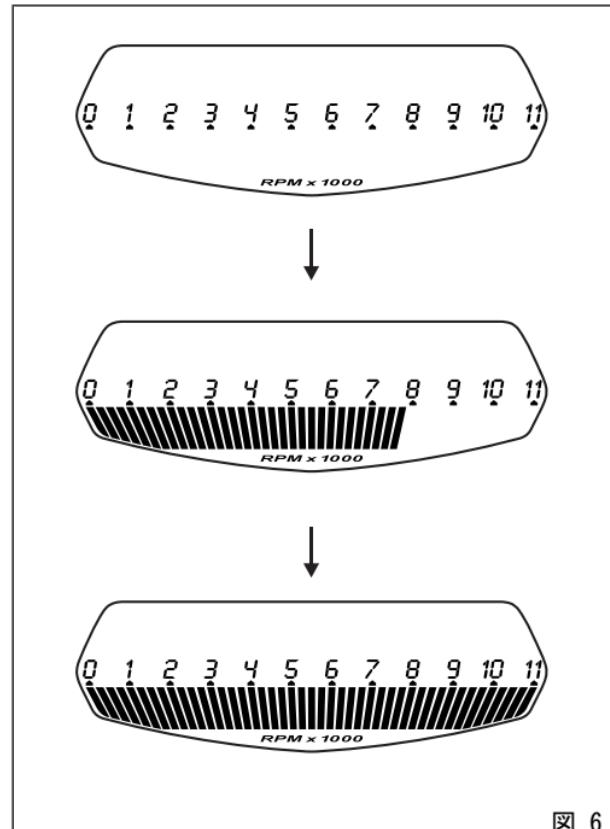


図 6

時計

この機能では時刻を表示します。
時刻は常に以下のように表示されます。

- AM 0:00 から 11:59
- PM 12:00 から 11:59

バッテリー電源が中断された場合 (Batt-OFF)、電源回復後の起動時 (Key-ON) に時計はリセットされ、自動的に “0:00” から再開します。

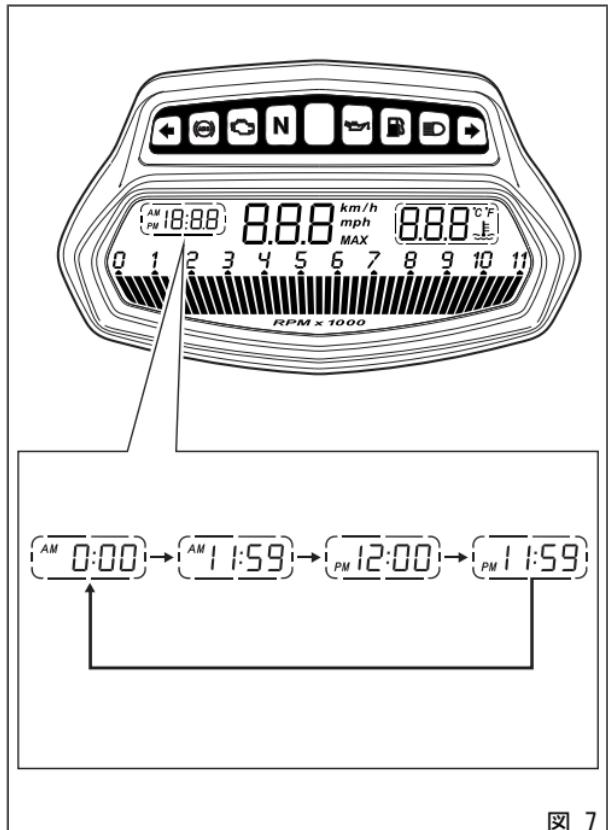


図 7

エンジンクーラント温度

エンジンクーラントに関する表示機能について記述します。

温度測定単位の選択が可能です。 (° C又は° F)。

以下のとおり、データが表示されます：

- データが- 39° C から+39° C (-38° F から+102° F) の場合、インストルメントパネルには無点滅で“L0”と表示されます。
- データが+40° C から+120° C (+104° F から+248° F) の場合、インストルメントパネルにはデータが無点滅で表示されます。
- データが+121° C (+250° F) 以上の場合、ディスプレイ上には“HI”が点滅表示されます。

参考

センサー “エラー” の場合は “---” が点滅表示され、同時に “エンジン/車両診断ランプ - EOBD” が点灯します。

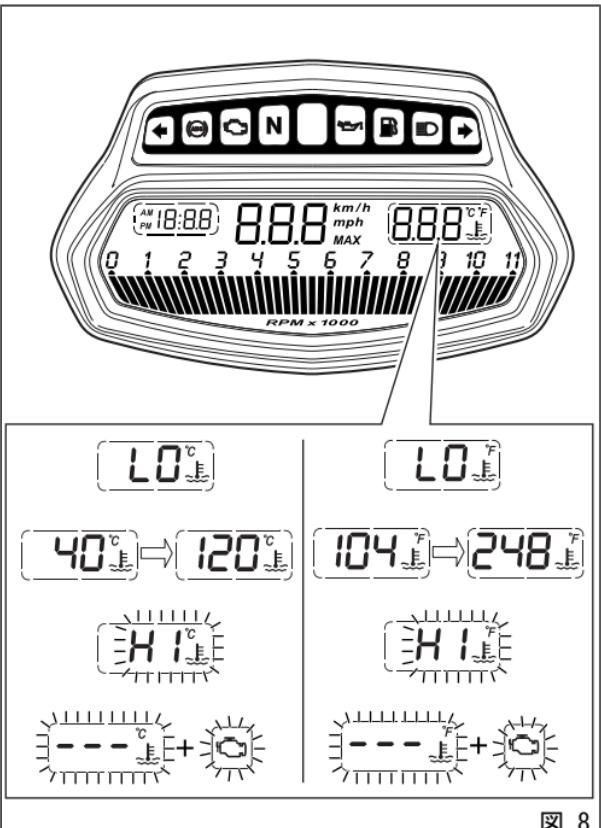


図 8

ディスプレイの背景色(自動調整)

インストルメントパネルは外の光の強さに応じて自動的に背景の色を調整します。

センサーが“弱い光”(夜間)を検知すると背景は黒色に、一方“強い光”(昼間)を検知すると背景は白色になります。

この機能はページ 87の“設定”(“setting”)メニューの“BACK LIGHT - DASHBOARD 1”でパーソナライズし、NIGHTまたはDAYモードを常時設定する(またはAUTOモードに戻す)ことができます。

タンクのインストルメントパネル

タンク上のインストルメントパネルを構成する TFT 液晶カラーディスプレイはタンクフェアリングの上に設置されており、トリップ情報（設定ライディングモード、オドメーター、燃費、平均速度など）のほか、各種機能の起動や調整に関する設定メニューが表示されます。

- 1) メニュー 1 (TOT、TRIP1、TRIP2、RANGE)
- 2) メニュー 2 (CONS. AVG.、CONS.、SPEED AVG.、TRIP TIME、AIR) (作動時)
- 3) ギア/ニュートラルの表示
- 4) フューエルレベル表示アイコン
- 5) 現在の設定ライディングモードのエンジン (Engine) 設定表示
- 6) 現在の設定ライディングモード
- 7) 現在の設定ライディングモードでの DTC (トランクションコントロール) 介入レベルの表示
- 8) メニュー 2 の下に表示される機能に関するアイコン
- 9) サイドスタンド開表示

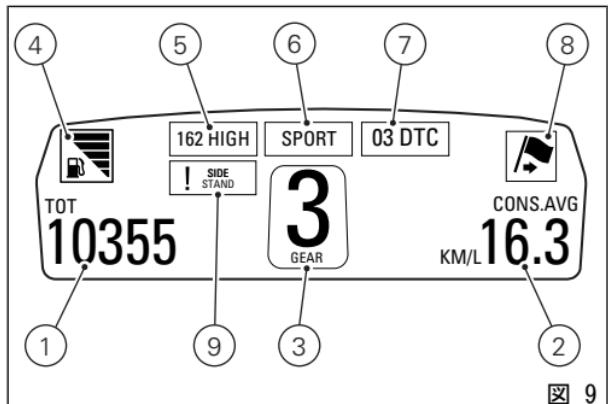


図 9

機能ボタン

1) コントロールボタン

インストルメントパネルのパラメーター設定および表示に使用するボタン “▲”。

2) コントロールボタン

インストルメントパネルのパラメーター設定および表示に使用するボタン “▼”。

3) フラッシュヤーランプボタン

フラッシュヤーランプ機能ボタンは LAP 機能に使用する場合もあります。

4) 解除ボタン (RESET)

このボタンは通常ターンインジケーターの解除に使用しますが、インストルメントパネルのリセット/決定とライディングモードの起動にも使用します。

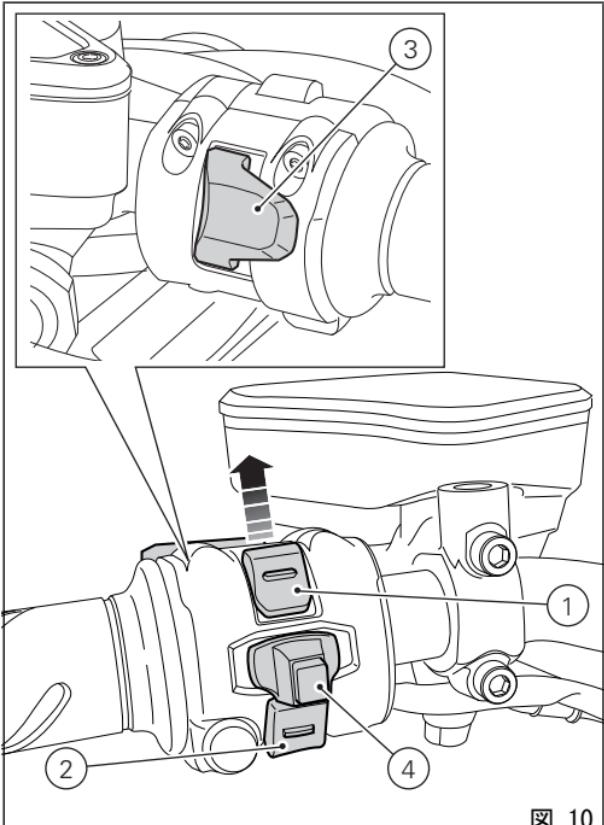


図 10

TFT - パラメータ設定/表示



警告

インストルメントパネルでの操作は必ず車両が停止している時に行ってください。走行中にインストルメントパネルの操作は絶対に行わないでください。

チェック終了後、インストルメントパネルは左側にオドメーター (TOT) を、右側に平均燃費を“メイン”情報として常に表示します（メニュー 2 の機能を解除していない場合）。

“メイン”画面には以下の情報が表示されます。

- 設定ライディングモード (Riding Mode)
- ギア表示 (GEAR)
- メニュー 1オドメーター (TOT)
- メニュー 2平均燃費 (CONS. AVG)

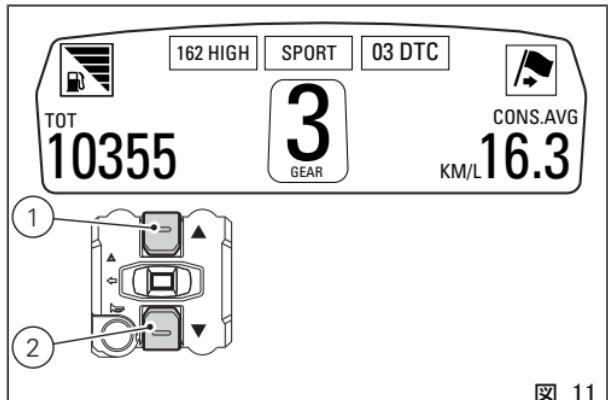


図 11

ボタン (1) を押すと、メニュー 1 の以下の機能に表示を切り替えることができます。

- TRIP1 - トリップメーター 1
- TRIP2 - トリップメーター 2
- RANGE - 推定航続可能距離の表示

ボタン (2) を押すと、メニュー 2 の以下の機能に表示を切り替えることができます。

- CONS. - 瞬間燃費
- SPEED AVG - 平均スピード
- TRIP TIME - 走行時間

- AIR - 外気温

“MENU 2” の機能の設定メニューから、メニュー 2
の表示を解除することができます。

総走行距離“オドメーター”表示

この機能は総走行距離を表示します（設定により Km またはマイル）。

Key-ON 時、システムは自動的にこの機能に入ります。

数値は永久的に記録され、リセットすることはできません。

数値が 199999 Km（または 199999 マイル）を越えると、表示は “199999” のまま残ります。

電源の供給が中断（バッテリー OFF）してもデータは消去されません。

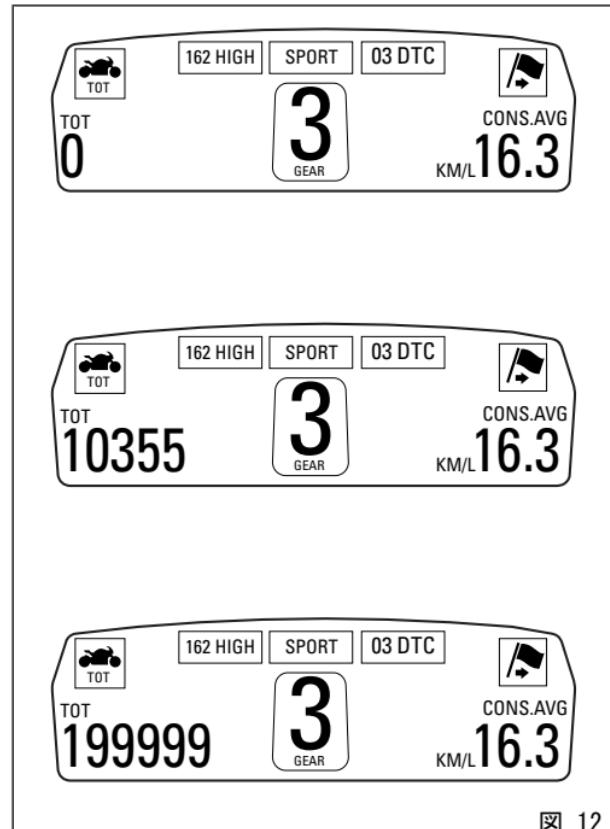


図 12

“TRIP 1”メーター表示

この機能は部分走行距離を表示します（設定によりKmまたはマイル）。この機能が表示されている時にボタン（1）を3秒間押すと、データはリセットされます。数値が9999.9を超えると、トリップメーターはリセットされ、自動的に再びゼロからカウントされます。

参考

このデータがリセットされると、“平均燃費”、“平均速度”、“走行時間”機能もリセットされます。

参考

“SET UNITS”機能の設定メニューでシステムの測定単位を変更した場合、もしくは電源供給が中断（バッテリーOFF）された場合は、その時点でこの機能はリセットされ、再びゼロから走行距離のカウントが始まります（新しく設定された単位で）。

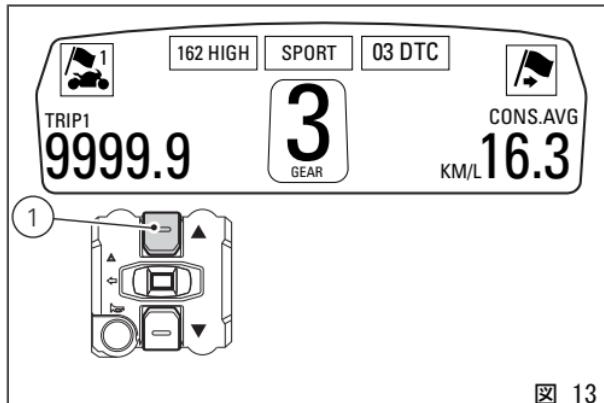


図 13

"TRIP 2" メーター表示

この機能は部分走行距離を表示します（設定により Km またはマイル）。この機能が表示されている時にボタン（1）を 3 秒間押すと、データはリセットされます。数値が 9999.9 を超えると、トリップメーターはリセットされ、自動的に再びゼロからカウントされます。



"SET UNITS" 機能の設定メニューでシステムの測定単位を変更した場合、もしくは電源供給が中断（バッテリー OFF）された場合は、その時点でこの機能はリセットされ、再びゼロから走行距離のカウントが始まります（新しく設定された単位で）。

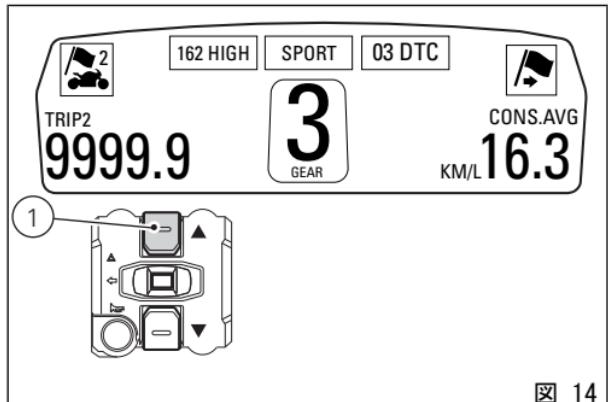


図 14

"RANGE" インジケーター - 推定航続可能距離

この機能は、フューエルタンク内センサーが検知する燃料残量と直前の平均燃費をもとに、推定航続可能距離を表示します。

EU バージョンでは 0 km ~ 340 km (近似値)、USA バージョンでは 0 km ~ 320 km (近似値) で表示されます。

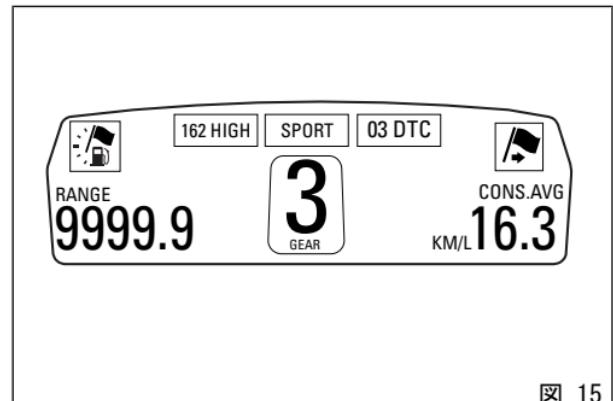


図 15

"CONS. AVG" - 平均燃費表示

この表示は車両の平均燃費を表します。

TRIP 1 が最後にリセットされてからの燃料消費量と走行距離から計算されます。TRIP 1 がリセットされると、データがリセットされ、最初のデータはリセットから 10 秒後に表示されます。数値がディスプレイされない最初の 10 秒間は “---” が表示されます。

データは “L / 100”（リットル / 100 km）の単位で表示されます。

停車中であってもエンジンが作動している場合は計算されます（車両停車中でエンジンが停止している間は考慮されません）。



図 16

参考

設定メニューの “SET UNITS” 機能から、燃費の単位を L/100 から km/L に変更することができます（平均燃費、瞬間燃費を同時に変更）。

"CONS." - 瞬間燃費表示

この表示は車両の瞬間燃費を表します。

直前の 1 秒間の消費燃料と走行距離から計算されます。データは "L / 100 (リットル / 100 km)" 単位で表示されます。

数値はエンジンが作動しており車両が動いている場合にのみ算出されます（車両速度がゼロ、あるいはエンジン停止状態で車両が停車している間は算出されません）。

算出されない場合、ディスプレイ上に “-.-.” が表示されます。

参考

設定メニューの "SET UNITS" 機能から、燃費の単位を L/100 から km/L に変更することができます（平均燃費、瞬間燃費を同時に変更）。

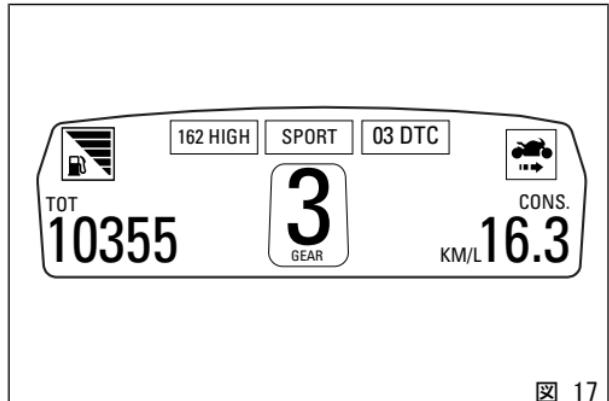


図 17

“SPEED AVG” - 平均スピード表示

車両の平均速度が表示されます。TRIP 1 が最後にリセットされてからの走行距離と時間から計算されます。TRIP 1 がリセットされると、データがリセットされ、最初のデータはリセットから 10 秒後に表示されます。数値がディスプレイされない最初の 10 秒間は “---” が表示されます。

停車中であってもエンジンが作動している場合は時間が計算されます（車両停車中でエンジンが停止している時間は考慮されません）。車両のスピード表示に対応させるため、5% 増大させた計算データが表示されます。



“SET UNITS” 機能の設定メニューで Km/h (および Km) から mph (およびマイル) に “スピード” (および “距離”) の単位を変更することができます。

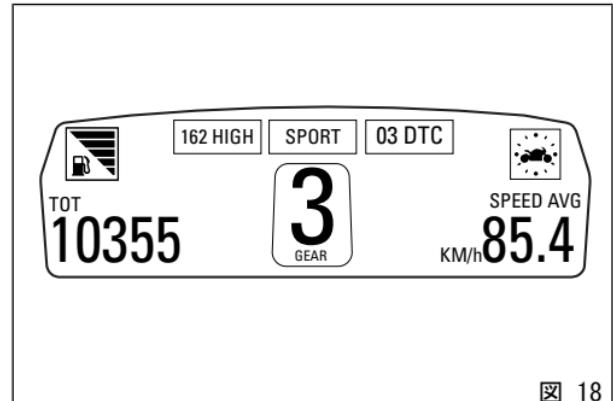


図 18

“TRIP TIME” - トリップタイム表示

この機能は車両の走行時間を表示します。TRIP 1 が最後にリセットされてからの走行時間から計算されます。TRIP 1 がリセットされると、データもリセットされます。

車両が停車していてもエンジンが作動中であれば計算されます（停車中でエンジンが停止している時間は自動的に止まり、エンジンが作動すると自動的に時間計測を再開します）。

表示時間が “511:00” (511 時間 00 分) を超えると、カウンターは自動的にリセットされ、再びゼロからカウントを始めます。

参考

スピード（および距離）、または燃費に関する値の単位が設定メニューの “SET UNITS” 機能から変更された場合、走行時間のデータは自動的にリセットされます。

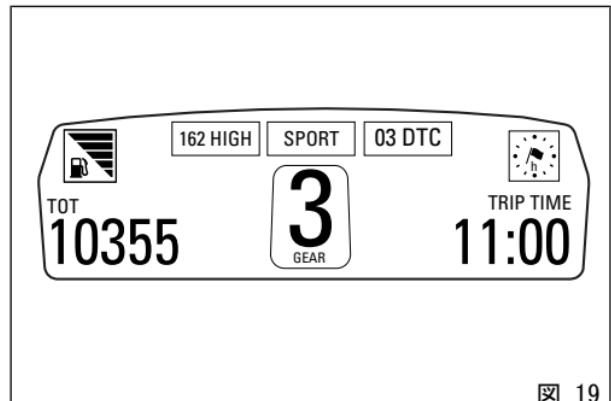


図 19

"AIR" - 外気温表示

この機能では外気温度を表示します。

温度表示範囲 : -39°C ~ $+124^{\circ}\text{C}$ 。

センサーフault (FAULT) の場合 (-40°C 、 $+125^{\circ}\text{C}$ または電源 OFF) は "---" が固定表示され、続けて "車両/エンジン診断 - EOBDランプ" が点灯します。



参考 エンジンの熱が停車中の車両の温度表示に影響を与える場合があります。

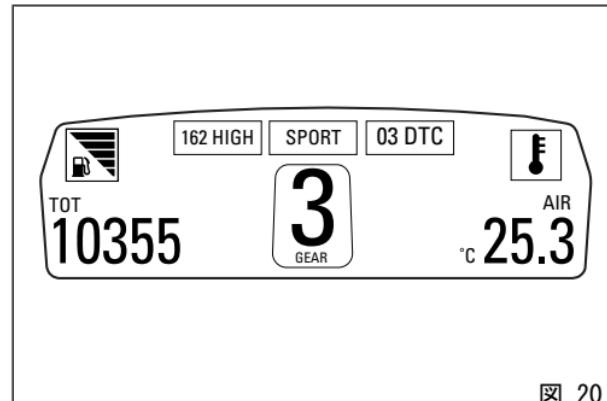


図 20

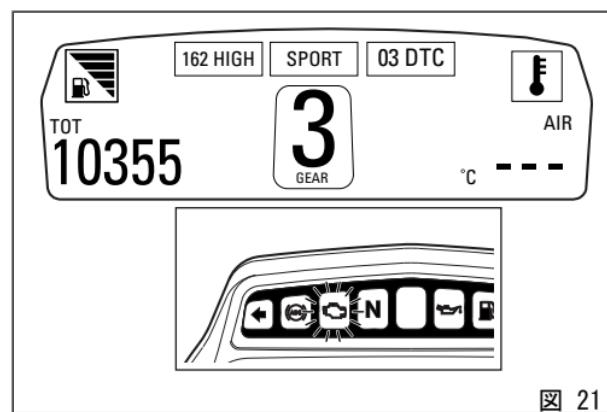


図 21

4° C (39° F) まで温度が下がった場合、氷結危険の注意が表示されます。6° C (43° F) まで温度が上がると表示は解除されます。

! 警告

気温が 4° C (39° F) 以上でも道路が氷結している可能性があります。外気温が“低い”時、特に日陰や橋の上では細心の注意を払って運転してください。

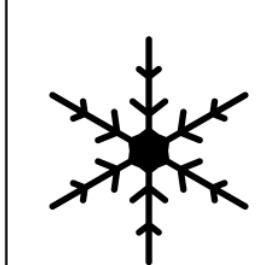


図 22

ギア表示

この機能はギア (A) を表示します。

インストルメントパネルは選択ギア、もしくはニュートラル “N” を表示します。

参考

ギアセンサーエラーの場合は “-” (点灯) が表示されます。

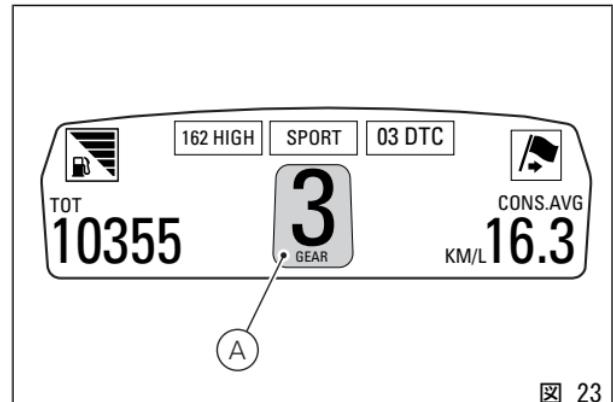


図 23

“設定ライディングモード”表示

この機能は車両に設定されている“ライディングモード”を表示します。

次の3通りの“ライディングモード”から選択できます。SPORT、TOURING、URBAN。

それぞれのライディングモードを“RIDING MODE”機能から変更することができます。

ライディングモード (SPORT、TOURING、URBAN) (A) を表示する背景は、ライディングモードに関連したパラメーターがデフォルト値（ドゥカティ設定値）の場合は青色、“RIDING MODE”機能の設定メニューで1つ以上のパラメーターが変更（パーソナライズ）された場合は黄色になります。

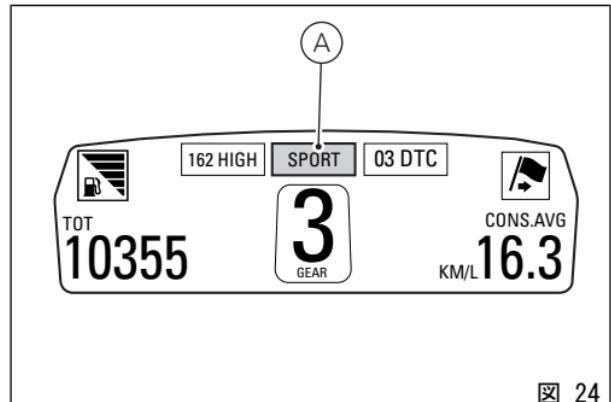


図 24

“LAP”機能ON/OFF表示

この機能は “LAP”（ラップタイム）機能が ON の状態の時のみ表示されます。

“LAP”の文字が消えている場合は、OFF 状態を表します。

“LAP”機能の設定メニューで “LAP” 機能を ON にすることができます。

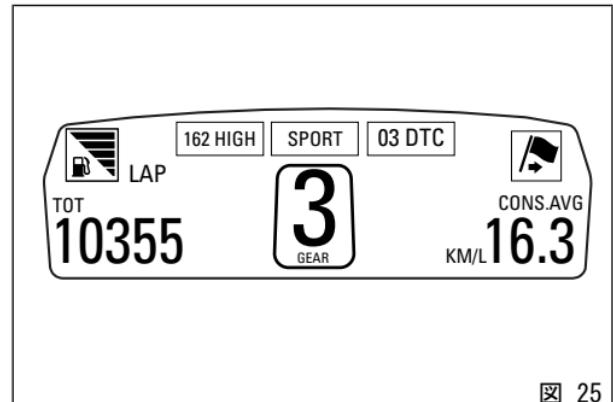


図 25

"SIDE STAND" インジケーター

この表示によりサイドスタンドが開いていることをライダーに知らせます。

CAN ラインにサイドスタンドセンサーエラーが検知すると、スタンドが下りている/開いている警告

"SIDE STAND" をディスプレイに表示し、EOBD ランプが点灯します。ディスプレイには該当するエラー "Side stand sensor" が表示されます。

インストルメントパネルがサイドスタンドの状態に関するデータを受信しない（フレーム喪失）場合、表示を点滅させて不明な状態を表します。

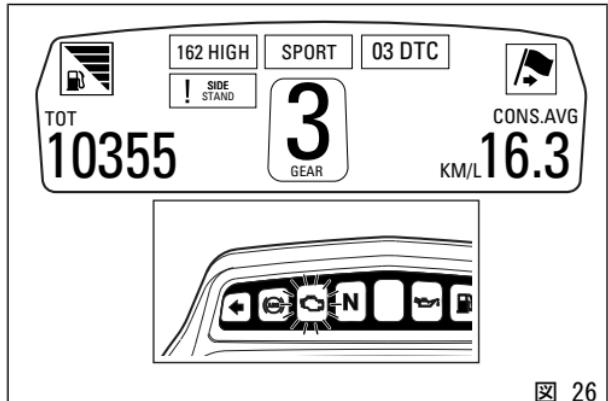


図 26

“ライディングモード”機能

この機能で車両のライディングモードの変更が可能です。

ライディングモードには、それぞれ異なるトラクションコントロール (DTC - Ducati Traction Control) レベル、エンジンの異なるパワーデリバリーと出力 (Engine) が設定されています。

車両のライディングモードを変更するには、リセットボタン (4) を一度だけ押し、ディスプレイに “RIDING MODE” メニューを表示させます。

同じリセットボタン (4) を何度も押すことで、好みのライディングモードの選択が可能です。ライディングモードの決定には同ボタンを 3 秒間押し続けます。

スロットルグリップが閉じられている（車両が停止している）状態の時は、ライディングモードは即座に変更されます。スロットルグリップが開いている（車両が動いている）状態の時は、“CLOSE THROTTLE TO ACTIVATE” のメッセージがディスプレイに表示され、スロットルを閉じる必要があることを知らせます。メッセージは 5 秒間表示され、新しいライディングモードを有効にするにはメッセージ点灯中にスロットルを閉じてください。

スロットルが閉じられず 5 秒経過すると、変更プロセスはキャンセルされます（無変更のまま）。

“RIDING MODE” メニューが表示され、その後の 10 秒間にリセットボタン (4) を押さなかった場合、インストルメントパネルは変更を行わずに画面を終了します。



警告

ライディングモードの変更は車両停止時に行うことをお勧めします。運転中にライディングモードの変更を行なう場合は十分にご注意ください（低速での変更をお勧めします）。

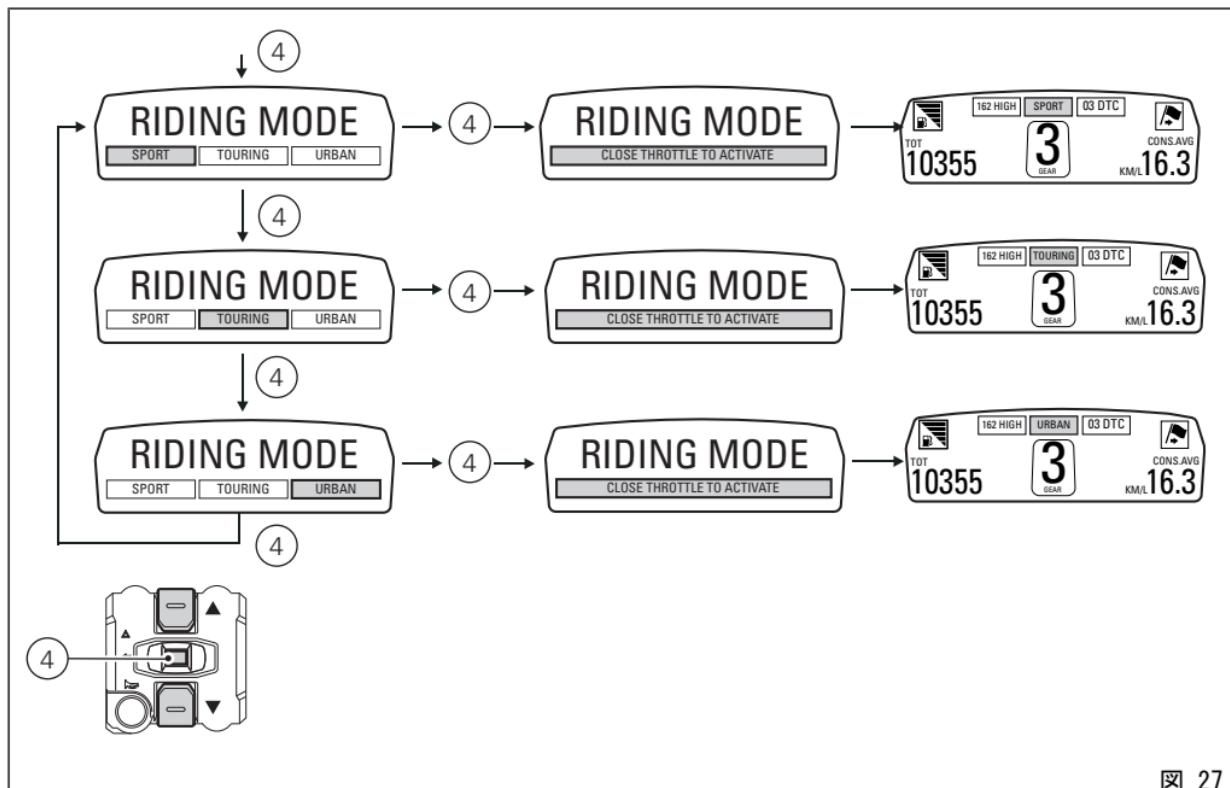


图 27

メンテナンス時期表示

この機能は車両の走行距離から、Ducati オフィシャルサービスセンターにてゼネラルメンテナンスもしくはオイル交換の必要性を表示します。

メンテナンス作業表

サイン	走行距離	走行マイル	カウントダウン -1000 DESMO SERVICE	カウントダウン -1000 OIL SERVICE	DESMO SERVICE	OIL SERVICE
1	1000	621				●
2	11000	6835		●		
	12000	7456				●
3	23000	14291	●			
	24000	14912			●	
4	35000	21748		●		
	36000	22369				●
5	47000	29204	●			
	48000	29826			●	
6	59000	36661		●		
	60000	37282				●
7	71000	44117	●			

サイン	走行距離	走行マイル	カウントダウン -1000 DESMO SERVICE	カウントダウン -1000 OIL SERVICE	DESMO SERVICE	OIL SERVICE
	72000	44739			●	
8	83000	51574		●		
	84000	52195				●
9	95000	59030	●			
	96000	59651			●	

最初の表示 - OIL SERVICE 1000 Km

オドメーターが 1000 Km (600マイル) に達すると最初の表示が起動します。

表示（赤色）が Key-ON 毎に“大きく” 10 秒間表示され（A）、その後“リセット”されるまで常に“小さく”表示されます（B）。



警告

メンテナンスを実施する Ducati 正規ディーラーもしくはサービスセンターでのみディスプレイの表示をリセットすることができます。

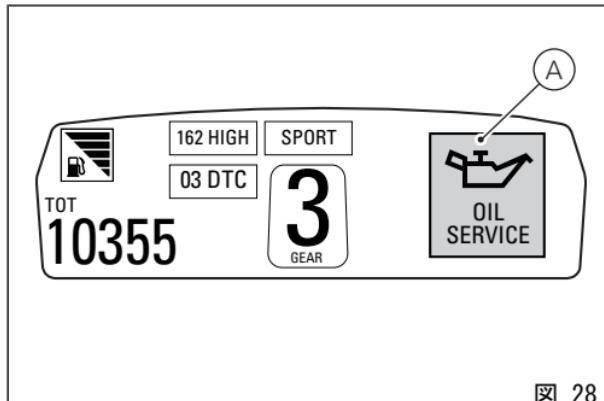


図 28

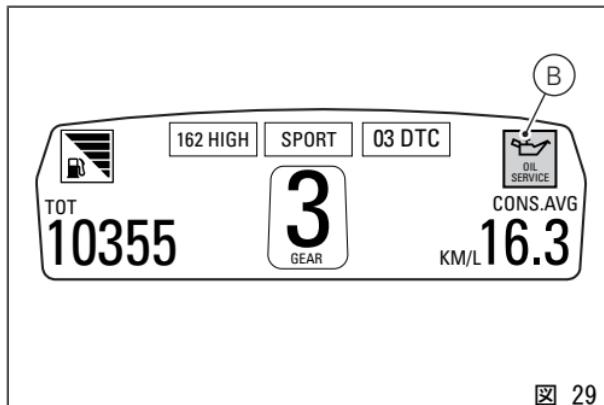


図 29

SERVICEまでの残りの距離の表示

OIL SERVICE (1000 Km 時) 表示の“初回”リセット後、次に行う点検 (OIL SERVICE “A”と“B”、または DESMO SERVICE “C”と“D”) および残りの走行距離が Key-ON するたび表示されます。

表示 (A) と (C) (緑) は、Key-ON 毎に 2 秒間表示されます。一方、点検までの距離が 1000 Km を切ると、表示 (B) と (D) (琥珀色) が Key-ON 毎に 5 秒間表示されます。



警告

メンテナンスを実施する Ducati 正規ディーラーもしくはサービスセンターでのみディスプレイの表示をリセットすることができます。

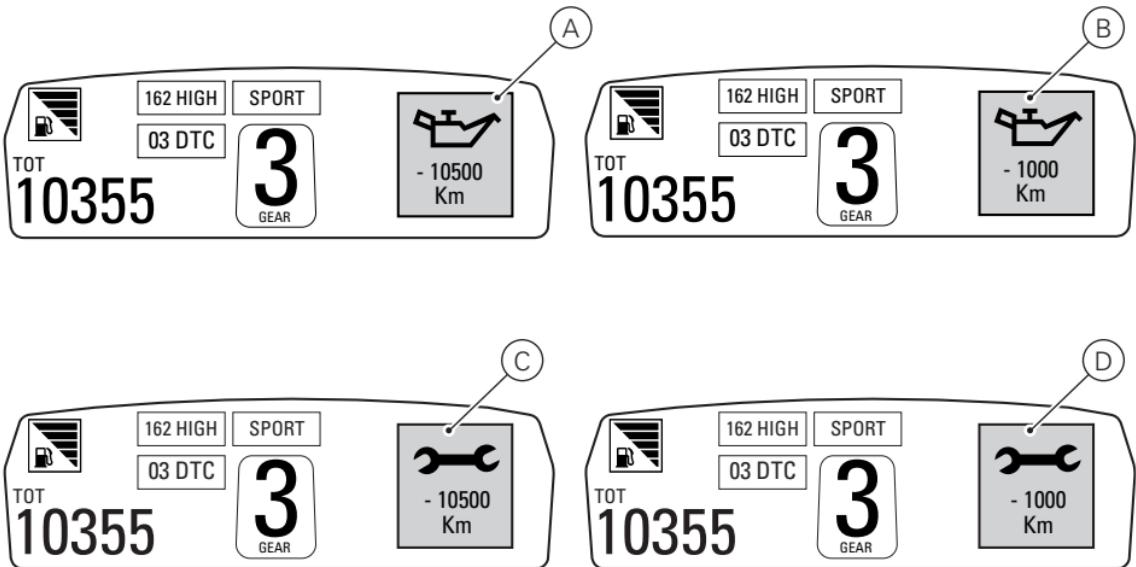


図 30

SERVICEの距離到達の表示

メンテナンスをおこなう規定値に達すると、Key-ON 每に行うべき点検内容 (OIL SERVICE "A" と "B"、またはDESMO SERVICE "C" と "D") が表示されます。表示 (赤色) が Key-ON 每に "大きく" (A) と (C) が10 秒間表示され、その後 "リセット" されるまで常に小さく (B) と (D) 表示されます。表示がリセットされると、次に行う点検と残りの走行距離の表示に戻ります (前章参照)。



警告

メンテナンスを実施する Ducati 正規ディーラーもしくはサービスセンターでのみディスプレイの表示をリセットすることができます。

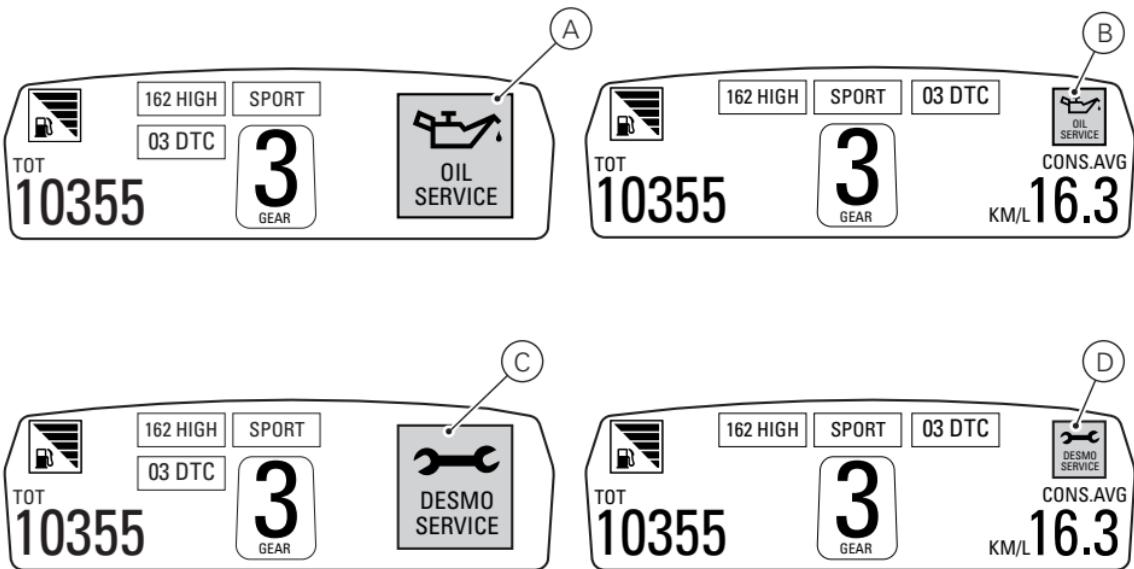


図 31

警告表示（アラーム/信号）

インストルパネルは車両の正常な機能にとって危険ではない警告/不具合をリアルタイムで表示します。Key-ON（チェック終了）時、1つ以上の“警告”が存在する場合にそれらを表示します。“警告”に対応する表示（琥珀色）が10秒間はっきりと表れ（A）、その後小さく表示されます（B）。

複数の警告マークがある場合、3秒ごとに表示が変わります。

参考

1つ以上の“警告”が存在する場合、警告ランプは点灯しません。

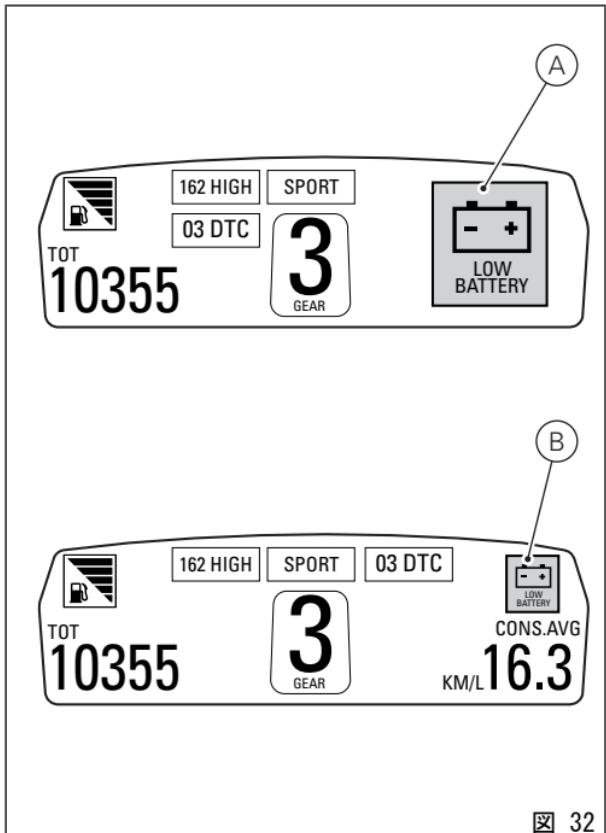


図 32

“警告”は以下のマークで表示されます。

- バッテリーレベル “LOW” (LOW BATTERY)
- トランクションコントロール “OFF” (DTC OFF)
- Hands Free (HF) キー “無感知”
- Hands Free (HF) キーバッテリーレベル “LOW”
- エンジンクーラント温度 “高” (HIGH TEMP)
- ステアリングロック解除エラー
- ステアリングロック状態 (アンロックエラー)

バッテリーレベル“低”

この“警告”的表示(琥珀色)は車体のバッテリーレベルが低いこと示しています。
バッテリー電圧が11.0ボルト以下の場合に表示されます。



参考

この場合、車両を始動できなるおそれがありますので、正規チャージャーで速やかにバッテリーを充電してください。

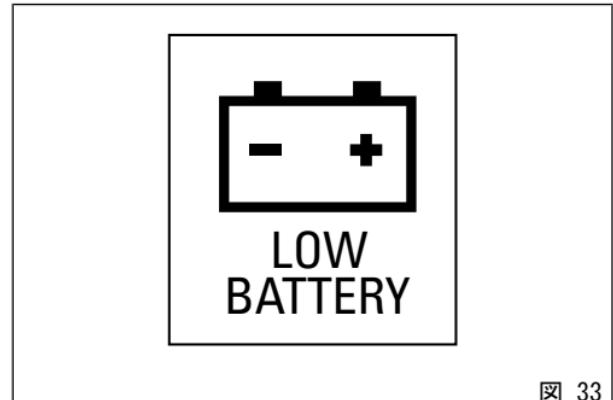


図 33

トラクションコントロール(DTC) OFF

この“警告”的表示(琥珀色)はDTC(Ducati Traction Control)がOFFであることを示しています。



参考

この場合、トラクションコントロールが ON の場合と車両の挙動が異なりますので、運転には十分注意してください。

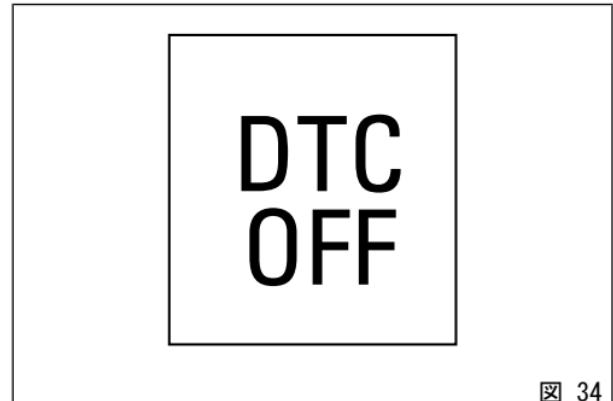


図 34

Hands Free (HF) キー識別不可

この警告(琥珀色)はHands Freeシステムが車両付近にアクティブキーを感知できない場合に表示されます。



参考

この場合、アクティブキーが実際に車両付近に存在するか(キーを紛失していないか)、あるいはアクティブキーが正しく作動しているかを確認してください。



図 35

Hands Free (HF) キーのバッテリーレベル“低”

この警告(琥珀色)の表示は、情報のやり取り、車両の起動をおこなうアクティブキーのバッテリーが切れかかっていることをHands Freeシステムが感知したことを示しています。



参考

この場合、早急に電池を交換してください。

バッテリーの交換については、ページ 115。



図 36

エンジンクーラント温度 “高”

この“警告”(赤)はエンジンクーラント温度が高温になっていることを表します。

温度が 121°C (250°F) まで上昇すると作動します。



参考

この場合、速やかに車両を停止してエンジンを切ってください。ファンが作動していることを確認してください。



図 37

ステアリング解除エラー - ステアリング ブロック未解除

この“警告”(琥珀色)はHands Freeシステムがステアリングロックを解除できなかった場合に表示されます。



警告

この場合は、ハンドルレバーを押しながら車両の停止と再起動 (Key-OFF/Key-ON) を行ってください。もしマークが消えない(つまりステアリングロックが解除されない)場合は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。



図 38

インストルメントパネル診断

この機能は車両の異常を点検します。インストルメントパネルは、車両の異常（エラー）をリアルタイムで表示します。

Key-ON（チェック終了）時、1つ以上の“エラー”を赤色で表示します（検出された場合のみ）。“エラー”に対応する表示（赤）が10秒間はっきりと表示（A）、その後小さく表示されます（B）。

複数のエラーが存在する場合、3秒ごとに表示が変わります。1つ以上のエラーが発生すると、ハンドルバーのインストルメントパネルに必ず“エンジン/車両診断-E0BD”ランプが点灯します。

次に表示されるエラーの一覧を記載しています。

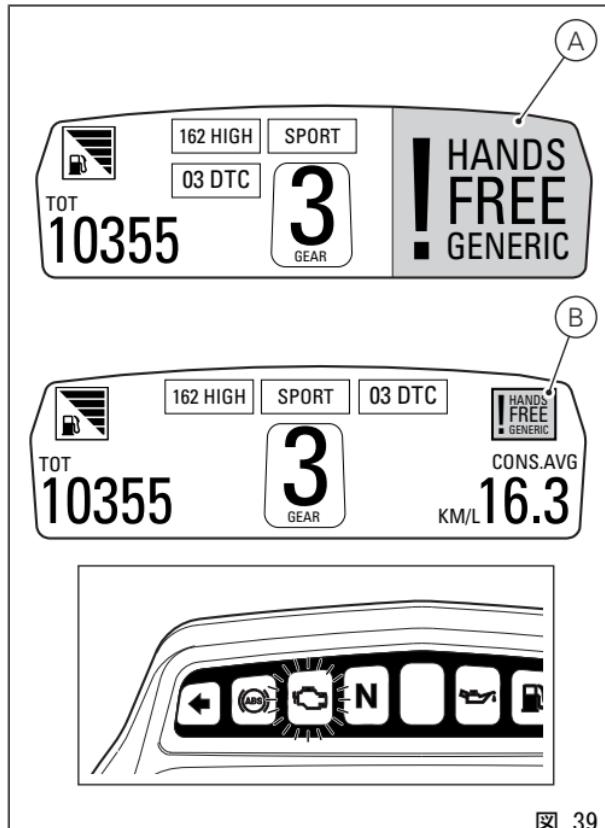


図 39



警告

ひとつ以上のエラーが表示される場合には、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。

警告ランプ	エラーメッセージ	エラー
	BBS/DTC	Black Box ユニット / トラクションコントロール
	GEAR SENSOR	ギアセンサー
	FUEL SENSOR	燃料レベルセンサー
	SPEED SENSOR	スピードセンサー
	UNKNOWN DEVICE	未確認コントロールユニット

警告ランプ エラーメッセージ		エラー
	SIDE STAND	サイドスタンドスイッヂエラー
	DEVICE DSB SLAVE	ハンドルバーインストルパネル無作動
	DEVICE DDA	DDA エラー
	DEVICE DBS MASTER	タンクインストルパネル無作動
	FAN	ファンリレー
	CAN LINE	CAN ライン

警告ランプ エラーメッセージ		エラー
 ! BATTERY	BATTERY	バッテリー電圧 (HIGH もしくは LOW)
 ! ABS	DEVICE ABS	ABS コントロールユニット無作動
 ! STOP LIGHT	STOP LIGHT	リアストップライト
 ! ECU	DEVICE ECU	ECU 無作動
 ! ECU	ACCELER POSITION	不正なアクセルポジション
 ! ECU	ETV	モーターリレーまたはスロットルモーター無作動

警告ランプ エラーメッセージ		エラー
! ECU	PRESSURE SENSOR	圧力センサー
! ECU	ENGINE TEMP.	エンジン温度センサー
! ECU	T-AIR SENSOR	気温センサー
! ECU	FUEL INJECT.	インジェクションリレー
! ECU	COIL	コイル
! ECU	INJECTOR	インジェクター

警告ランプ エラーメッセージ		エラー
! ECU	PICK UP	エンジン回転数/タイミングセンサー
! ECU	LAMBDA	ラムダセンサー
! ECU	ECU GENERIC	ECU エラー
! ECU	KEY	HF 通信に問題発生
! ECU	HANDS FREE GENERIC	Hands Free コントロールユニットエラー

設定メニュー

このメニューはいくつかの車両機能をON/OFF及び設定することができます。

“設定メニュー”に入るには、ボタン(2)を3秒間押し続けます。

このメニュー内で操作しているときには、他の機能を表示することができません。



重要

安全上の理由から、車両スピードが 20 Km/h 以下の時のみ設定メニューに入ることができます。このメニュー内にいる時に車両スピードが 20 Km/h を超えると、インストルメントパネルは自動的に“メイン”画面に戻ります。

設定メニューの項目は次の通りです。

- RIDING MODE
- MENU 2
- BACK LIGHT
- RPM
- PIN CODE
- LAP
- BATTERY
- CLOCK

- SET UNITS
- ABS
- EXIT

設定メニューから出るには、ボタン(1)またはボタン(2)を使用して“EXIT”を選択し、リセットボタン(4)を押します。

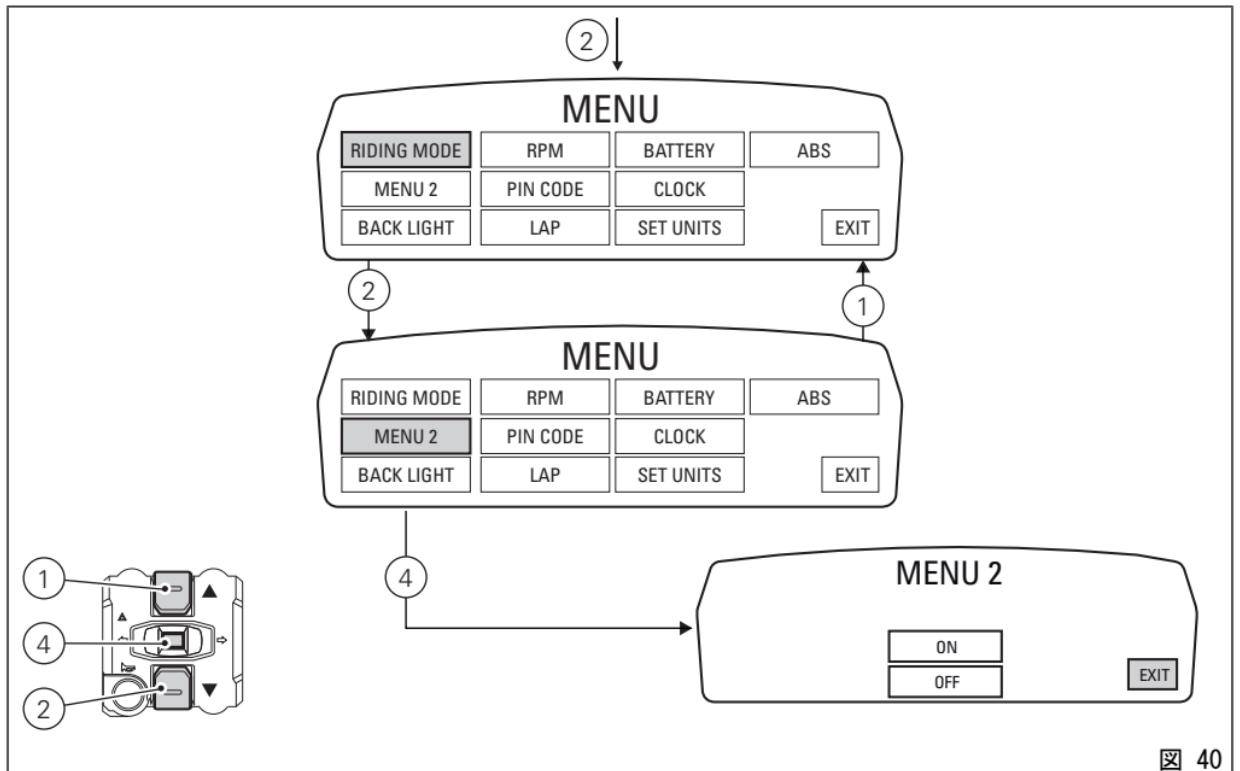


図 40

“ライディングモード”的パーソナライズ
この機能でそれぞれのライディングモードの設定が
可能になります。

この機能に入るには、“設定”メニュー ページ 71
を表示します。ボタン (1) または (2) を使用して
“RIDING MODE”を選択し、リセットボタン (4) を押
して次のページに進みます。

この機能に入ると、ディスプレイには 3 種類のライ
ディングモードが表示されます。パラメーターを変
更するには、ボタン (1) または (2) で変更したい
ライディングモードを選択し、リセットボタン (4)
を押して決定します。

変更可能なパラメーターは、“DTC”(Ducati Traction
Control) および “ENGINE”(エンジン) です。

変更したパラメーターはバッテリーを切り離しても
リセットされません。

DTC パラメーターの変更は、“DTC (ドゥカティトラ
クションコントロール)” ページ 76 の章を参照し
てください。

エンジンパラメーターの変更は、“ENGINE (エンジン
出力コントロール)” ページ 81 の章を参照してく
ださい。

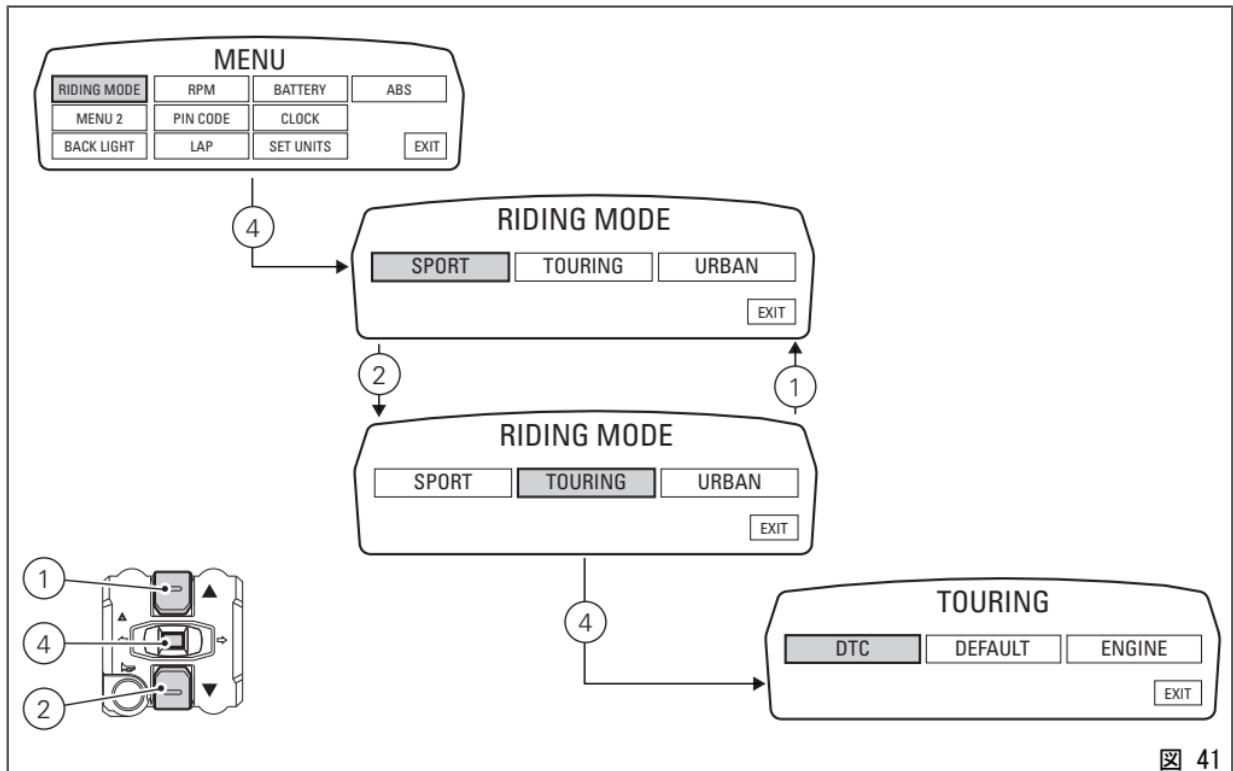
それぞれのライディングモードを Ducati 初期設定
に戻すには、“DEFAULT”機能を使用します。

初期設定パラメーターを回復するには、“DEFAULT
(Ducati 初期設定修復)” ページ 83 の章を参照し
てください。



参考

パラメーターをひとつ以上変更 (パーソナライ
ズ) して設定メニューを終了すると、“メイン”画面
のライディングモード表示 (SPORT、TOURING、
URBAN) の “背景” が黄色になります。



参考

パラメーターが変更（パーソナライズ）されていない場合、または“DEFAULT”機能を使用してパラメーターが修復された場合は、設定メニューを終了すると、“メイン”画面のライディングモード表示（SPORT、TOURING、URBAN）の“背景”が青色になります。

警告

パラメーター変更は、車両のセットアップに充分慣れている方のみにお勧めします。意図せず変更してしまった場合は、“DEFAULT”機能を使用してパラメーターを修復してください。

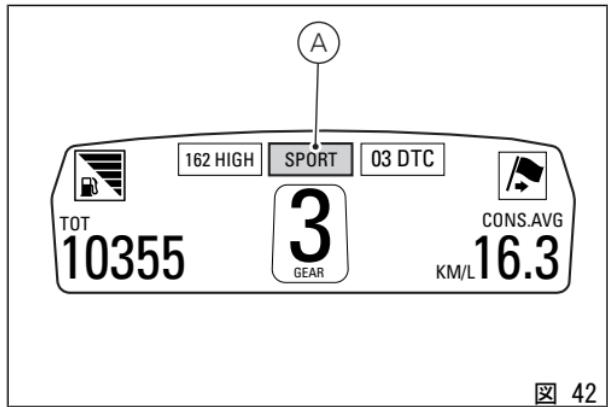


図 42

DTC（ドゥカティトラクションコントロール）設定機能

この機能はDTC (Ducati Traction Control) の干渉レベルをパーソナライズし、それぞれのライディングスタイル毎に機能をOFFにすることもできます。

この機能に入るには、“設定”メニューページ 71を表示します。ボタン(1)または(2)を使用して“RIDING MODE”を選択し、リセットボタン(4)を押して次のページに進みます。

ボタン(1)または(2)を使用して変更したいライディングスタイルを選択し、リセットボタン(4)を押します。

次のページに移るには、この時点でボタン(1)または(2)を使用して“DTC”を選択し、再度リセットボタン(4)を押して決定します。

長方形の内部のディスプレイ左側にある機能入口に、現在設定されているDTCレベルが表示されます

(例： DTC 1)。

ボタン(1)または(2)を使用して新しい干渉レベル(1から8まで)を選択するか、必要ならばトラクションコントロールを停止するOFFを選択します。新しい設定を選択してからリセットボタン(4)を押して“MEMORY”を選択表示させます。

“MEMORY”が選択された状態でリセットボタン(4)を3秒間押し続けると新しい設定が保存されます。

新設定の保存が正常に完了すると、“MEMORIZED”的文字が2秒間緑色で表示され、その後自動的に“EXIT”が選択表示されます。

この調整を終了するには、“EXIT”を選択してリセットボタン(4)を押します。

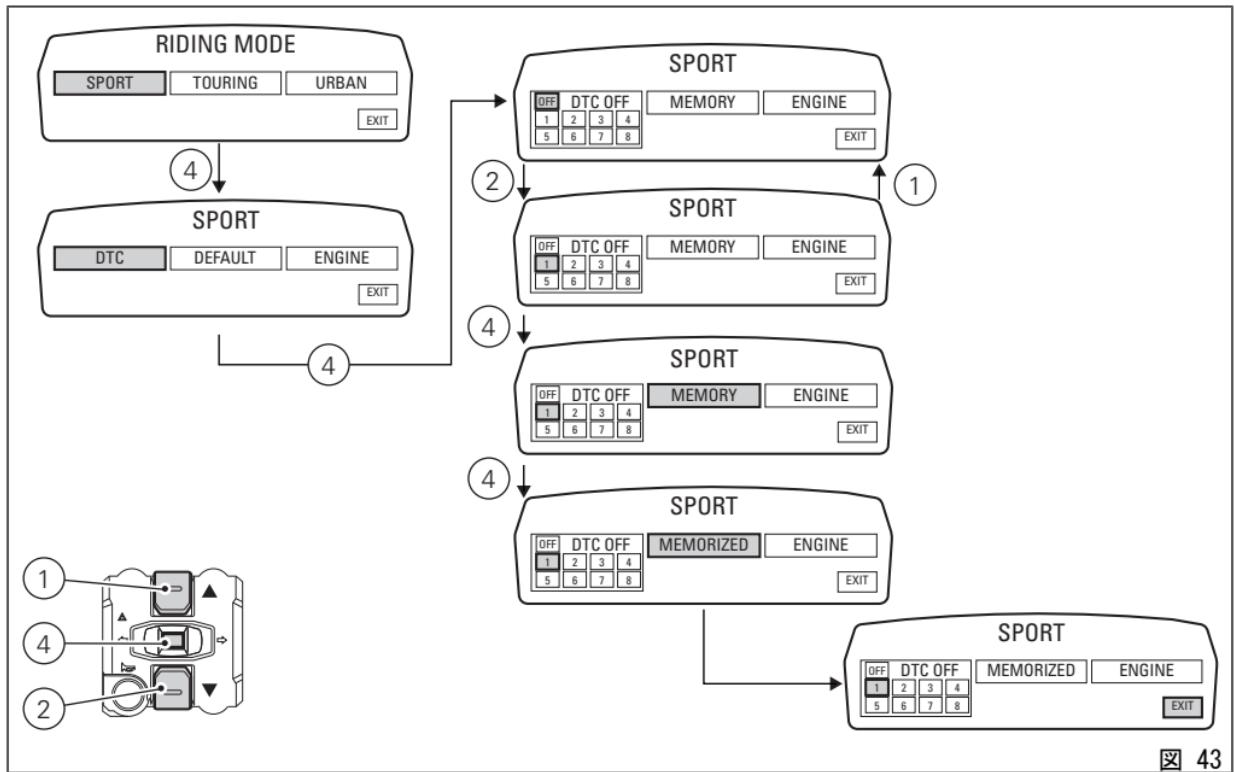


図 43

DTCはレベル1 からレベル8まであります。下記の表は、各タイプのライディングに適したDTCレベルで、ユーザーが“RIDING MODE” から設定を変更することができます：

DTCレベル	ライディングモード	使用	DEFAULT?
1	Sport	熟練ドライバー及びサーキット用スポーティングドライブ	デフォルト RIDING MODE SPORT
2	Sport-Touring	熟練ドライバーの一般道のドライブ	/
3	Touring	一般道のノーマルドライブ	デフォルト RIDING MODE TOURING
4	Touring 2	あまり熟練していないドライバーの一般道のノーマルドライブ	/
5	Urban	市街地のドライブ	デフォルト RIDING MODE URBAN
6	Urban 2	あまり熟練していないドライバーの市街地のドライブ	/
7	Wet	湿ったアスファルトでのドライブ	/
8	Rain	濡れたアスファルトでのドライブ	/

レベルの選択に際しての注意事項



警告

お客様の車両の DTC システムの 8 レベル調整は、車両に装着されている標準タイヤ（メーカー、モデル、サイズなどの特徴）によって決定されています。標準装備のタイヤと異なるサイズのタイヤを使用すると、システムの機能特性に影響を及ぼす可能性があります。

標準装備タイヤ：(フロント 120/70-17 – リア 240/45-17)。

標準装備のタイヤとモデルまたは/およびメーカーは異なってもサイズクラスが同じ(リア=240/45-17、フロント=120/70-17)など、少し違うだけのタイヤを使用する場合、システムの機能を最適化するには、選択可能なレベルのうち、より適切なレベルを選択することでカバーできるでしょう。サイズクラスの異なるタイヤ、またはサイズが若干異なるタイヤを使用した場合、システム機能が影響を受けることにより、選択可能な8レベルのいずれにおいても満足のいく結果が得られない可能性があります。この場合、システムは解除する事をお勧めします。レベル8を選択すると、DTCコントロールユニットはリアタイヤのわずかなスピinnにも対応します。

レベル8とレベル1の間には、その他に6つのレベルが存在します。DTCの介入度はレベル8から1に向かい減少します。

レベル1および2はオフロード専用を念頭にしたもので、アスファルト上での接地を失っても適切なコントロールを保証できません。

レベル3およびレベル4では、DTCコントロールユニットはリアタイヤがカーブ出口でスピinnおよびスリップするのを許容します。これらのレベルは、サーキット走行または熟練者が使用する場合にのみ設定されることをお勧めします。

正しいレベルの選択は、3つの観点から行います：

- 1) 接地(タイヤのタイプ、磨耗状態、アスファルトの種類、気候など)
- 2) レイアウト/行程(同じような、または全く異なるスピードでのカーブ)
- 3) ライディングスタイル(より”丸く”または”鋭く”)。

定着の状態からのレベル選択

正しいレベルの選択はレイアウト/行程中の定着状況に関連します(後述のサーキットおよび一般道での使用時のアドバイス参照)。

レイアウトタイプからのレベル選択

レイアウト/行程に均等な速度で走行するカーブがある場合、カーブごとに満足できる介入レベルを見つけることはとても簡単です。その反対に、よりゆるいカーブがある場合、より譲歩した介入レベルが必要です(ゆるいカーブ時、DTCはその他のカーブよりもより介入しようとします)。

ライディングスタイルからのレベル選択

DTCは”丸く”操縦する人にはバイクを倒し、“鋭く”操縦する人には車体を上げて、カーブからより早く抜けるよう介入します。

サーキットでの使用時のアドバイス

タイヤを温める間の約2周は、システムとの接触を良くするため、レベル8に設定して走行することをお勧めします。その後、レベルを7、6、とDTCの最適なレベルに達するまで調整します(タイヤを温めるため、ひとつのレベルごとに2周する)。

1つか2つのゆるいカーブ以外は納得のできるレベルの場合、違うレベルに設定しようと調整するよりは、ゆるいカーブでのライディングスタイルを少し”鋭く”し、カーブ出口での車体角度をより早く上げて走行するとよいでしょう。

一般道での使用時のアドバイス

DTCを起動した後、レベル8を選択し、好みのスタイルで運転します。DTCが介入しすぎると感じた場合は、レベルを7、6と順番に落とし、快適なレベルに達するまで調整して下さい。

定着状況および/または行程の種類および/またはライディングスタイルを変更し、設定レベルでは納得がいかない場合は調整します(例：レベル7ではDTCが介入しすぎると感じる場合はレベル6に、レベル7では全くDTCの介入がないと感じる場合はレベル8に)。

ENGINE (エンジン出力制御) 設定機能

この機能でエンジン (ENGINE) の出力とパワーデリバリーをパーソナライズします。

この機能に入るには、“設定”メニュー ページ 71 を表示します。ボタン (1) または (2) を使用して “RIDING MODE” を選択し、リセットボタン (4) を押して次のページに進みます。

ボタン (1) または (2) を使用して変更したいライディングモードを選択し、リセットボタン (4) を押して次のページに進みます。次にボタン (1) または (2) で “ENGINE” を選択し、リセットボタン (4) を押して決定します。

機能に入ると、ディスプレイ右側の枠の中にエンジン設定 (ENGINE 162 HIGH、162 LOW、100 HP) が表示されます。



フランス、中国および日本バージョンのディスプレイには設定 (ENGINE HIGH、MIDDLE、LOW) が表示されます。

ボタン (1) および (2) を使用して 3 種類のエンジン設定からひとつを選択します。新しい設定を選択したら、リセットボタン (4) を押して “MEMORY” を強調表示します。

“MEMORY” が選択された状態でリセットボタン (4) を 3 秒間押し続けると新しい設定が保存されます。新設定の保存が正常に完了すると、“MEMORIZED”的文字が 2 秒間緑色で表示され、その後自動的に “EXIT” が選択表示されます。

この調整を終了するには、“EXIT” を選択してリセットボタン (4) を押します。

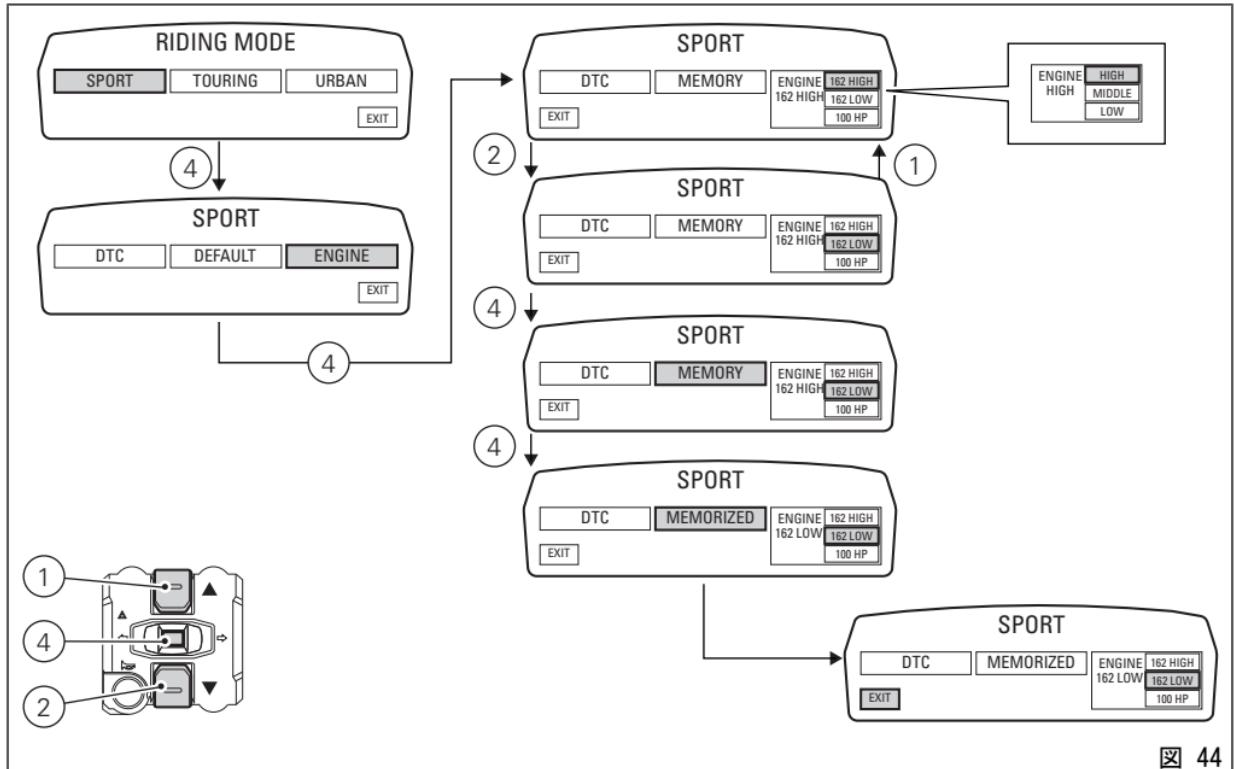


図 44

DEFAULT（ドゥカティデフォルトパラメーターの修復）機能

この機能で各ライディングスタイルをDucati社設定パラメーターに修復することができます。この機能に入るには、“設定”メニューページ 71を表示します。ボタン(1)または(2)を使用して“RIDING MODE”を選択し、リセットボタン(4)を押して次のページに進みます。ボタン(1)または(2)を使用して初期パラメーター（デフォルトパラメーター）に修復したいライディングスタイルを選択し、ボタン(4)を押して次のページに進みます。ボタン(1)または(2)を使用して“DEFAULT”を選択します。

この時点ですリセットボタン(4)を3秒間押し続けると初期パラメーターが修復されます。パラメータの修復には約3秒かかります。その間ディスプレイには“PLEASE WAIT...”と表示されます。作業が完了すると、パラメーター修復が実行されたことを示す“DEFAULT OK”がディスプレイに表示されます。

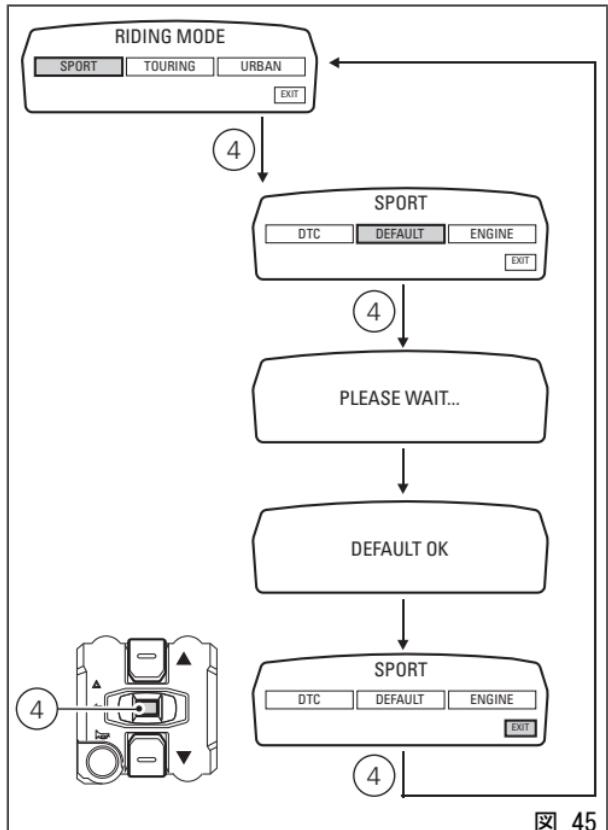


図 45



重要

この手順で全てのライディングモードのパラメーターを修復します。

この調整を終了するには、“EXIT”を選択してリセットボタン(4)を押します。

メニュー2解除/再起動機能

この機能でメニュー2の停止“OFF”(B)/再起動“ON”(A)を行います。

メニュー2をOFFになると、平均燃費(CONS. AVG)、瞬間燃費(CONS.)、平均スピード(SPEED AVG)、走行時間(TRIP TIME)、気温(AIR)が“メイン画面”に表示されなくなります。ただしこれらの機能は計算を続けるため、メニュー2を再起動したときには更新された正確なデータが表示されます。

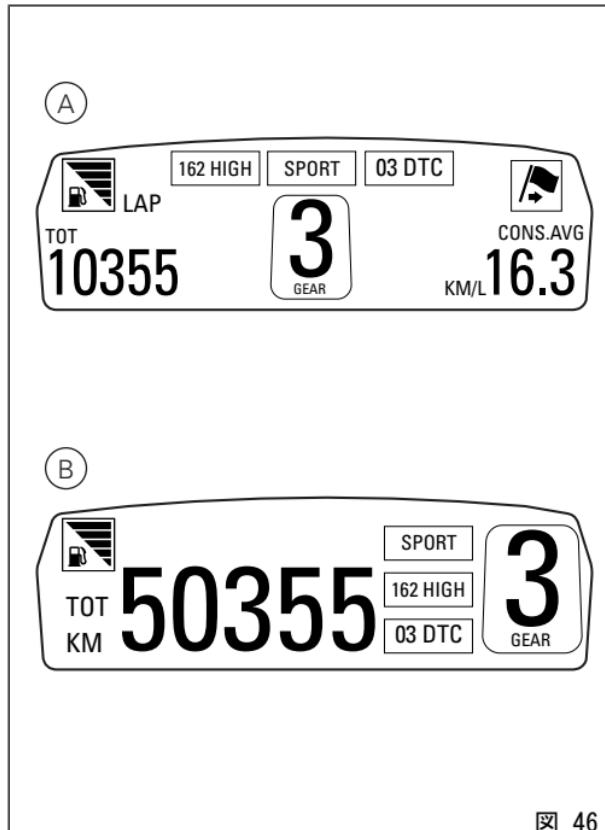


図 46

この機能に入るには、“設定”メニュー ページ 71 を表示します。ボタン (1) または (2) を使用して “MENU 2”を選択し、リセットボタン (4) を押して次のページに進みます。

ディスプレイには機能ステータスが表示されます (緑色でON、黄色でOFF)。

ボタン (1) または (2) を使用して左側の矢印を新しい設定まで動かし、リセットボタン (4) を押して決定します。

この調整を終了するには、“EXIT”を選択してリセットボタン (4) を押します。

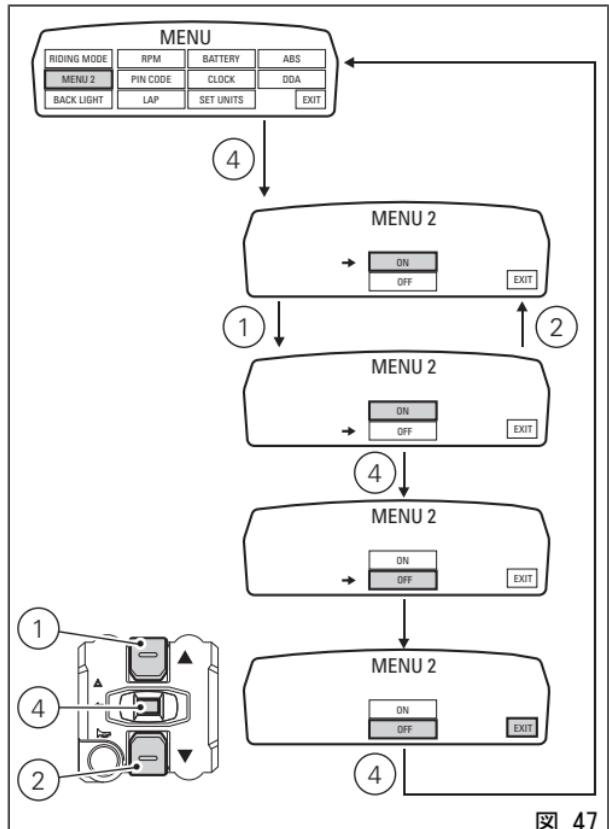


図 47

タンクインストルメントパネル - DASHBOARD 1背景調整機能

この機能ではタンクのインストルメントパネルの“背景”を調整することができます。

この機能に入るには、“設定”メニューページ 71を表示します。ボタン(1)または(2)を使用して“BACK LIGHT”を選択し、リセットボタン(4)を押して次のページに進みます。

ボタン(1)または(2)を使用して“DASHBOARD 1”を選択し、リセットボタン(4)を押して決定します。

“DASHBOARD 1”機能に入ると、ディスプレイに調整ステータス(緑色でDAY、NIGHTまたはAUTO)が表示されます。ボタン(1)または(2)を使用して左の矢印を新しい設定上に移動させ、リセットボタン(4)を押して決定します。

この調整を終了するには、“EXIT”を選択してリセットボタン(4)を押します。

“DAY”調整では、インストルメントパネル背景は読み取りやすい“白色”に常時設定されます。強い外光下での使用に適します。

“NIGHT”調整では、インストルメントパネル背景はソフトなコントラストの“黒色”に常時設定されます。弱い外光下または暗い環境での使用に適します。

“AUTO”調整では、インストルメントパネル背景は外光の強さ(センサーが感知)に応じて自動的に調整さ

れます。外光が弱いときには“黒色”、外光が強いときには“白色”に設定されます。



参考

バッテリーが中断された場合、電源回復後のKey-ON 時に画面の光調整はリセットされ、“AUTO”モードに設定されます。

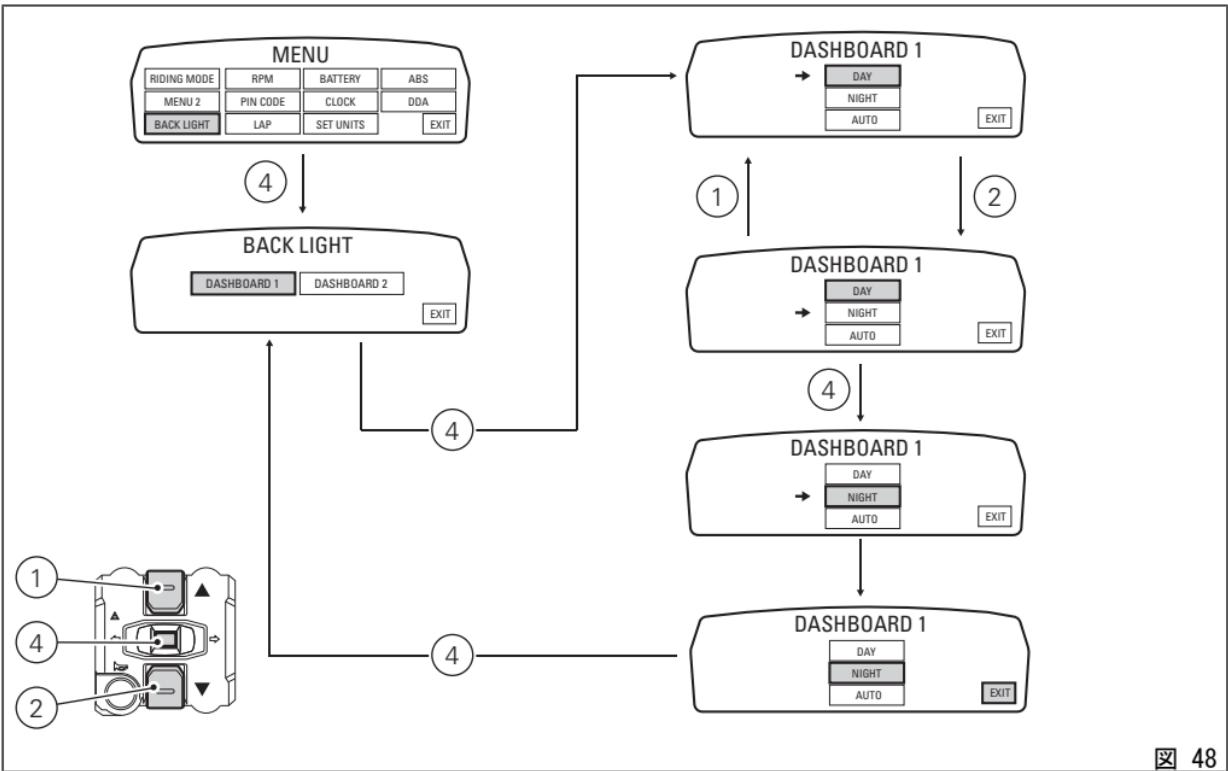


図 48

ハンドルバーインストルメントパネル - DASHBOARD 2バックライト調整機能

この機能ではハンドルバーのインストルメントパネルの“バックライト”強度調整をおこないます。

この機能に入るには、“設定”メニューページ 71を表示します。ボタン(1)または(2)を使用して“BACK LIGHT”を選択し、リセットボタン(4)を押して次のページに進みます。

ボタン(1)または(2)を使用して“DASHBOARD 2”を選択し、リセットボタン(4)を押して決定します。

“DASHBOARD 2”機能に入ると、ディスプレイに調整ステータス(緑色でMAX、MIDDLE、MIN)が表示されます。

ボタン(1)または(2)を使用して左の矢印を新しい設定上に移動させ、リセットボタン(4)を押して決定します。

この調整を終了するには、“EXIT”を選択してリセットボタン(4)を押します。

“MAX”を選択すると、ハンドルバーのインストルメントパネルのバックライトは読み取りやすい最高強度に常時設定されます。強い外光下での使用に適します。

“MIDDLE”を選択すると、ハンドルバーのインストルメントパネルのバックライトは最高強度より30%弱いソフトなコントラストに設定されます。弱い外光下での使用に適します。

“MIN”を選択すると、ハンドルバーのインストルメントパネルのバックライトは最高強度より50%弱いさらにソフトなコントラストに設定されます。乏しい外光下または暗い環境での使用に適します。

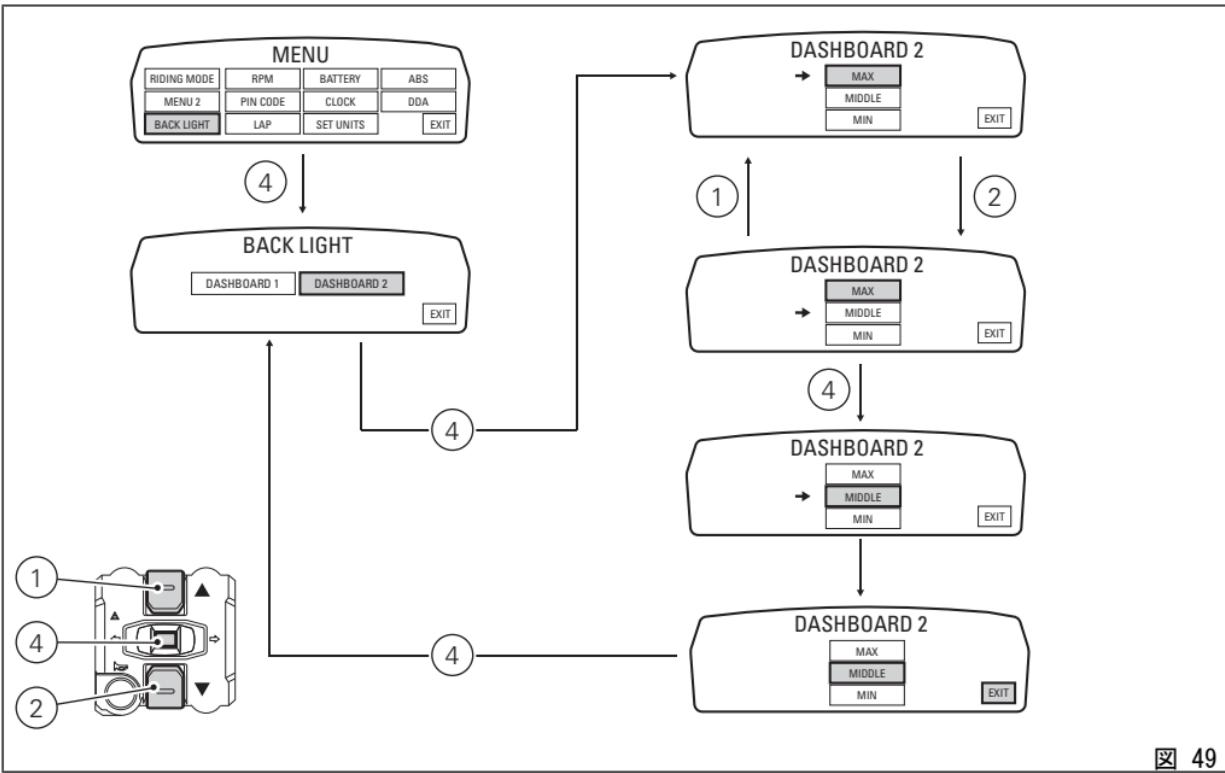


図 49

エンジン回転数表示機能(デジタル)

この機能はより正確なエンジン回転数(RPM)を表示します。

この機能に入るには、“設定”メニューページ 71を表示します。ボタン(1)または(2)を使用して“RPM”を選択し、リセットボタン(4)を押して次のページに進みます。

ディスプレイにはエンジン回転数が50 rpm単位で表示されます。

この調整を終了するには、“EXIT”を選択してリセットボタン(4)を押します。

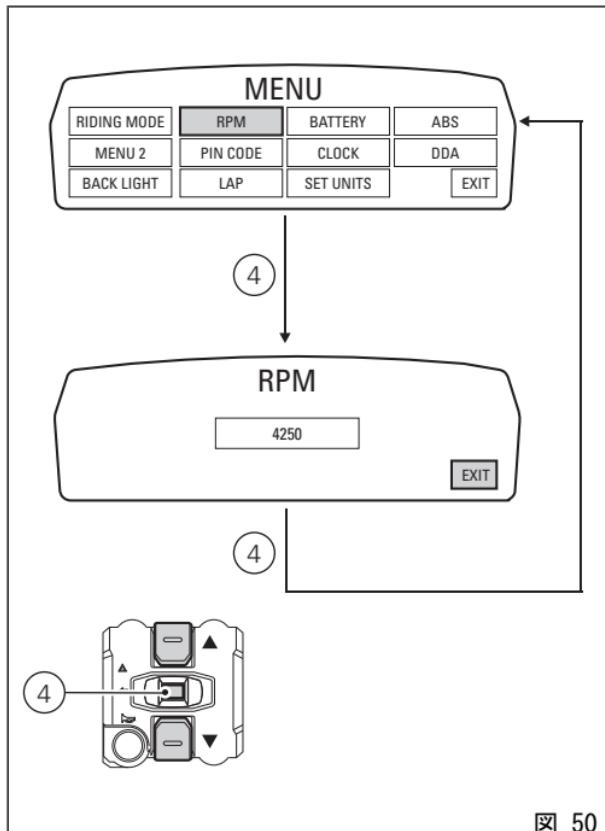


図 50

LAP ON/OFF機能

この機能で LAP (ラップタイム) の起動/解除を行います。

この機能に入るには、"設定" メニュー ページ 71 を表示します。ボタン (1) または (2) を使用して "LAP" を選択し、リセットボタン (4) を押して次のページに進みます。

ディスプレイには機能ステータスが強調表示されます (緑色で ON、または黄色で OFF)。ボタン (1) または (2) で左側の矢印を新しい設定まで動かし、リセットボタン (4) を押して決定します。

この調整を終了するには、"EXIT" を選択してリセットボタン (4) を押します。

"OFF" に設定すると、LAP 機能は解除されます。"ON" に設定すると、LAP 機能が起動します ("LAP の記録" ページ 94 の章を参照)。

参考

"LAP" 機能が起動中、フラッシュボタン(3)はハイビームの "フラッシュ" 機能とラップタイムの START / STOP 機能の両方に使われます。

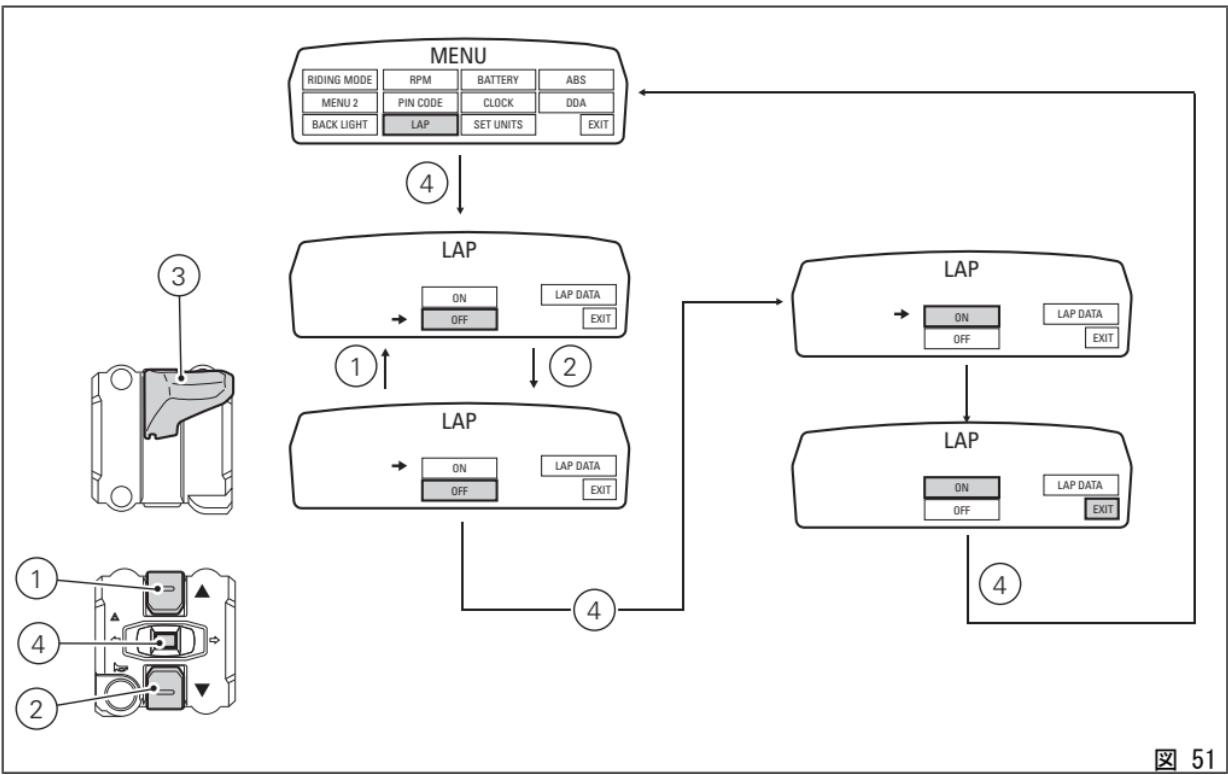


図 51

LAPの記録機能

この機能でラップタイム “LAP” の記録を行います。機能が起動状態であれば（“LAP 起動/解除” ページ 92 参照）、以下の方法でラップタイムを記録することができます。

- フラッシュボタン (3) を一度押すと、ストップ ウオッチが最初のラップのタイム計測をスタートします。インストルメントパネルには “LAP-START” と 4 秒間点滅表示され、その後もとの表示に戻ります。
- これ以降フラッシュボタン (3) を押すたびに、ディスプレイにはラップ番号およびラップタイムが自動的に 10 秒間表示され、その後もとの表示に戻ります。

30 周までラップタイムを記録することができます。メモリーがフルの場合は、メモリーがリセットされるまでフラッシュボタン (3) を押してもラップタイムは記憶されず、ディスプレイに “LAP-FULL” と 4 秒間点滅表示されます。

LAP 機能を OFF にした場合、その時点で走行中のラップは記録されません。LAP 機能使用中に突然車両が停止した場合（キーOFF）、LAP 機能は自動的に OFF になります（ストップウォッチが作動していても、ラップタイムは記憶されません）。ラップタイムの

“ストップ” 指示が出されなかった場合、9 分 59 秒 99 の時点でストップウォッチはゼロに戻り、ストップ指示が出されるまでラップタイムを測定し続けます。LAP 機能を ON にし、ラップタイムのメモリーをリセットしない場合、記録されているラップ数が 30 以下（例：18 ラップ記録済み）であれば、インストルメントパネルはメモリーに記録可能な残りのラップ数を続けて記録します（例のケースでは、残り 12 ラップ記録可）。この機能では、記録中のラップタイムのみを表示します。ただし、“LAP DATA”（記録されている LAP の表示）機能で完全なデータを表示するために、その他のデータ（最高速度、エンジン最高回転数）も同様に記録されています。

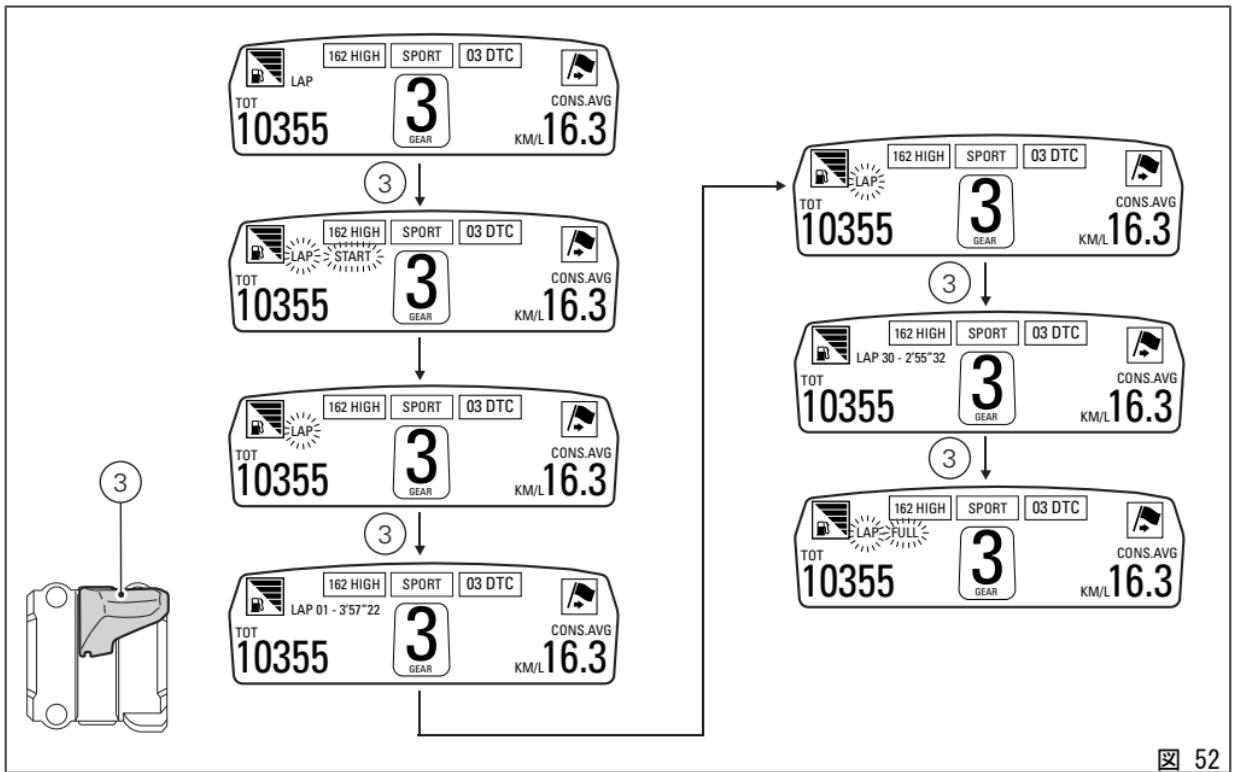


図 52

メモリーされているLAPの表示機能

この機能でLAP記録表示をおこないます。この機能に入るには、“設定”メニューページ 71を表示します。ボタン(1)または(2)を使用して“LAP”を選択し、リセットボタン(4)を押して次のページに進みます。ボタン(1)または(2)を使用して“LAP DATA”を選択し、リセットボタン(4)を再度押してすでに記憶されているラップタイムの表示ページに移ります。ディスプレイ上には以下の項目が表示されます。

- 左上部に現在表示しているラップ番号が表示されます(例：LAP N.01)。
- 左下部の長方形内にラップタイム(TIME)、相当するラップでの最高到達スピード(SPEED MAX)および最高到達エンジン回転数(RPM MAX)が表示されます。
- 右側の“NEXT”(リセットボタン(4)を押すごとに次のラップタイムを表示)および“PREV”(リセットボタン(4)を押すごとに前のラップタイムを表示)は、ボタン(1)または(2)を使用して選択します。

この機能終了には“EXIT”を選択し、リセットボタン(4)を押します。



参考

記録される最高速度はディスプレイに表示された速度(5%増大させた速度)になります。

メモリーにデータが全く記録されていない場合、“NO LAP”的表示とともにクロノメーターには“-.-.-.-”，最高回転数 = - - - - -，最高スピード = - - - -と表示されます。



参考

記録タイムが消去されると、LAP機能が起動中でも自動的にOFFになります。

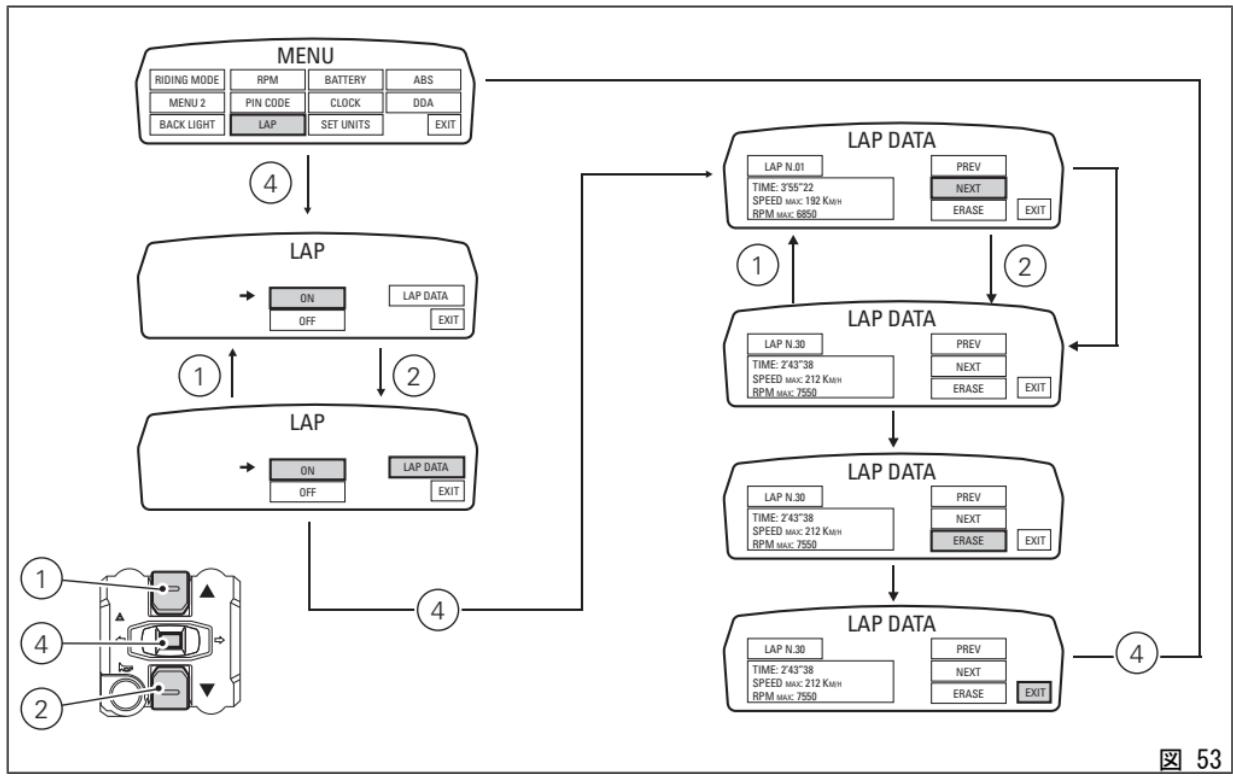


図 53

メモリーされているLAPの削除機能

この機能でLAP記録を消去することができます。この機能に入るには、“設定”メニューページ 71を表示します。ボタン(1)または(2)を使用して“LAP”を選択し、リセットボタン(4)を押して次のページに進みます。

ボタン(1)または(2)を使用して“LAP DATA”を選択し、リセットボタン(4)を再度押してすでに記憶されているラップタイムの表示ページに移ります。

“ERASE”を選択し、ボタン(1)または(2)を使用して消去するLAP記録をスクロールし、リセットボタン(4)を3秒間押します。

この時点ではディスプレイの左側に“PLEASE WAIT…”の文字が表示され、その後消去が正常に完了したことを示す“ERASE OK”的表示が2秒間表れます。記録データがなくなり、“NO LAP”と表示されます。

この機能終了には“EXIT”を選択し、リセットボタン(4)を押します。

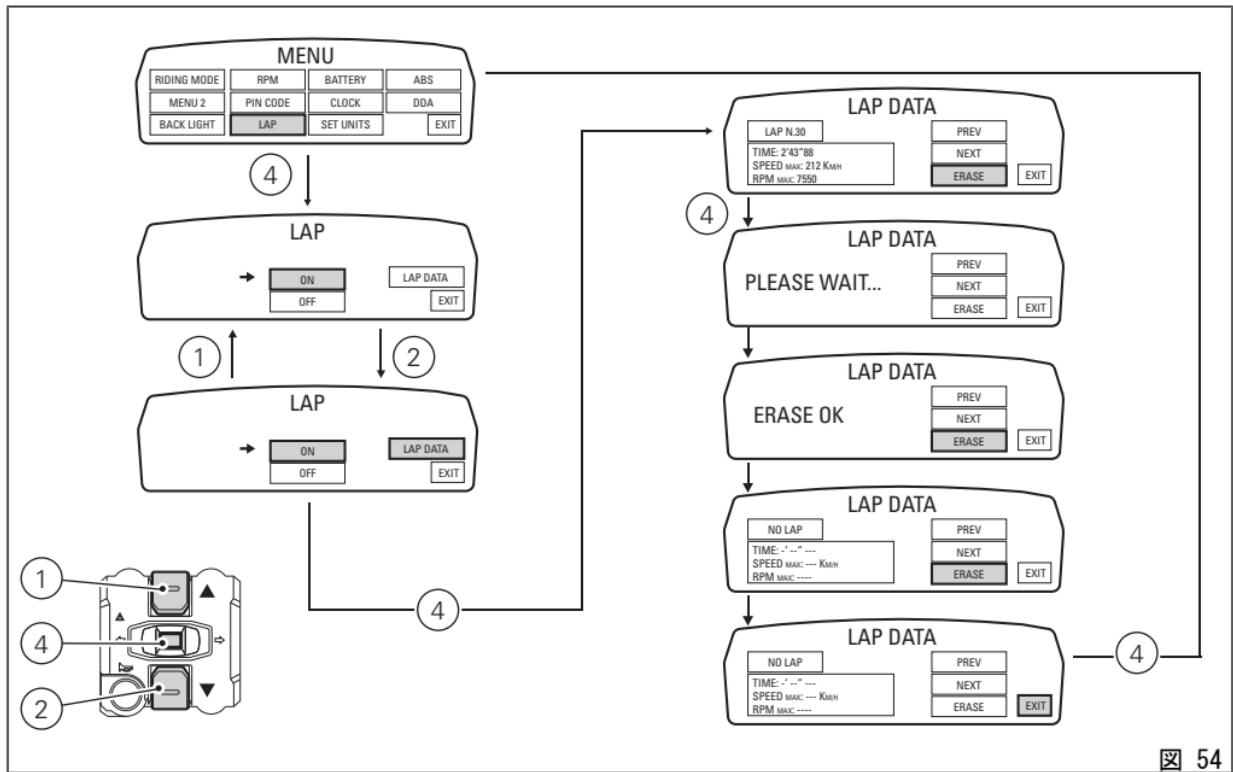


図 54

バッテリーテンション (BATTERY) の表示

ここではバッテリーテンション表示機能を説明します。

この機能に入るには、“設定”メニューページ 71を表示します。ボタン(1)または(2)を使用して“BATTERY”を選択し、リセットボタン(4)を押して次のページに進みます。

ディスプレイ上には以下の項目が表示されます。

- バッテリーテンションが11.8 から14.9 Voltの場合、固定表示になります。
- バッテリーテンションが11.0 から11.7 Voltの場合、点滅表示になります。
- バッテリーテンションが15.0 から16.0 Voltの場合、点滅表示になります。

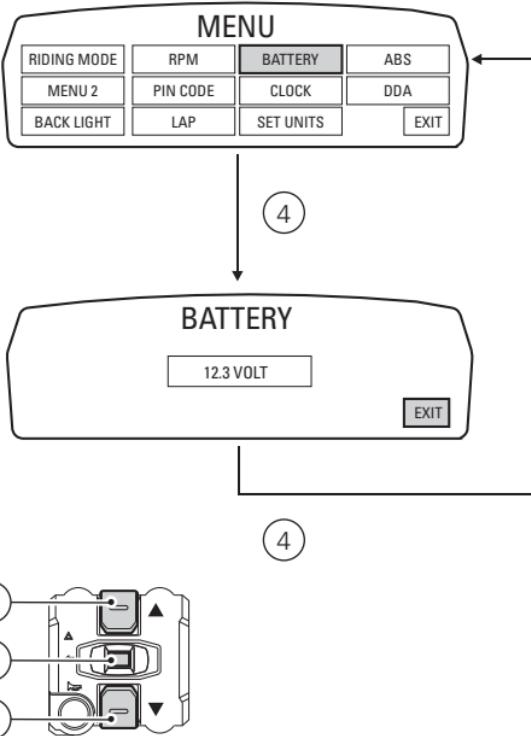


図 55

- バッテリーテンションが10.9 V以下の場合、“LOW”が点滅表示され、“車両/エンジン診断-E0BD”ランプが点灯します。
- バッテリーテンションが16.1 V以上の場合、“HIGH”が点滅表示され、“車両/エンジン診断-E0BD”ランプが点灯します。

 参考

データが出力できない時は “---” が表示されます。

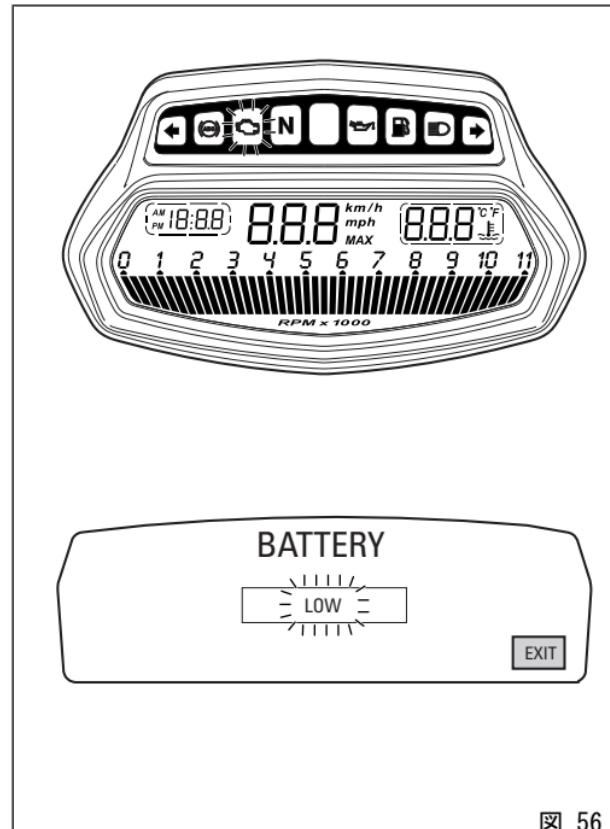


図 56

時計の調整機能

この機能は時計の調整設定をします。この機能に入るには、“設定”メニューページ 71を表示します。ボタン(1)または(2)を使用して“CLOCK”を選択し、リセットボタン(4)を押して次のページに進みます。その後、緑色で“SETTING”(A)の表示が表れます。ハンドルバーのインストルメントパネルの時計表示を変更するには、リセットボタン(4)を3秒間押します。“SETTING”表示が灰色になります(B)。

時計のセットアップ

この機能に入ると、最初に“AM”的表示が点滅します。ボタン(2)を押すと、“PM”が点滅表示します。ボタン(2)を押すと、ひとつ前のステップに戻ります(時間が00:00の場合は、AMからPMへ移ると12:00が表示されます)。ボタン(1)を押すと時間の表示が点滅し始め、時間の設定に入ります。ボタン(2)を押すたびに、1時間進みます。ボタン(2)を押し続けると、1秒につき1時間ずつ進みます(ボタンを押し続けている間、時間の表示は点滅しません)。

ボタン(1)を押すと分の表示に点滅が移り、分の設定に入ります。ボタン(2)を押すたびに、1分進みます。ボタン(2)を押し続けると、1秒につき1分ずつ進みます。

ボタン(2)を5秒以上押し続けると、100msにつき1分の割合で数字が増します(ボタン(2)を押している間、数字は点滅しません)。

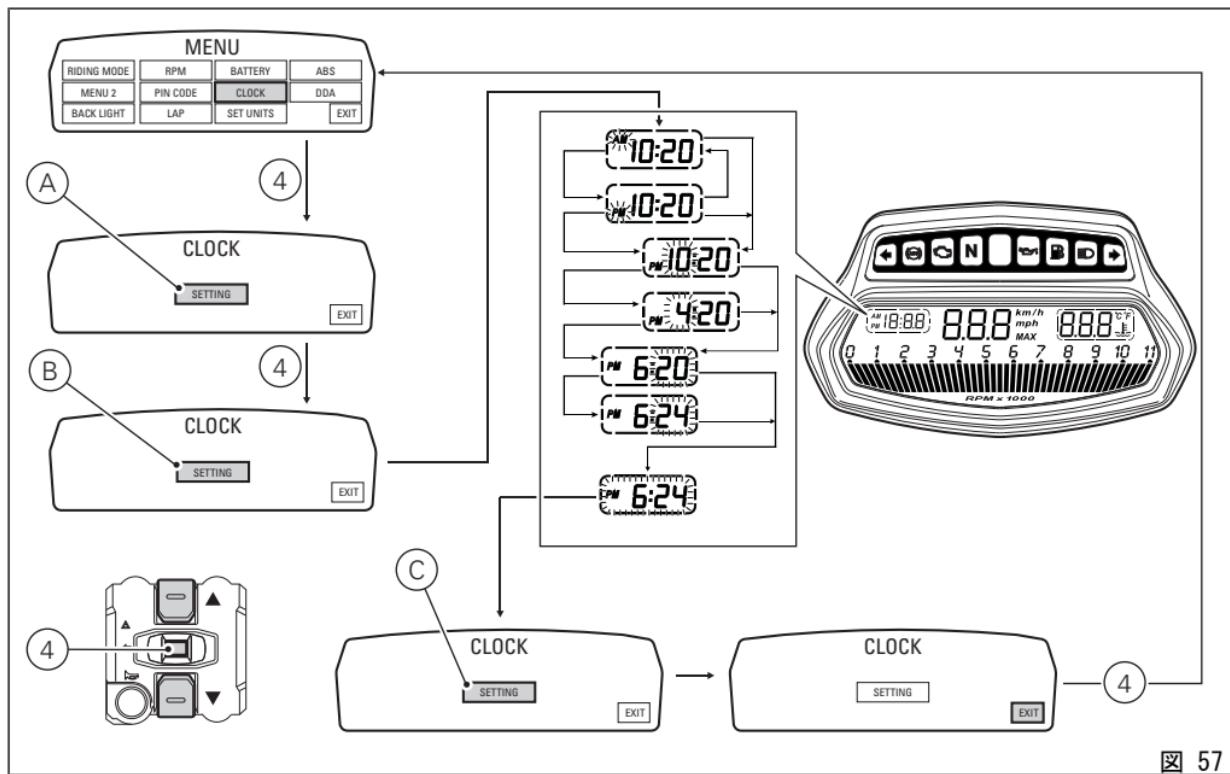
ボタン(1)を押すと調整が終了し、タンクのインストルメントパネルのディスプレイに“SETTING”的文字が緑色で表示されます(C)。

この機能終了には“EXIT”を選択し、リセットボタン(4)を押します。



参考

バッテリーが中断された場合、電源回復後のKey-ON 時に時計はリセットされます(自動的に 00:00から再開します)。



単位の変更機能

この機能では表示単位の変更が可能です。

この機能に入るには、"設定" メニュー ページ 71 を表示します。ボタン (1) または (2) を使用して "SET UNITS" を選択し、リセットボタン (4) を押して次のページに進みます。

ボタン (1) または (2) を使用して変更したい単位の大きさを選択し、再度リセットボタン (4) を押します。

インストルメントパネルには変更できる単位が表示されます。ボタン (1) および (2) で希望する表示を選択し、もう一度リセットボタン (4) を押して決定します。

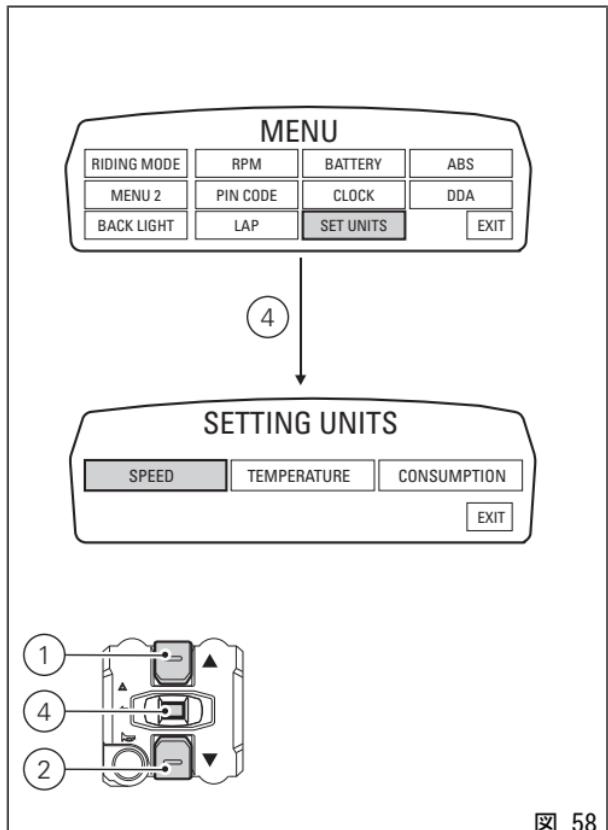


図 58

“SPEED” の設定

この機能では速度の単位を変更することができます（走行距離の単位も同時に変更します）。

ディスプレイには現在設定されている単位が緑色で強調表示されます。ボタン（1）または（2）で左側の矢印を新しい設定まで動かし、リセットボタン（4）を押して決定します。

設定を保存してからメイン画面に戻ると、新しく設定した単位が表示されます。

1) Km/h： この設定を選択すると、以下の項目でこの単位が使用されます。

- TOT、TRIP1、TRIP2、TRIP FUEL : Km
- 車両スピード、平均スピード (SPEED AVG) : Km/
h

2) mph： この設定を選択すると、以下の項目でこの単位が使用されます。

- TOT、TRIP1、TRIP2、TRIP FUEL : マイル
- 車両スピード、平均スピード (SPEED AVG) : mph

この調整を終了するには、“EXIT” を選択してリセットボタン（4）を押します。

“TEMP.” の設定

この機能では温度の単位の変更が可能です。

ディスプレイには現在設定されている単位が緑色で強調表示されます。ボタン（1）または（2）で左側の矢印を新しい設定まで動かし、リセットボタン（4）を押して決定します。

設定を保存してからメイン画面に戻ると、新しく設定した単位が表示されます。

3) ° C： この設定を選択すると、以下の項目でこの単位が使用されます。

- クーラント温度、T_AIR 温度 : ° C

4) ° F： この設定を選択すると、以下の項目でこの単位が使用されます。

- クーラント温度、T_AIR 温度 : ° F

この調整を終了するには、“EXIT” を選択してリセットボタン（4）を押します。

“CONS.” の設定

この機能では平均燃費および瞬間燃費の単位の変更が可能です。

ディスプレイには現在設定されている単位が緑色で強調表示されます。ボタン（1）または（2）で左側の矢印を新しい設定まで動かし、リセットボタン（4）を押して決定します。

設定を保存してからメイン画面に戻ると、新しく設定した単位が表示されます。

5) Km/L : この設定を選択すると、以下の項目でこの単位が使用されます。

- CONS. 、 CONS. AVG. : Km/L

6) L/100 : この設定を選択すると、以下の項目でこの単位が使用されます。

- CONS. 、 CONS. AVG. : L/100

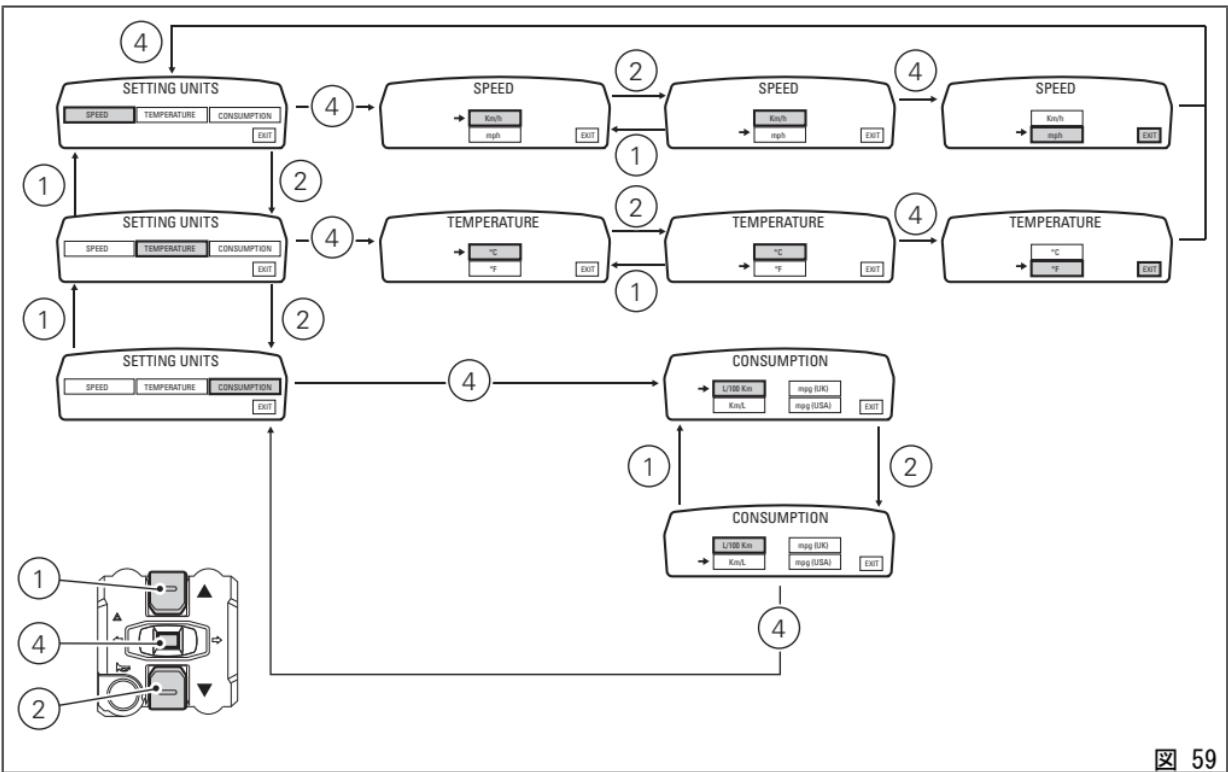
7) mpgal UK : この設定を選択すると、以下の項目でこの単位が使用されます。

- CONS. 、 CONS. AVG : mpgal UK

8) mpgal USA : この設定を選択すると、以下の項目でこの単位が使用されます。

- CONS. 、 CONS. AVG : mpgal USA

この調整を終了するには、“EXIT”を選択してリセットボタン（4）を押します。



ABS解除機能

この機能はABSシステムを停止または作動させることができます。

この機能に入るには、“設定”メニューページ 71を表示します。ボタン(1)または(2)を使用して“ABS”を選択し、リセットボタン(4)を押して次のページに進みます。

ディスプレイ上には機能の状態が表示されます（緑色でONまたは黄色でOFF）。ボタン(1)または(2)を使用して左の矢印を新しい設定上に移動させ、リセットボタン(4)を3秒間押して決定します。

3秒後、システムはこの操作が正常に行われたかどうか検証します。検証中は、“PLEASE WAIT…”と表示されます。

検証後新設定条件が表示されます。



機能停止の操作が正常に行われなかった場合は、同じ操作を繰り返してください。問題が解決しない場合は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

この調整を終了するには、“EXIT”を選択してリセットボタン(4)を押します。

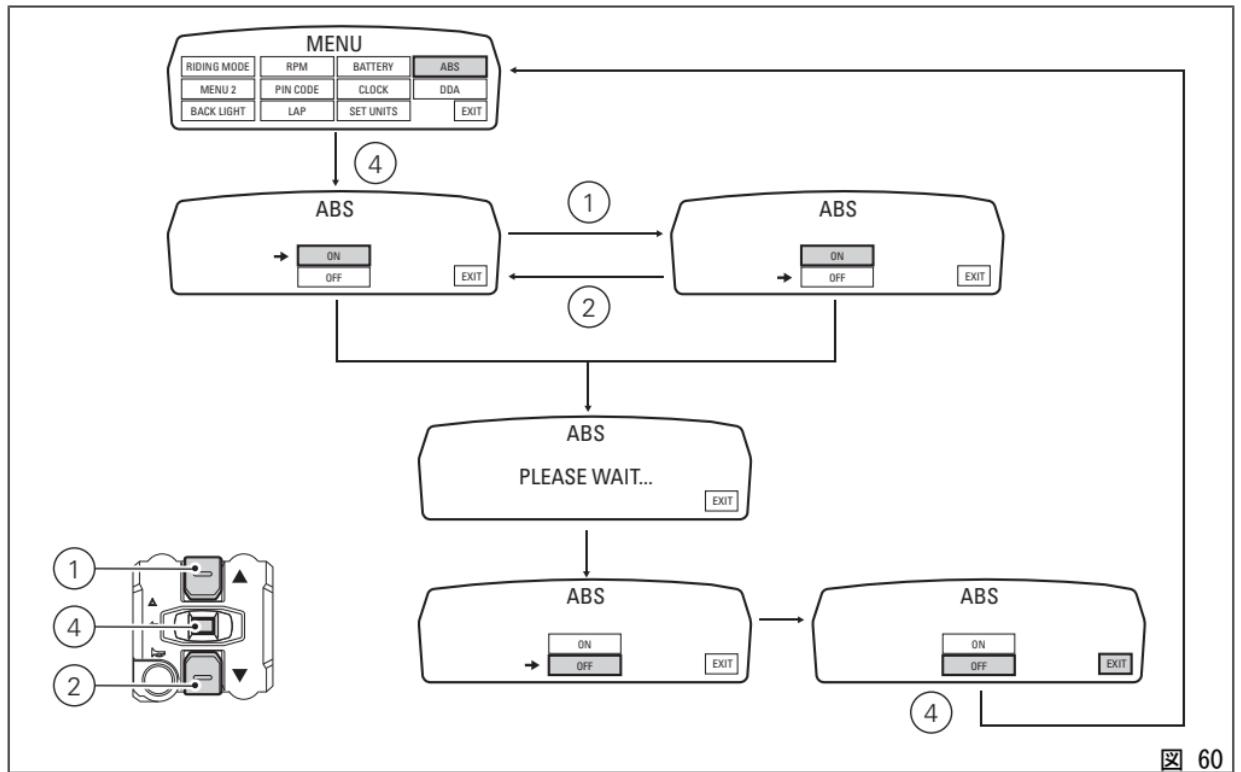


図 60

イモビライザーシステム

この車両には電子制御でエンジンをブロックする盜難防止システム(イモビライザー)が搭載されています。イモビライザーは、毎回エンジンを停止する度に自動的に作動します。

各キーボディにはトランスポンダーが内蔵されています。トランスポンダーからの信号は、シート下に設置されたアンテナを介してコントロールユニットに送られます。

この信号はパスワードの役割を果たし、イグニッションキーがスイッチに差し込まれる度に変更し、CPUがその“パスワード”によってキーを認識した時にのみエンジンが始動します。

キー

車両には、以下のキーが付属しています：

- アクティブキー1本(1)。
- パッシブキー1本(2)。

これらのキーは、異なる方法でHands freeシステムkey-on状態にする為のコードをもっています。

アクティブキー(1)は通常使用するキーで、ボタン(A)を押すと金属部分(B)が完全に開きます。

ボタン(A)を押した状態で、金属部分を中間位置(C)に移動させることができます。その位置を維持するにはボタンを離し、固定します。

金属のへこみの最後部分は、柄の内側に入っています。

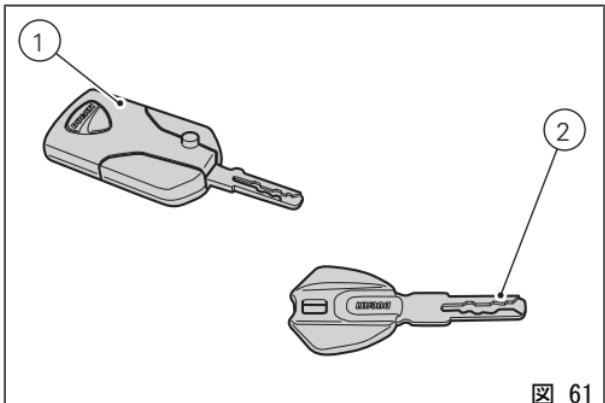


図 61

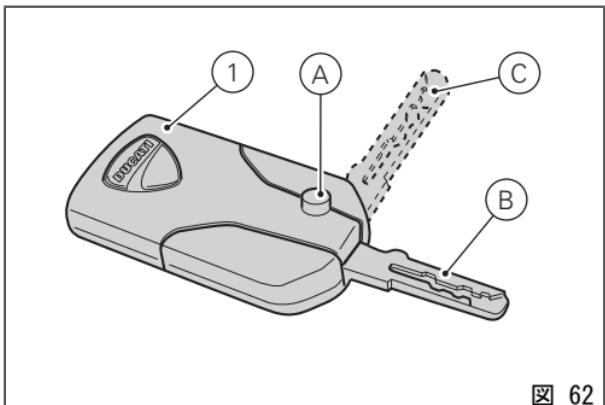


図 62

アクティブキーにはバッテリーが内蔵されています。インストルメントパネル始動の際にキーバッテリーレベルの“警告”が表示された場合はバッテリーを交換する必要があります。

 参考

この場合はできるだけ早くバッテリーを交換してください。

充電量がある程度の限度を下回ると、このキーはパッシブキー同様、発信できなくなります。この場合、インストルメントパネルに一切のメッセージが表示されません。



図 63

! 警告

キー（アクティブキーまたはパッシブキー）を
フィラープラグのロックやシートロックに差したま
ま走行しないでください。途中でキーが抜けて思わ
ぬ事故につながるおそれがあります。また、強い衝
撃はキーの機械部分や内部回路に損傷を与える可能
性があります。

過酷な気象条件下でキーを挿入したまま走行するこ
とも、キー内部の回路に損傷を与える可能性があり
ます。

洗車中にキーを車両の上に放置しないでください。
防水対応はしておりませんので、損傷するおそれが
あります。

アクティブキーのバッテリー交換
リチウムイオンバッテリーCR 2032 3 Voltのみ使
用してください。



参考

交換後のキーの再設定は必要ありません。

バッテリーの金属部分を取り出してください。
図のように直径がある程度ある硬貨(2ユーロ硬貨)を
使い、プラスチックの柄部分を開きます



重要

矢印で表示されている部分のみに、硬貨を挿入
してください。上記以外の場所にその他の物を使用
しないでください。内部回路や保護シールに損傷を
与える可能性があります。

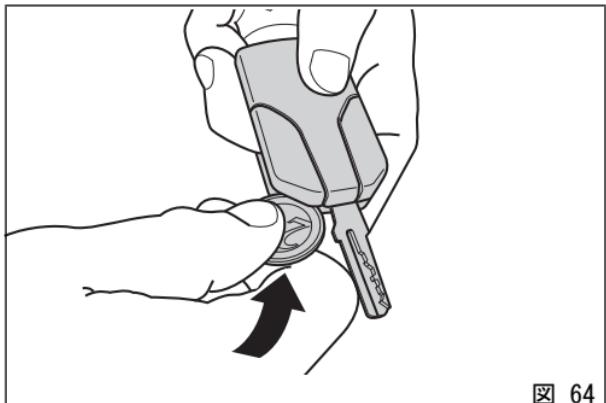


図 64

柄部分を外した後は、図で示すように、小さなマイナスドライバーの先をプリント基板(1)のすぐ下にいれ、回路を破損させないよう慎重に持ち上げ、引き抜いてください。

重要

破損しないように注意しながら、小さいマイナスドライバーの先をプリント基板の下に入れます。バッテリーおよびバッテリーケースに力をかけないでください。

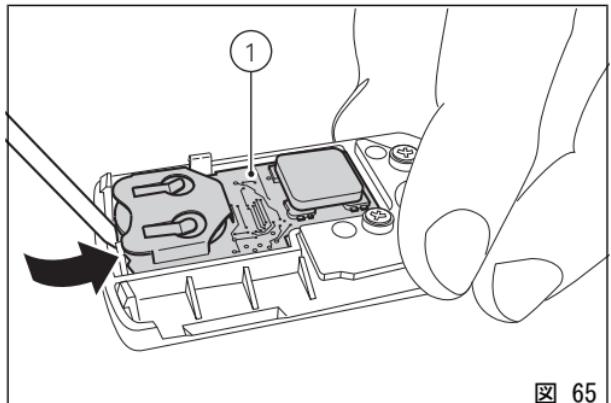


図 65

バッテリー(2)をプレス回路(1)から抜いて、新しいバッテリーと交換してください。

電極に十分に注意してください。プラス(+)を必ず上に向けます。

! **重要**
指定バッテリーのみ、使用してください。

プリント基板(1)をバッテリー(2)側からプラスチック製カバーに入れます。

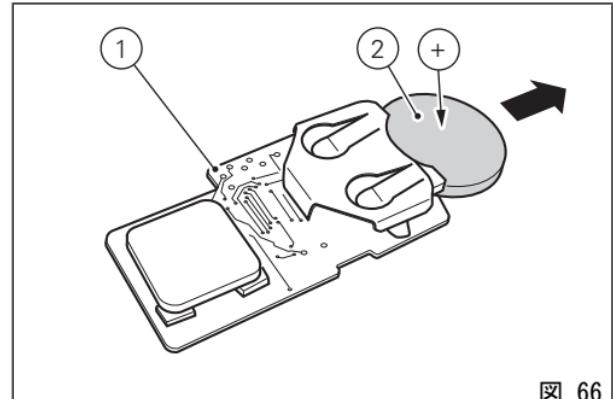


図 66

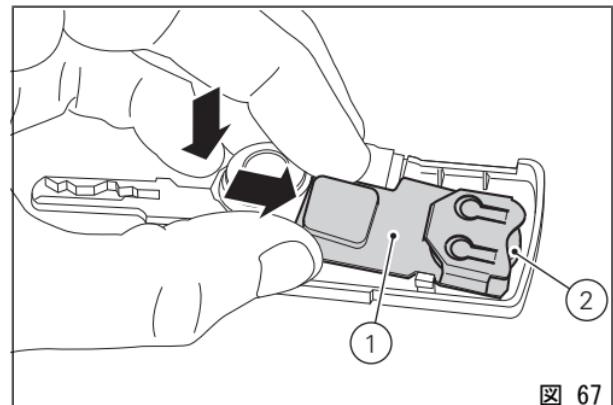


図 67

プレス回路アンテナ(3)をカチッという連結音が聞こえるまで軽く押して下さい。

二つの柄を揃え、矢印部分を押して、閉じます。
カチッという音でよく閉じたことがわかります。

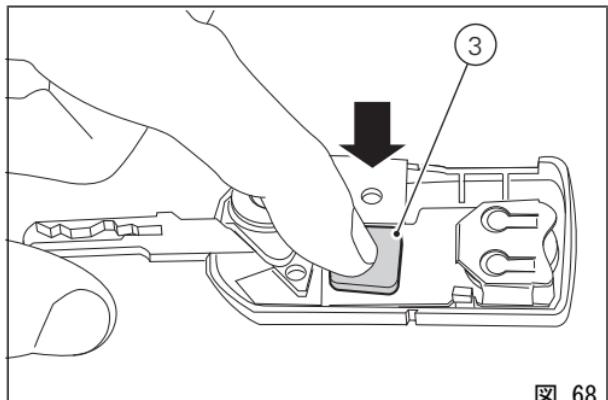


図 68

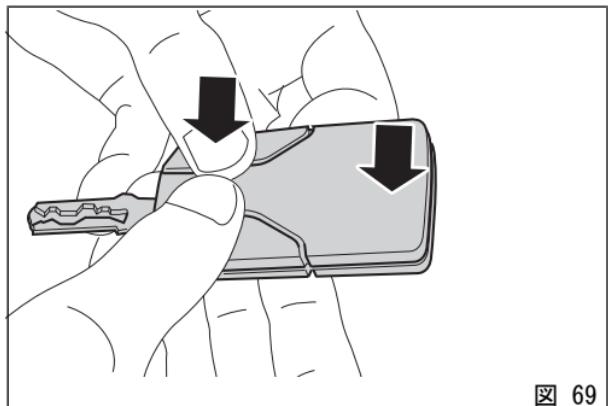


図 69

キーの複製

追加のキーが必要な場合は、お持ちのキー全てを持ってDucatiサービスセンターにご依頼下さい。

Ducatiサービスセンターは新しいキー、およびお手持ちのキーを再プログラミングします。

Ducatiアシスタントサービスは、お客様が車両のオーナーである証明の提示を求めることができますので、必要書類をご持参下さい。

この作業時に再メモリーされなかったキーのメモリーは削除されて無効となるため、エンジンを始動する為に使用することはできません。

イモビライザー解除手順

HF (Hands Free) システムに不具合が生じた場合、車両を一時的に起動します。

参考

不具合が生じた際に車両を一時起動するためには、予め 4 枚の PIN をインストルメントパネルに入力して PIN CODE 機能を有効にしていなければなりません。

警告

PIN CODE は車両の所有者が設定（登録）しなければなりません。PIN がすでに設定されている場合には、Ducati 正規ディーラーに本機能の“リセット”を依頼してください。その際 Ducati 正規ディーラーは、車両の所有者確認をさせていただくことがあります。

PIN CODE起動機能

この機能に入るには、“設定”メニュー ページ 71 を表示します。ボタン(1)または(2)を使用して“PIN CODE”を選択し、リセットボタン(4)を押して次のページに進みます。



機能に入り “MODIFY PIN CODE” の表示が出た場合は、PIN が既に存在し、機能が有効であることを表します。

機能に入ると円形ディスプレイに“INSERT NEW PIN CODE”的表示と、その下に4桁のPINコード入力用の点線“-----”が緑色で表示されます。この時点で4桁のコードを入力します。

コードの入力：

リセットボタン(4)を押します。

ボタン(2)を押すごとに表示数値が0から9まで移動し、また0に戻ります。リセットボタン(4)を押して数値を決定します。同じ方法で4桁すべてを入力します。

リセットボタン(4)を再度押し、“MEMORY”を選択表示します。

入力したPINを保存するには、“MEMORY”を緑色に強調表示した状態でリセットボタン(4)を3秒間押します。

PINが保存されるとディスプレイに“MEMORIZED”と約2秒間表示され、その後自動的に“EXIT”が選択表示されます。

これ以降、“PIN CODE”機能に入ると“MODIFY PIN CODE”と表示され、回数に限りがありますが新たにPINを変更することができます。

この調整を終了するには、“EXIT”を選択してリセットボタン(4)を押します。

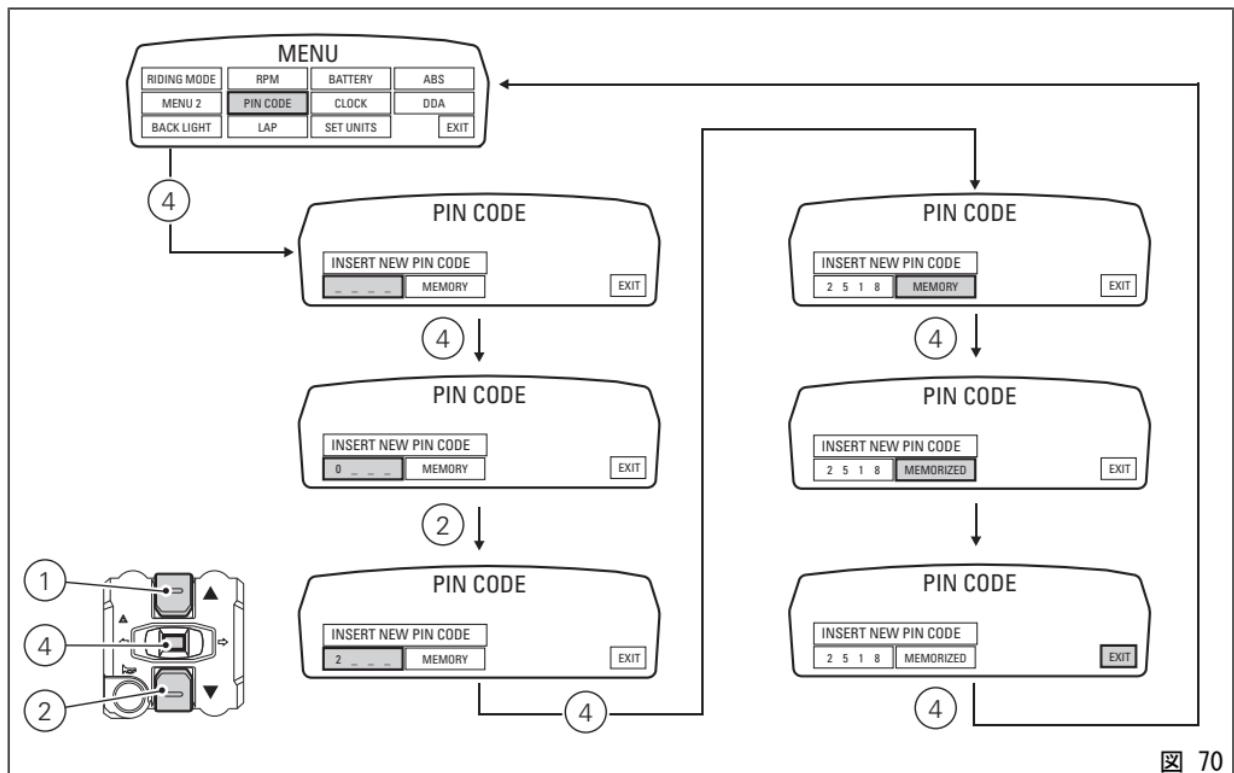


図 70

PIN CODE変更

この機能で4桁のPIN CODEの変更が可能となります。この機能に入るには、"設定"メニューページ 71を表示します。ボタン(1)または(2)を使用して"PIN CODE"を選択し、リセットボタン(4)を押して次のページに進みます。

参考

"INSERT NEW PIN CODE" および点線 "----" が直ちに表示された場合は、PIN CODE が入力されていないため機能していないことを示します。"PIN CODE 起動" 機能で PIN を入力してください。

機能に入り円形ディスプレイに"MODIFY PIN CODE"の表示と、その下に"OLD PIN"および緑色で4桁の点線 "----" が表示された場合は、PIN CODEがすでに設定されていることを示します。この時点で4桁のコードを入力します。

参考

PIN を変更するには、現在設定されている PIN を知っていなければなりません。

この時点で"古い" PIN (OLD PIN) を入力します。

リセットボタン(4)を押します。ボタン(2)を押すごとに表示数値が0から9まで変化し、また0に戻ります。リセットボタン(4)を押して数値を決定します。

同じ方法で4桁すべてを入力します。新たにリセットボタン(4)を押し、コードを確定します。コードが正しくない場合は、インストルメントパネルに点線"----"が再度表示されますので、コードを再入力してください。コードが正しく入力された場合、自動的に"CORRECT"が2秒間緑色で表示され、その後"NEW PIN"の隣にある点線"----"が自動的に選択表示されます。この時点で4桁の"新しい"コードを入力します。

リセットボタン(4)を押します。ボタン(2)を押すごとに表示数値が0から9まで変化し、また0に戻ります。リセットボタン(4)を押して数値を決定します。

同じ方法で4桁すべてを入力します。新たにリセットボタン(4)を押し、コードを確定します。自動的に"MEMORY"が選択表示されます。

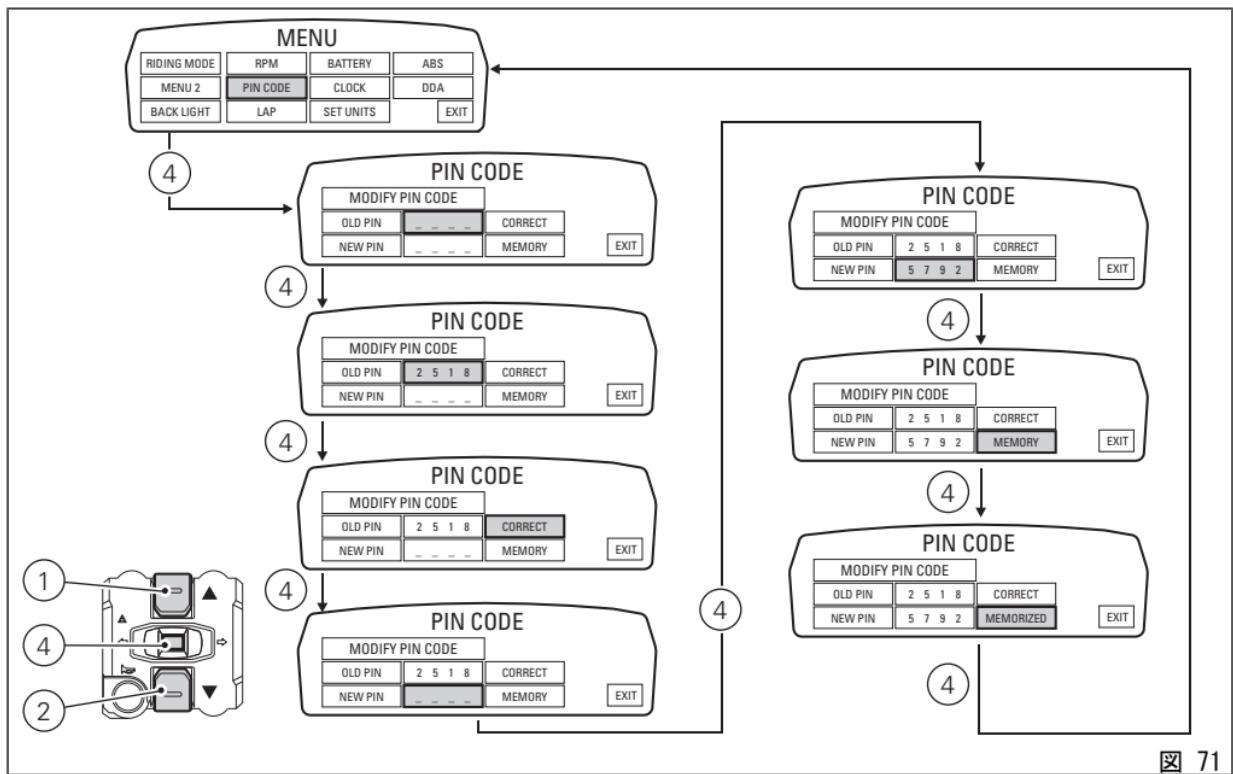


図 71

入力した新しいPINを保存するには、“MEMORY”を緑色で強調した状態でリセットボタン(4)を3秒間押します。

新しいPINが保存されるとディスプレイに“MEMORIZED”と約2秒間表示され、その後自動的に“EXIT”が選択表示されます。

この調整を終了するには、“EXIT”を選択してリセットボタン(4)を押します。



参考

PIN CODE の設定は何度でも可能です。

ランプコントロール

ヘッドランプコントロール

ヘッドランプが自動的にOFFとなり、バッテリーの消費量を抑えます。

Key-On時、ハイビームおよびロービームはOFFの状態です。エンジンを始動させるとロービームが自動的に点灯します。この時点から”通常”機能になります。ロービームからハイビームへ変更(ボタン(3)を利用)することができ、“FLASH”(ボタン(3)を利用)を使用することができます。

Key-Onした後エンジンを始動していない場合でも、左側スイッチでロー/ハイビームを点灯することができます(ボタン(3))。1回押すとロービームが点灯します。この時点から、同じボタンを利用してロービーム/ハイビームをON(及びOFF)にすることができます(60秒以内にエンジンが始動されない場合は、点灯しているロービームまたはハイビームは消灯します)。

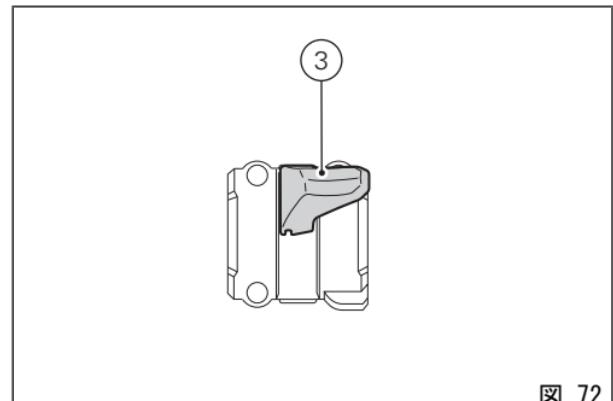


図 72

上記の手順でエンジンを始動する前にビームを点灯した場合、車両を始動させる際、自動的に一旦消灯し、エンジンが完全に始動した時点で点灯します。

ターンインジケーター（自動リターン機能）

インストルメントパネルでターンインジケーターの自動リターン機能の調節が可能です。

2つのうち、どちらかのターンインジケーターを点けた後リセットボタン(4)で解除することができます。手動リセットしなかった場合、500m(または0.3マイル)走行後、インストルメントパネルはインジケーターを自動的に解除します。自動解除の際、走行距離のカウントは80 Km/h (50 mph) 以下で行なわれます。走行距離カウントは自動解除が完了した後、80 km/h (50 mph) 以上で可能です。また、前述の速度を下回った場合、カウントは解除され、再開します。

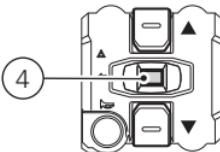


図 73

パーキング機能

この機能は“PARKING”モードを起動します。PARKING機能で車両停止の際、駐車が目立つよう、フロント/リアパーキングランプを点灯することができます。車両停止後60秒以内にボタン(2)を3秒間押すと機能を起動することができます。設定が完了すると、円形ディスプレイ上に5秒間表示され、ライトは2時間点灯され、その後自動的に消灯します。機能を中止するには、車両を起動および停止(Key-On / Key-Off)する必要があります。



参考 パーキング機能作動中に突然バッテリーからの電源が遮断された場合、電源回復時にインストルメントパネルは機能を停止します。



図 74

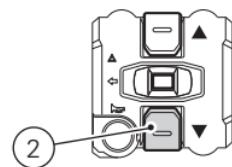


図 75

! 重要

この機能を頻繁に使用すると、バッテリーが著しく消耗する場合があります。必要な時にのみこの機能を使用するようしてください。

Ducati社はこの機能を必要な時のみに利用することをお勧めします。

表示”起動ボタンを押してステアリングをブロックしてください”

この機能はステアリングブロックを起動するにはボタンを押し続ける必要があることを示します。

この表示はボタン(8)が1秒間押されると表示されます。

KEEP
PRESSED
TO
LOCK

図 76

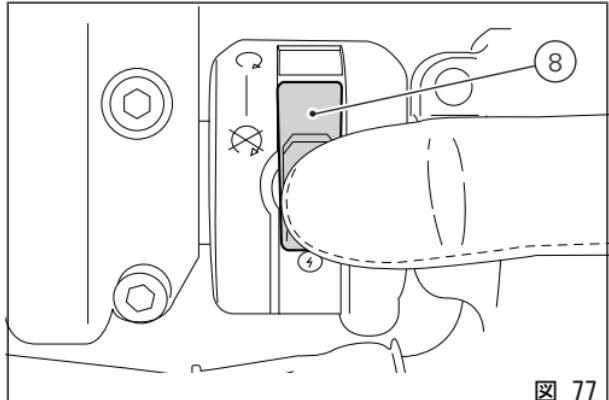


図 77

“ステアリングブロック”起動表示

この機能でステアリングブロックの起動を確認することができます。

車両のエンジンを切ってから60秒以内にRUNボタンを下に押すと、ステアリングロック状態に入ります。

正常にステアリングロック状態に入れば、インストルメントパネルのディスプレイ上に5秒間表示されます。

参考

ステアリングロックは正しいステアリングポジションでのみ起動することができます。

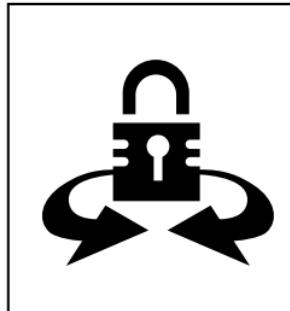


図 78

赤い起動ボタンに“不具合”の疑いの表示

この機能は、システムの異常な電力消費がないことを保証するため、ボタンを“上”位置に戻す必要があることを知らせます。



重要

短時間のうちに車体のバッテリーが切れる可能性があります。

この不具合の表示は、エンジン停止 (Key-Off) 後の60秒間表示されます。

停止 (Key-Off) するために起動ボタン (8) を1秒以上押し続けると、システムは “RED SWITCH NOT RELEASED” を点滅表示します。

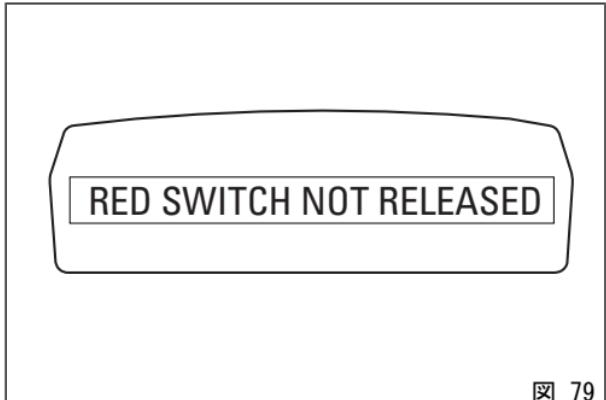


図 79

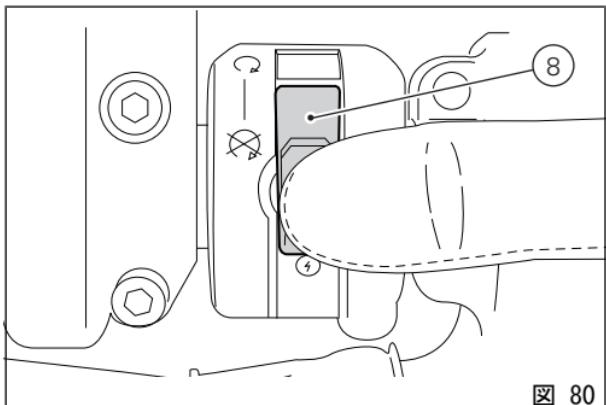


図 80

ボタン(8)を放した後も表示が続く場合は、ボタン(8)を“上”の位置に戻す必要があります。
この場合、不具合をDucatiディーラーまたはサービスセンターまでご連絡ください。

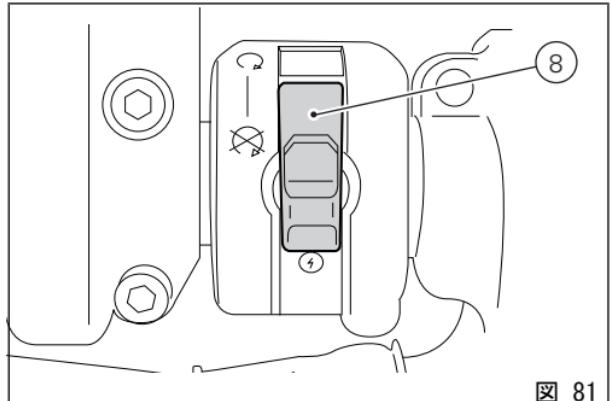


図 81

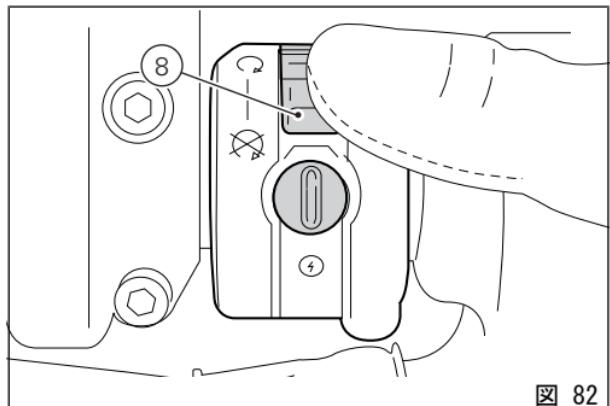


図 82

その他の機能

この機能でグリップヒーターの起動と調整を行います。

グリップヒーター制御メニュー “H. GRIPS” を起動するには、右側スイッチの START (5) ボタンを押します。

参考

 エンジンが稼動しているときのみ START (12) ボタンをグリップヒーター制御機能に使用することができます。

表示には 2 種類あります。

- メニュー 2 が起動している場合の表示
(図 83)
- メニュー 2 が起動していない場合の表示
(図 84)

メニューを起動したのち、同じボタンを押して希望の表示を選択することができます (“OFF”、“LOW”、“MEDIUM”、“HIGH” が大きく表示)。

“OFF” が大きく表示されると、グリップヒーターは解除されています。

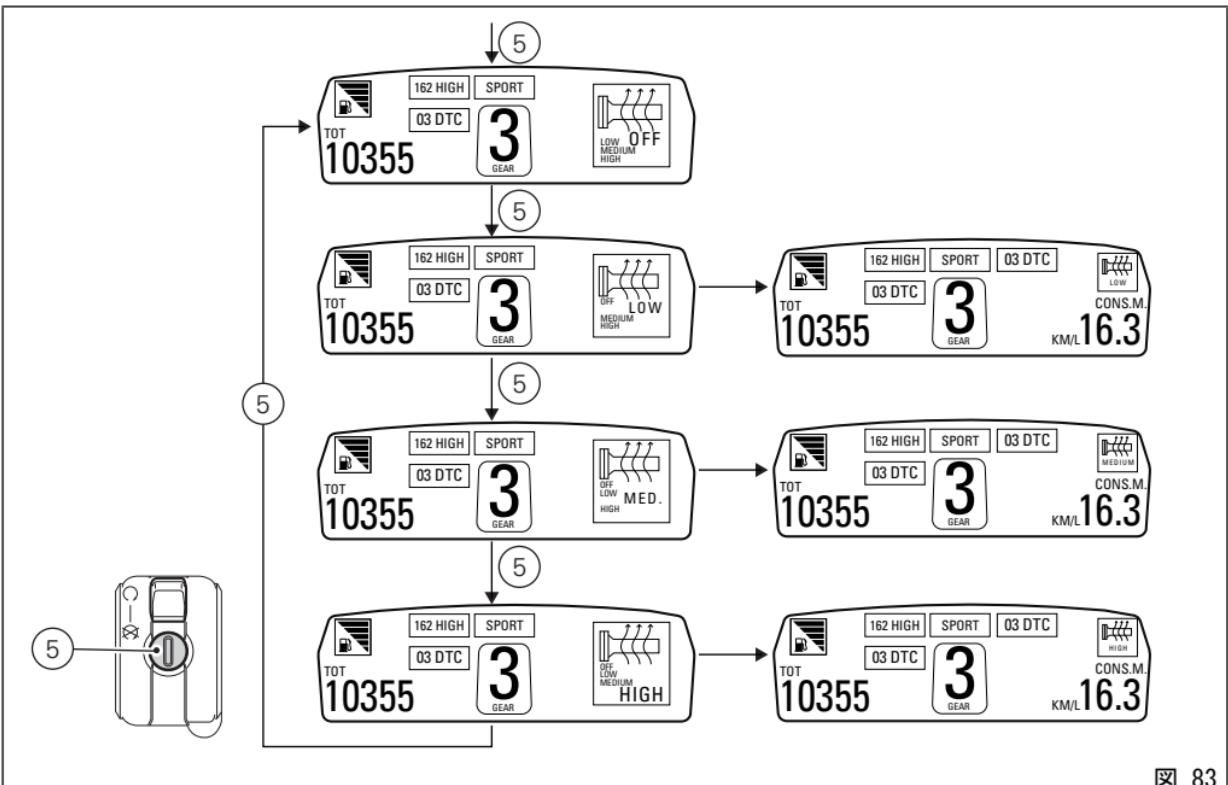
“LOW” が大きく表示されると、グリップヒーターが温度調整「低」で起動します。

“MEDIUM” が大きく表示されると、グリップヒーターが温度調整「中」で起動します。

“HIGH” が大きく表示されると、グリップヒーターが温度調整「高」で起動します。

希望の調整を選択したら、ボタン (5) をそれ以上押さないでください。3 秒間変更が行われないと、インストルメントパネルは最後に保存された状態を保持して自動的に表示を終了します。

グリップヒーターを起動した場合は、調整メニューが終了するとインストルメントパネルは黄色の専用アイコンを表示（メニュー 2 が起動している場合は右上に、メニュー 2 が起動していない場合は左上に表示）して調整タイプ（“LOW”、“MEDIUM”、“HIGH”）をユーザーに知らせます。



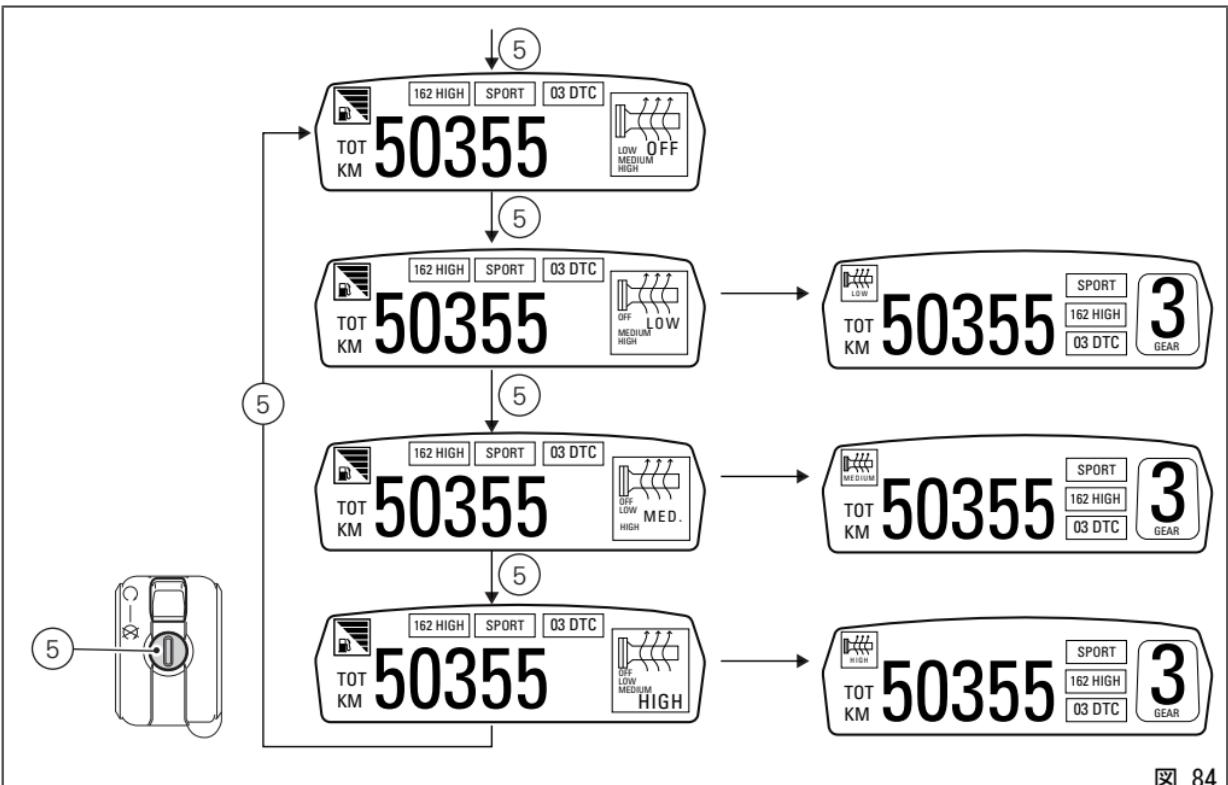


図 84



参考

グリップヒーターはエンジンが稼動している場合にのみ実際に作動（発熱）します。



参考

グリップヒーターが起動した状態でエンジンが停止している場合、グリップヒーターは“一時的に”作動を停止しますが、表示は継続して起動状態を示します。エンジンを再始動するとグリップヒーターは自動的に再起動します。



警告

故障するそれがありますので、外気温度が $15^{\circ}\text{ C} \sim 20^{\circ}\text{ C}$ を上回っているときにグリップヒーターを使用しないでください。



参考

グリップヒーターは電流消費が大きいため、エンジン低回転域ではバッテリーが上がるおそれがあります。バッテリーが充電不足（電圧が 11.9 V を下回っている）状態になると、エンジンの始動ができる状態を維持するためにグリップヒーターの作動を停止します。バッテリー電圧が前述の電圧値を上回ると、自動的に作動を開始します。

運転時に必要なコマンド

コマンド類の配置



警告

この章では車両を運転する上で必要なすべてのコマンド機能と配置を詳しく説明しています。コマンドを使用する前によくお読みください。

- 1) ハンドルバーのインストルメントパネル
- 2) Hands free システム
- 3) タンクのインストルメントパネル
- 4) 左側スイッチ
- 5) クラッチレバー
- 6) リアブレーキペダル
- 7) 右側スイッチ
- 8) スロットルグリップ
- 9) フロントブレーキレバー
- 10) ギアチェンジペダル

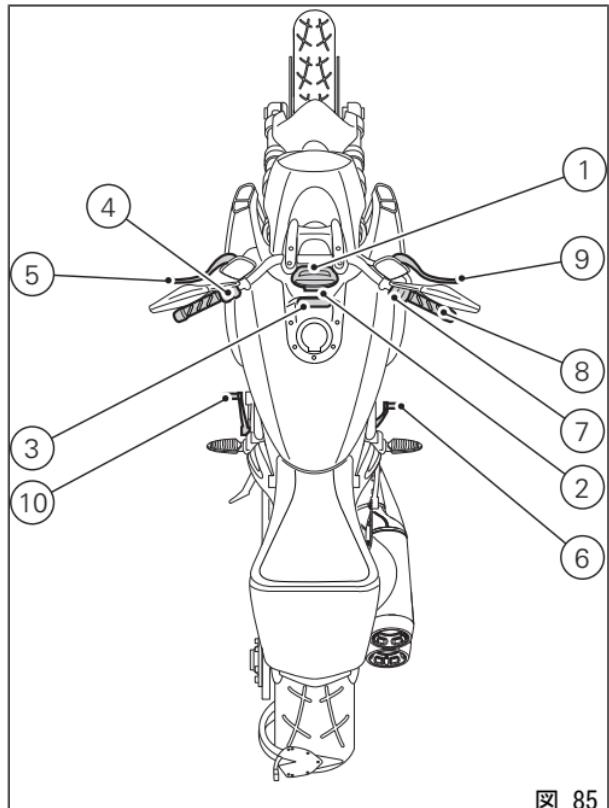


図 85

"Hands free"システム

Hands Free システムは、以下で構成されています。

- 1) Hands Free ブロック
- 2) アンテナ
- 3) アクティブキー
- 4) パッシブキー
- 5) フィラープラグ

"Hands Free" ボタン (7、図 88) はタンクの前部に設けられています。

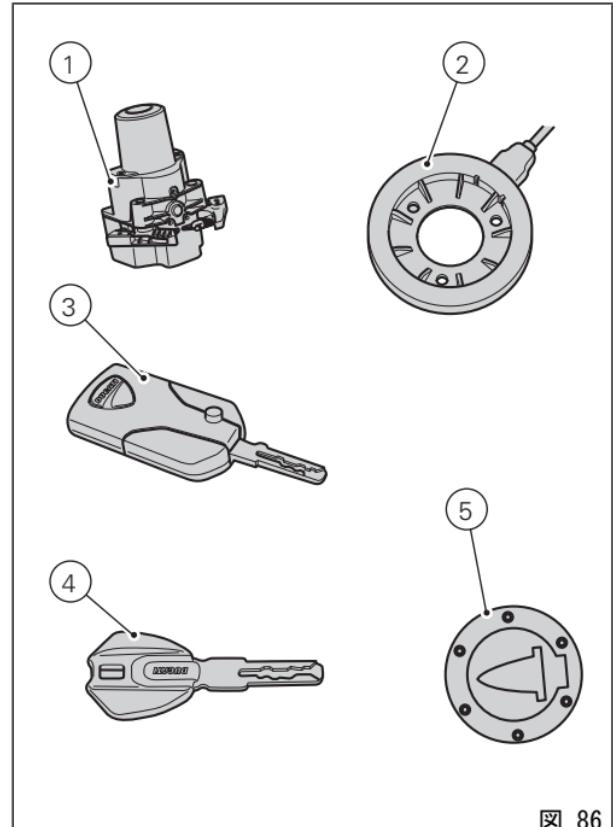


図 86

Hands Free システムの起動 “Key-ON”と停止 “Key-OFF”

Key-ON は Hands Free と全てのエレクトリックデバイスを起動します。Key-OFF は Hands Free と全てのエレクトリックデバイスを停止し、エンジンを確実に停止します。Key-ON するにはハンドルバー右側スイッチのボタン (6)、もしくは Hands Free ブロックの緊急ボタン (7) を使用します。Key-OFF するにはハンドルバー右側スイッチのボタン (6)、もしくは Hands Free ブロックのボタン (7) を使用します。



ボタン (6) または (7) は ON/OFF どちらにでも使用することができます。例えば、どちらかで ON にしてもう片方で OFF にすることができ、その反対も可能です。

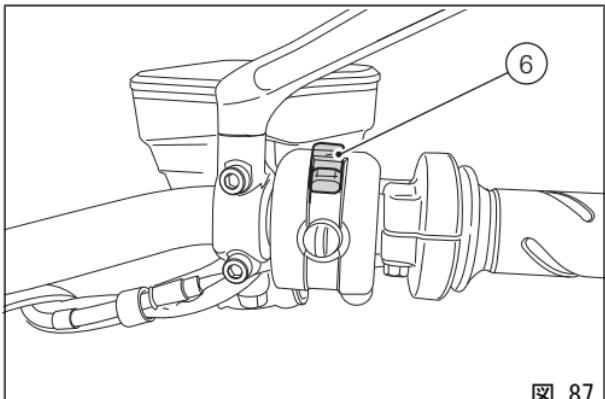


図 87

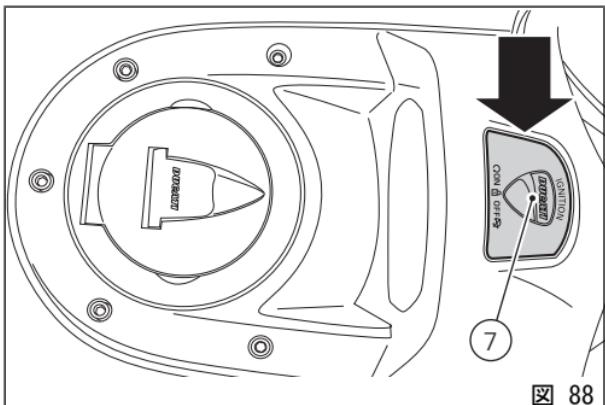


図 88

2 個のキー (3) もしくは (4) のいずれかがあるとき、または PIN CODE を入力して Key-ON することができます。Key-OFF はキー (3) または (4) がなくとも可能です。Key-OFF するには、車速がゼロのときにハンドルバーのボタン (6) か Hands Free ボタン (7) を押します。車速がゼロでないときの Key-OFF は、Hands Free ボタン (7) でのみ可能です。

キー (3) の金属部分 (A) は、フィラープラグを開けるときと、シートおよびバッグのロックに使用します。キー (3) の金属部分 (A) は、ボタン (B) を押すと柄の内側に隠れます。



参考

車両が Key-ON 状態にありエンジンが停止しているときにアクティブキー (3) の存在を 30 秒間検知できないと、車両はユーザーが何もしなくても自動的に停止します。

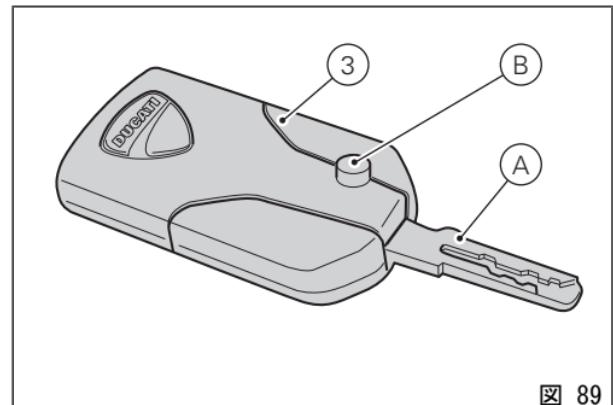


図 89

アクティブキーとハンドルバーの赤色ボタンによる Key-ON/Key-OFF

Key-ON するには、アクティブキー（3、図 86）があるときにハンドルバーの赤色ボタン（6）を HANDS FREE 起動/停止位置に押します。



アクティブキー（3）の作動範囲は半径約 1.5 m です。キーをその圏内に置いてください。

Key-OFF するには、ハンドルバーの赤色ボタン（6）を HANDS FREE 起動/停止位置に押します。車速がゼロであればキー（3、図 86）がなくても Key-OFF が可能です。

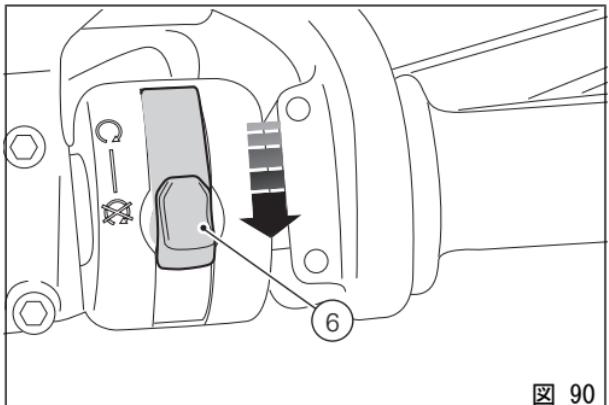


図 90

アクティブキーと Hands Free ブロックのボタンによる Key-ON/Key-OFF

Key-ON するには、アクティブキー（3、図 86）があるときに Hands Free ブロックのボタン（7）（1、図 86）を押します。



アクティブキー（3）の作動範囲は半径約 1.5 m です。キーをその圏内に置いてください。

Key-OFF するには Hands Free ブロックのボタン（7）（1、図 86）を押します。キー（3、図 86）がなくても Key-OFF が可能です。

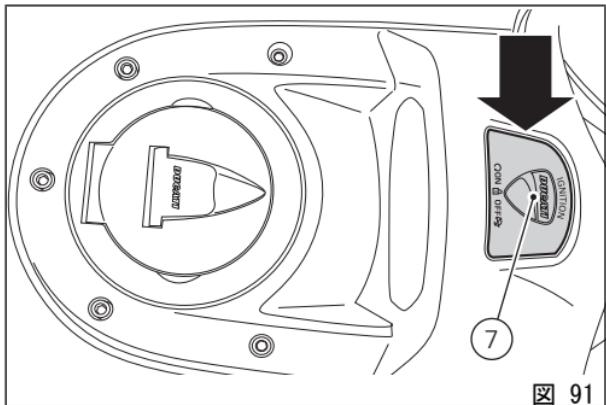


図 91

パッシブキーとハンドルバーの赤色ボタンによる Key-ON/Key-OFF

Key-ON するには、パッシブキー（4、図 86）があるときにハンドルバーの赤色ボタン（6）を HANDS FREE 起動/停止位置に押します。



参考 パッシブキーの作動範囲は半径数 cm です。キーをアンテナの近くに置いてください。アンテナに近づけるにはシートを取り外してください。

Key-OFF するには、ハンドルバーの赤色ボタン（6）を HANDS FREE 起動/停止位置に押します。車速がゼロであればキー（4、図 86）がなくても Key-OFF が可能です。

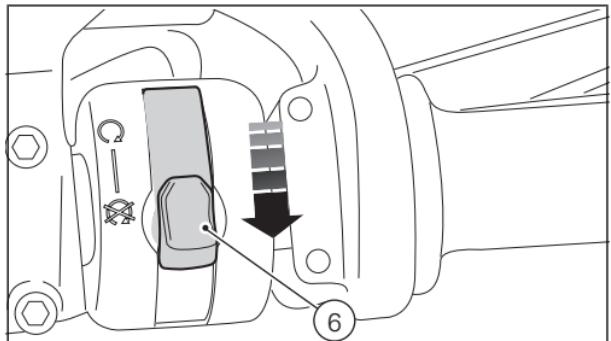


図 92

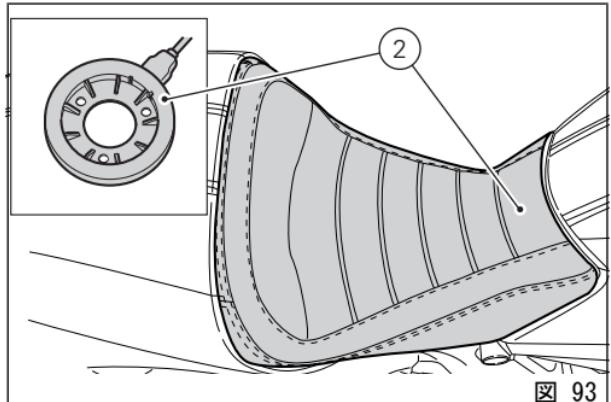


図 93

パッシブキーと Hands Free ブロックのボタンによる Key-ON/Key-OFF

Key-ON するには、パッシブキー（4、図 86）があるときに Hands Free ブロックのボタン（7）を押します。



参考 パッシブキーの作動範囲は半径数 cm です。キーをアンテナの近くに置いてください。アンテナに近づけるにはシートを取り外してください。

Key-OFF するには Hands Free ブロックのボタン（7）（1、図 86）を押します。キー（4、図 86）がなくても Key-OFF が可能です。

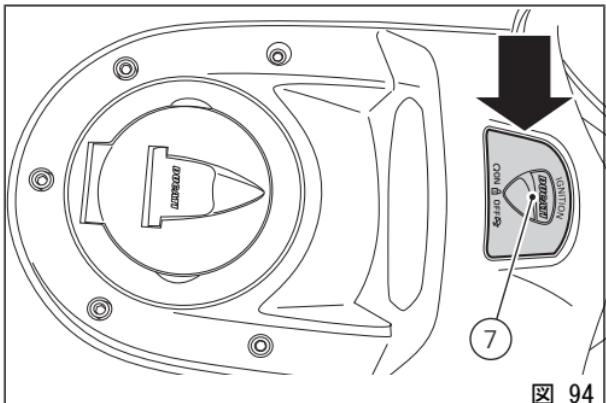


図 94

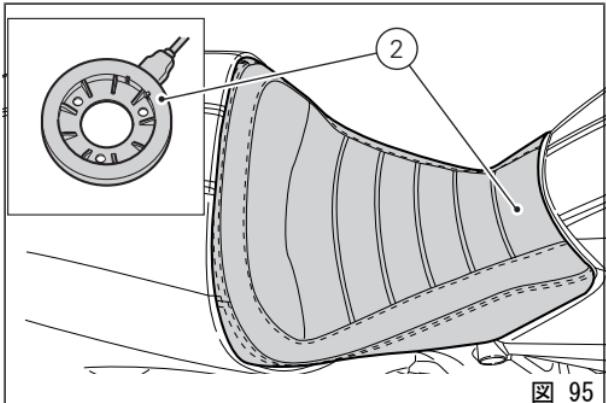


図 95

PIN CODE（イモビライザー解除）による Key-ON/Key-OFF

アクティブキー（3、図 86）とパッシブキー（4、図 86）がないときに Key-ON するには、Hands Free ブロックのボタン（7）（1、図 86）を押し、ダッシュボードで PIN CODE を入力します。Key-OFF するにはハンドルバーのボタン（6）/ Hands Free ボタン（7）/ エンジン OFF キーなしを押します。

Key-OFF した後、次の Key-ON 時にキーがない場合は PIN CODE を入力します。PIN CODE は車両受取り後にユーザーが入力します。PIN CODE を入力しないとこの機能は有効になりません。Hands Free ボタン（7）を押すと、インストルメントパネルにバックライトが点灯し、円形ディスプレイに 4 枠の PIN CODE 入力画面が表示されます。PIN CODE を正しく入力すると、インストルメントパネルが点灯し、エンジンが始動します。

PIN CODE の入力は 120 秒以内に完了してください。それを過ぎると自動的に Key-OFF します。

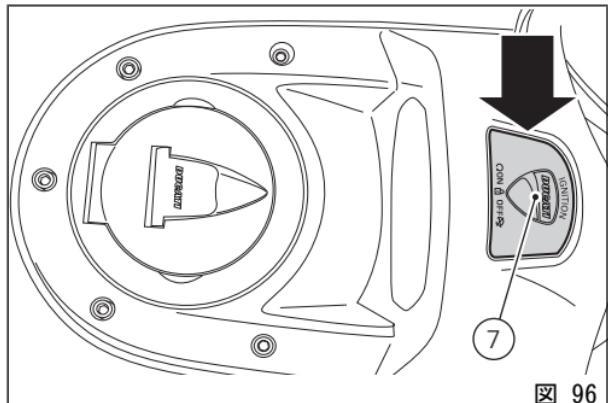


図 96

車両解除のための PIN CODE 入力機能

HF (Hands Free) システムに不具合が生じた場合、この機能を使用して車両を一時的に起動します。通常の始動ボタンで車両を起動できない場合は、“緊急”Hands Free ボタン (7) を押してこの機能を作動させます。

ボタンを押した後、インストルメントパネルのディスプレイに “INSERT PIN CODE” と表示され、その下に 4 枝の PIN コード入力用の点線 “---” が緑色で表示されます。

コードの入力 :

リセットボタン (4) を押します。

ボタン (2) を押すごとに表示数値が “0” から “9” まで移動し、また “0” に戻ります。

リセットボタン (4) を押して数字を決定します。この手順を繰り返して 4 枝すべての数字を入力します。新たにリセットボタン (4) を押し、コードを確定します。

PIN CODE が正しくない場合はインストルメントパネルに点線 “---” が表示されますので、PIN CODE を再入力してください。



参考

PIN CODE の入力は何度でも繰り返して行うことができます。ただし、PIN CODE 入力を始めて 120 秒後に、インストルメントパネルは自動的に消灯します。

PIN CODE が正しく入力された場合、ディスプレイには “CORRECT” の文字とともにコードが 3 秒間点滅表示されます。3 秒後、インストルメントパネルは通常表示（すべての表示がアクティブ）にもどります。

これ以降、車両の起動は Start ボタン (Key-ON) で可能になります。



参考

車両を停止 (Key-OFF) するまで、起動することができます。次の起動時に問題がまだ解消されていない場合、車両を “一時的” に起動するにはこの手順を最初から繰り返す必要があります。



重要

車両を起動するために上記のプロセスを踏まなければならない時は、早めに Ducati 正規サービスセンターにご連絡ください。

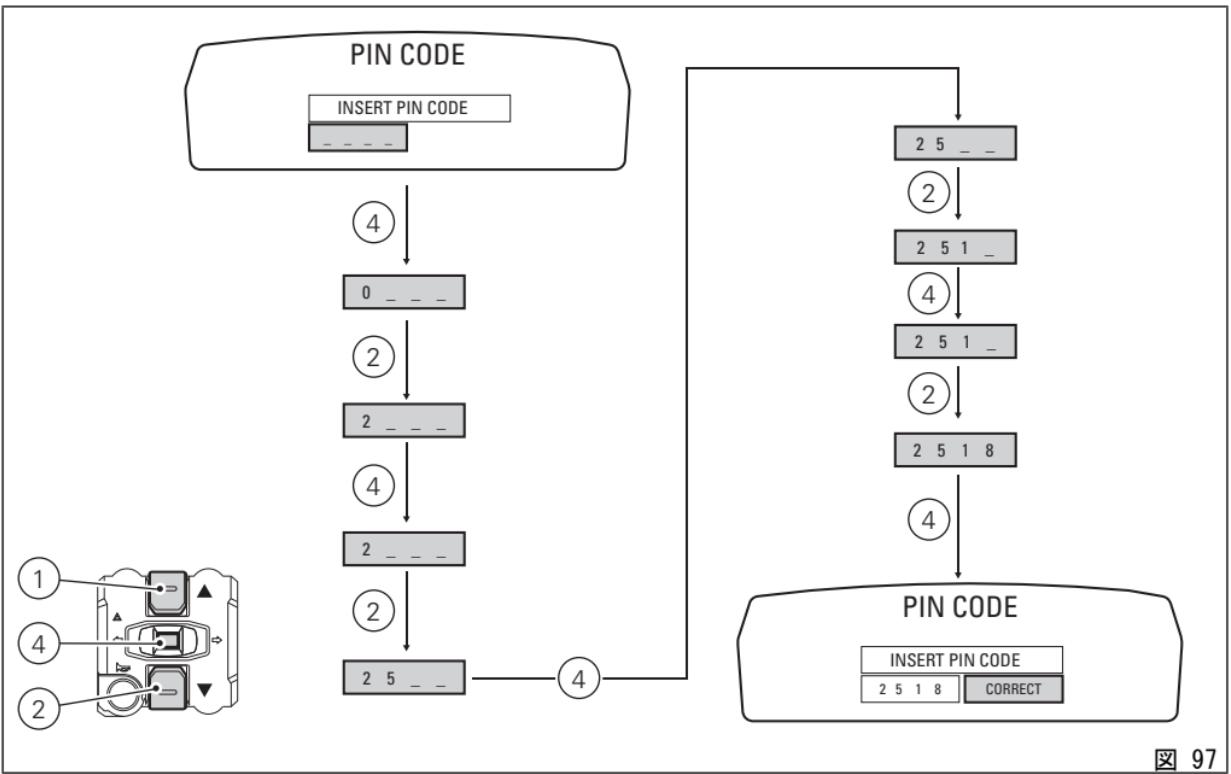


図 97

左側スイッチ

- 1) ディマースイッチ、ビームの選択、2ポジション：
(A) 下方向に押すたびに、ロービームライト点灯  からロービームライト&ハイビームライト点灯  に切り替わります。
(B) 水平に押した場合  = ハイビーム点滅 (FLASH)、“Start-Stop lap”機能。
- 2) ボタン  = ターンインジケーター、3ポジション：
中央 = OFF
ポジション  = 左折
ポジション  = 右折。
- 3) ターンインジケーター停止ボタン、Riding mode 起動とメニュー操作
- 4) ボタン  = 警告ホーン
- 5) メニュー操作ボタン、ディスプレイスクロールと TRIP1 と TRIP2 機能のリセット
- 6) メニュー操作ボタン、ディスプレイスクロール。

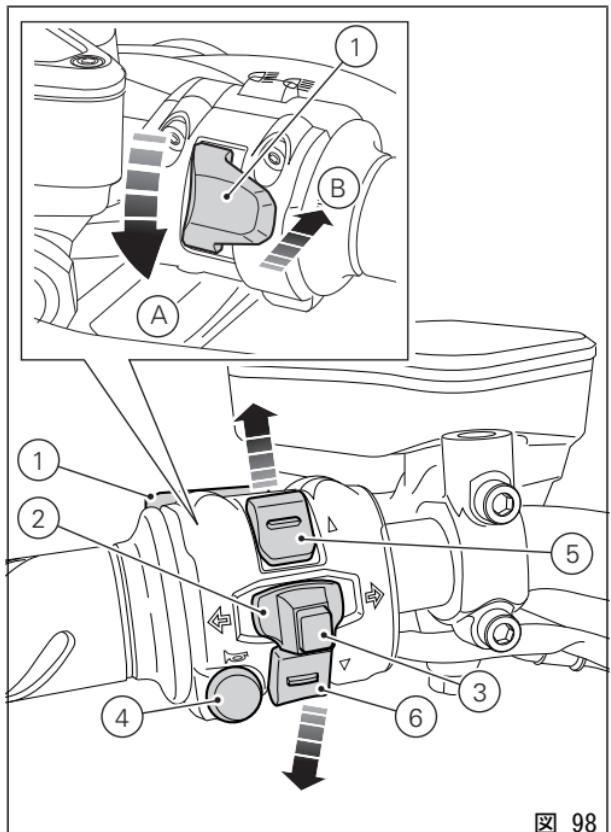


図 98

クラッチコントロールレバー

レバー(1)でクラッチの接続を操作します。この機種にはアジャスター(2)がついており、レバーとハンドルバー上のハンドル間の調整が可能です。レバーの間隔はアジャスター(2)の10クリックで調整できます。時計回りに回すとレバーはスロットルグリップから離れます。アジャスターを反時計回りに回すと近づきます。レバー(1)を操作すると、エンジンの回転がトランスミッションおよび駆動輪に伝わらなくなります。クラッチの適切な操作は、スムーズなライディング、特に発進時に重要です。



警告

クラッチおよびブレーキレバーの調整は停車時に行ってください。



重要

クラッチレバーを正しく操作することで、トランスマッisionの損傷を避け、エンジンの寿命を延ばすことができます。

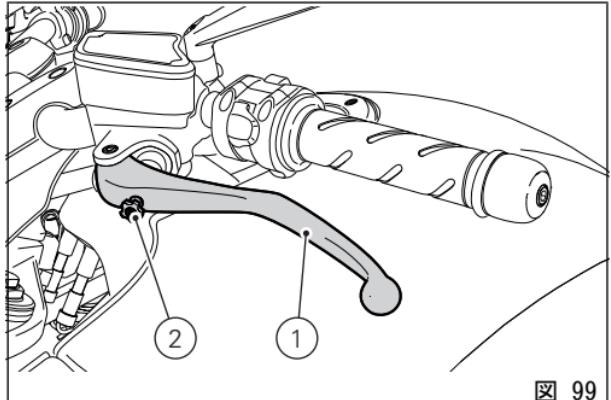


図 99



参考

サイドスタンドを下ろし、ギアがニュートラルの状態でエンジンを始動することができます。ギアが入った状態で始動する時は、クラッチレバーを引いた状態で行ってください（この時サイドスタンドは上がっていなければなりません）。

右側スイッチ

- 1) 赤スイッチ ON/OFF
- 2) 黒ボタン エンジン始動

スイッチ(1)は3ポジションあります。

A) 中央 : RUN OFF このポジションではエンジンの起動は不可、全てのエレクトリックデバイスは停止します。

B) 下部に押した場合 : 起動/停止このポジションでシステムの起動(key-on)および停止(key-off)が可能です。

C) 上部に押した場合 : RUN ON このポジションのみで、黒ボタン(2)を押しながら、エンジンの起動が可能です。

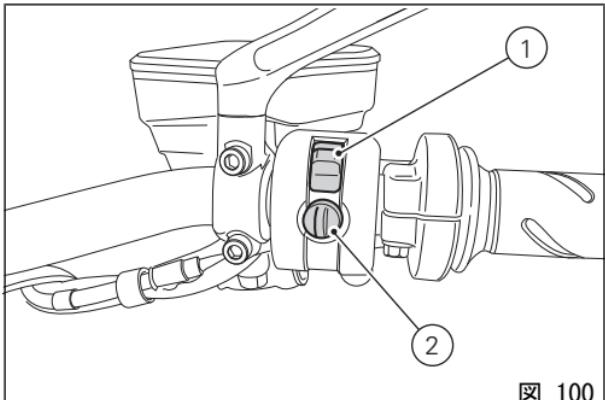


図 100

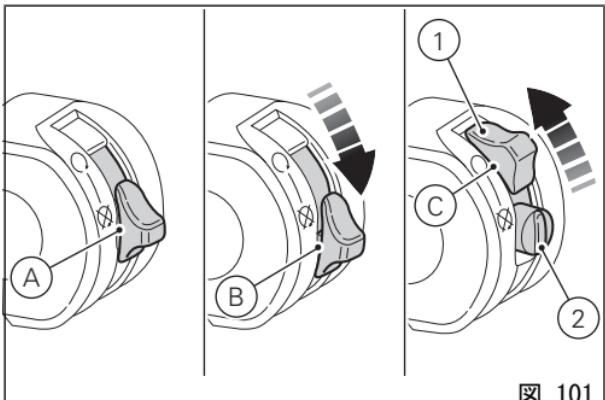


図 101

スロットルグリップ

ハンドルバー右側のスロットルグリップ(1)は、スロットルボディの開閉を操作します。
グリップを緩めると、自動的に元の位置(アイドリング状態)に戻ります。

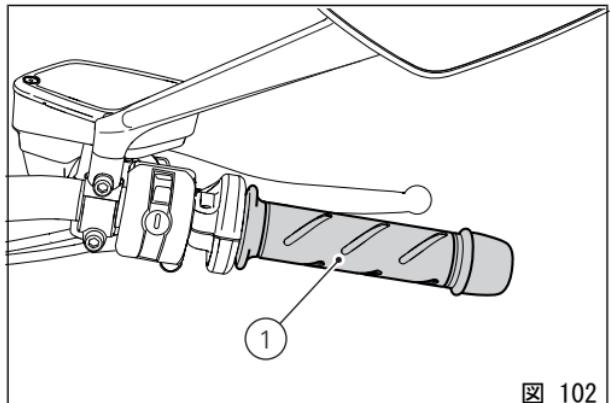


図 102

フロントブレーキレバー

レバー(1)をスロットルグリップの方向へ引くと、フロントブレーキがかかります。このレバーは油圧で作動するため、軽く握るだけで作動します。

コントロールレバー(1)にはつまみ(2)が付いており、レバーとグリップとの間隔が調整できるようになっています。

レバーの間隔はアジャスター(2)の10クリックで調整できます。

時計回りに回すとレバーはスロットルグリップから離れます。アジャスターを反時計回りに回すと近づきます。

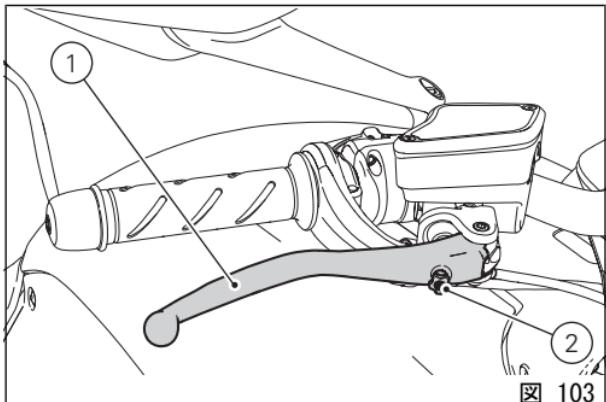


図 103

リアブレーキペダル

ペダル(1)を下に踏むことで、リアブレーキが機能します。

システムは油圧式で作動します。

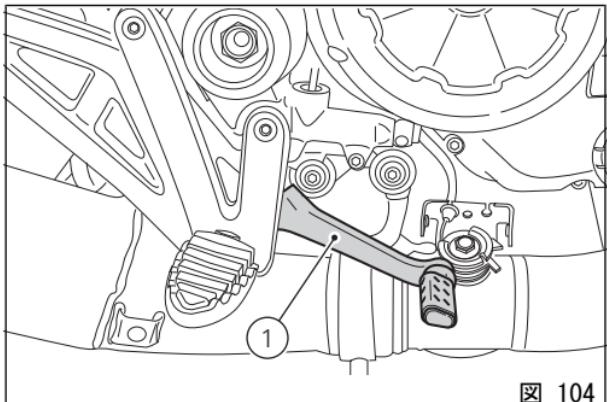


図 104

ギアチェンジペダル

ギアチェンジペダル(1)はニュートラルポジションNの中央位置に自動的に戻ります。ギアがニュートラルポジションにあるとき、インストルメントパネルにランプN(2、図3)が点灯します。

ペダルは以下のように動かせます：

- 下へ=シフトダウンおよび1速へのチェンジは、ペダルを下に押します。この時、インストルメントパネルのNランプが消えます。
- 上へ=ペダルを上へ上げることで、2速から順次3、4、5、6速へとチェンジします。

一回の操作が一速分のチェンジに相当します。

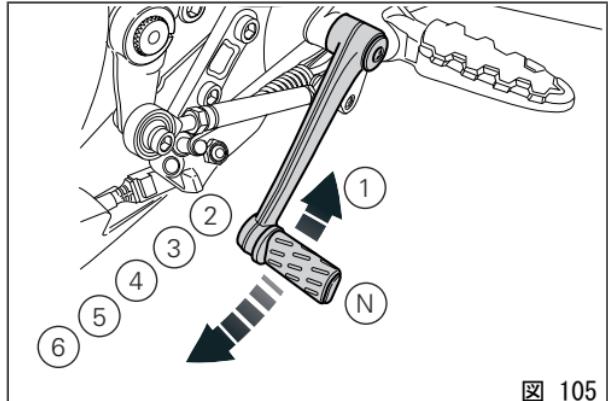


図 105

ギアチェンジペダルとリアブレーキペダルの配置調整

ギアチェンジペダルとリアブレーキペダルのポジションは、ライダーのライディングスタイルとフットペグの位置に合わせて調整することができます。

これらの調整は以下の手順で行ってください：

ギアチェンジペダル

ロッド(1)を固定しながら、ナット(2)と(3)を緩めます。



参考

ナット(2)は、逆ネジになっています。

ギアチェンジペダルを好みの位置に定めながら、レンチでロッド(1)の六角部分を回します。

ロッドに対して両ロックナットを締め付けます。

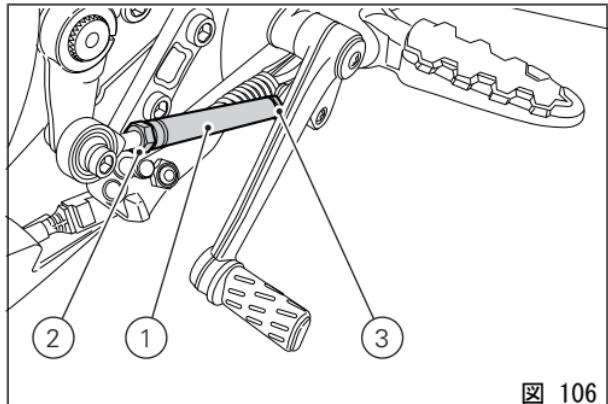


図 106

リアブレーキペダル

ナット(7)を緩めます。

ペダルが好みの位置になるまで、調整スクリュー(6)を回します。

ロックナット(7)を締め付けます。

ペダルを手で押しながら、ブレーキがかかり始める前に約3~6 mmの遊びがあることを確認します。

もし上記のような遊びが確認できない場合、マスター缸のロッドの長さを次の手順で調整します：

シリンダーのロッド上にあるロックナット(10)を緩めます。

フォーク(9)のロッド(8)の遊びを増やしたい場合は締め、逆に減らしたい場合は緩めます。

ロックナット(10)を締め付け、ペダルの遊びを点検します。

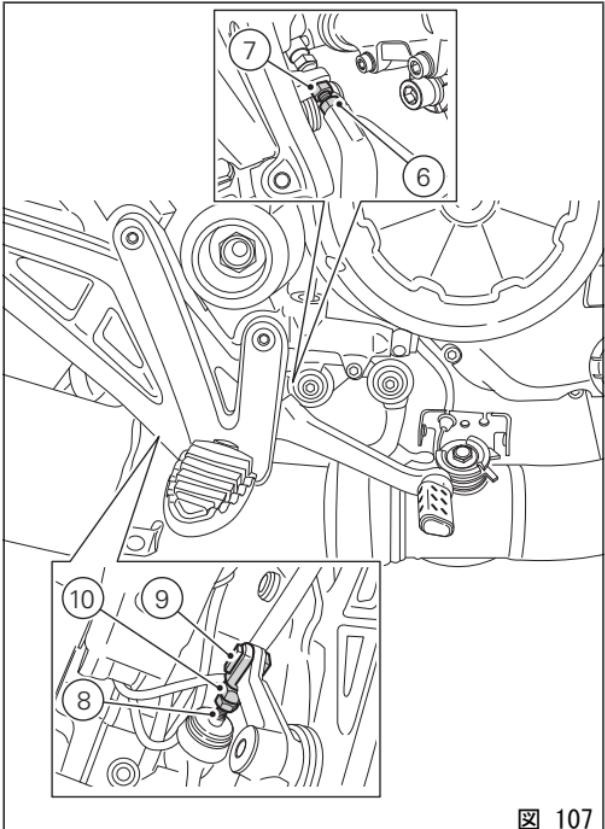


図 107

主要構成部品 / 装備

車両上の配置

- 1) フィラープラグ
- 2) シートロック
- 3) サイドスタンド
- 4) リアビューミラー
- 5) フロントフォークアジャスター
- 6) リアショックアブソーバーアジャスター
- 7) 触媒
- 8) エキゾーストサイレンサー

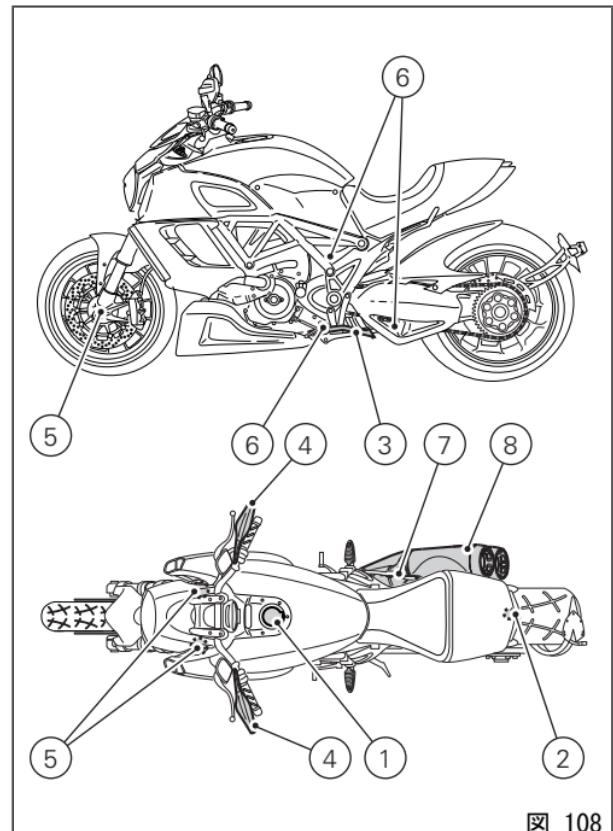


図 108

燃料フィラープラグ



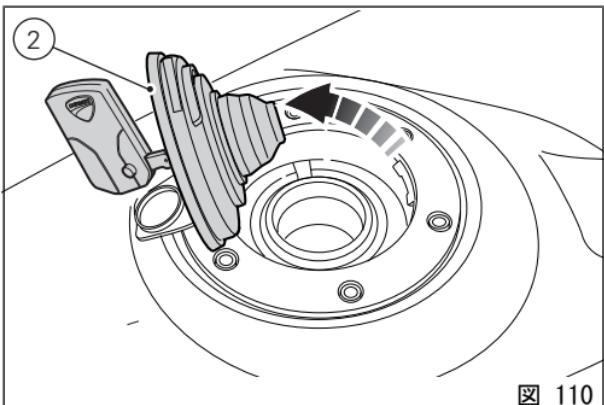
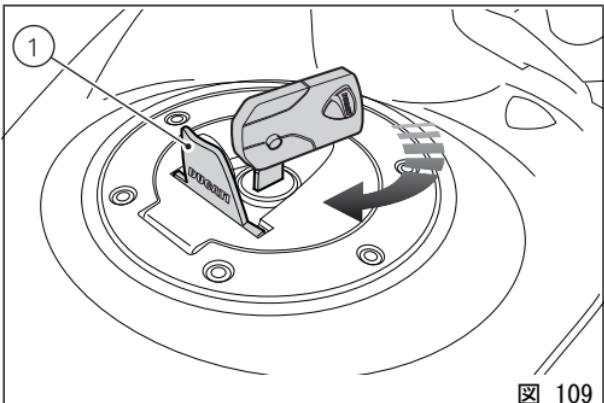
参考 アクティブキーを使用してフィラープラグを開閉するには、キーの金属部分を中間位置まで開きます。

開け方

プラグの保護カバー(1)を起こし、アクティブキーもしくはパッシブキーを挿入します。
キーを時計回りに1/4回転してロックを解除します。
プラグ(2)を起こします。

閉じ方

キーの差し込まれたプラグ(2)で押しながら閉じてください。
キーを抜き取り、プラグの保護カバー(1)を閉じます。





参考

キーが挿入された状態でのみキャップを閉める
ことが可能です。



警告

燃料補給後は、必ずキャップが確実に閉じてい
ることを確認してください。

シートロック

シートを取り外し、シート下のスペースおよび装置の作業を行うには、ロック（1）を操作します。

シートの取り外し

ロック（1）にアクティブキーまたはパッシブキーを差し込み、時計回りに回しながら同時にラッチの近くを押し下げてピンを外します。

フロントストッパーからシートを後ろ側へ引き抜きます。

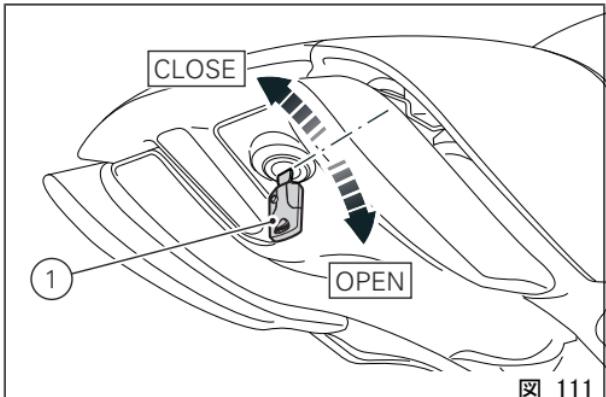


図 111

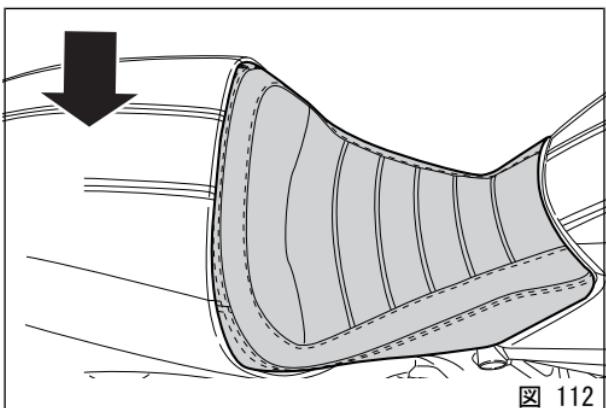


図 112

ヘルメットキャリーケーブル



参考

ヘルメットキャリーケーブルはツールキット内に収納されています。

ヘルメットにケーブルを通し、ピン（3）にケーブルの先端を挿入します。ヘルメットを吊るした状態でシートを取り付け、固定します。



警告

本装置は駐車中のヘルメットの盗難予防に使用します。ヘルメットを取り付けた状態で走行しないでください。運転の妨げになるだけでなく、車両のコントロールを失うおそれがあります。

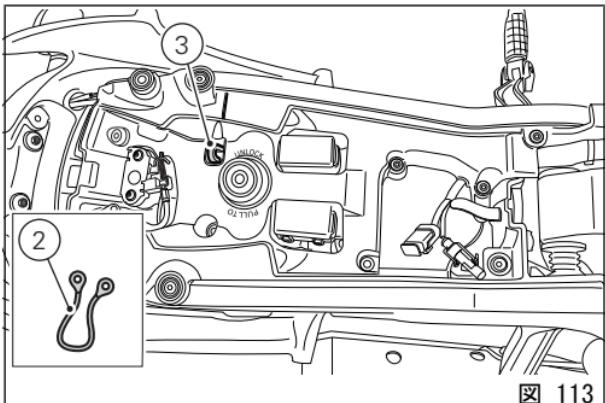


図 113

シートの取り付け

すべての部品がシート下に正しく配置され、固定されていることを確認します。シート底部のブラケット（4）をフレームの突出部（5）に差し込みます。カチッと音がしてロックがかかるまで、シートの後端部を押します。シートがしっかりとフレームに固定されていることを確認し、ロックからキーを取り外します。

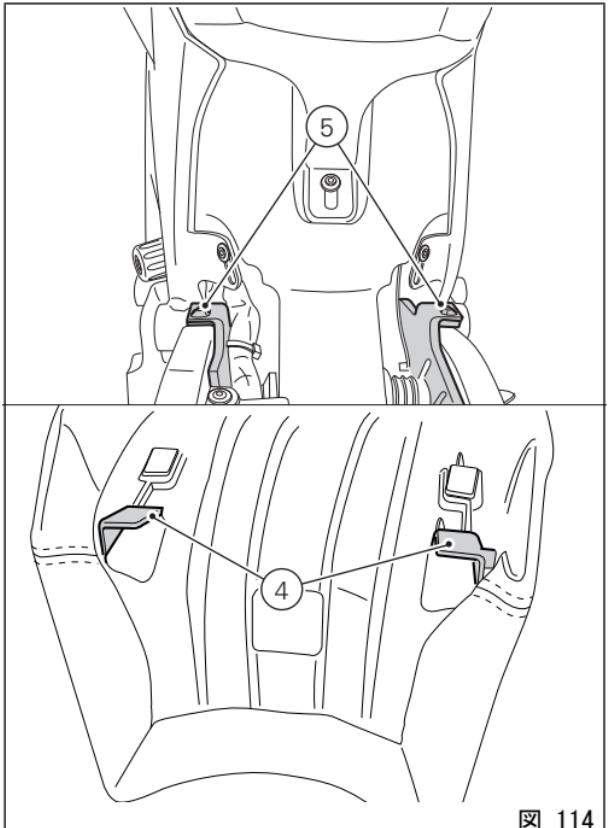


図 114

サイドスタンド



重要

短時間停車する場合に限り、サイドスタンドを使用して車両を支えます。サイドスタンドを使用する前に、地面に十分な固さがあり平らであるかを確かめてください。

柔らかい地面、砂利、日光で柔らかくなつたアスファルト等にパーキングすると、車両転倒の原因となります。傾斜面に停車する場合は、常にリアホイールが斜面の低い側になるようにして下さい。

サイドスタンドを使用するには、ハンドルバーを両手で掴み、車体を支えながら、スタンドのフック(1)を足でいっぱいに押します。次に、スタンドがしっかりと路面に着くまで、車体を徐々に傾けていきます。

サイドスタンドを元の位置(水平位置)に戻すには、車両を右側に傾けながら、足でスタンドのアーム(1)を持ち上げます。

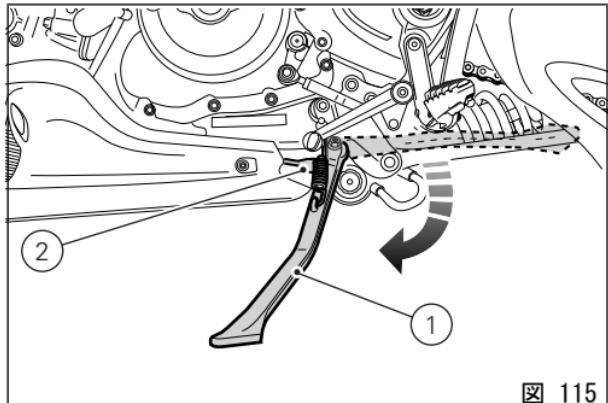


図 115



警告

サイドスタンド使用時には、車両にまたがらないでください。



参考

定期的にスタンド(内側と外側 2 つのスプリングの状態)と安全センサー(2)の作動を点検することをお勧めします。

 参考

サイドスタンドを下ろし、ギアがニュートラルの状態でエンジンを始動することができます。ギアが入った状態で始動する時は、クラッチレバーを引いた状態で行ってください（この時サイドスタンドは上がっていないければなりません）。

パッセンジャーハンドル

パッセンジャーハンドル（1、図 116）はバックテール内に設置されています。取り出すにはシートを取り外し（ページ 160 ページ、“シートの取り外し”参照）、つまみ（2、図 116）を持ち上げ、同時に収納位置からハンドル（1、図 116）をいっぱいまで引き出します。



警告

使用する前に、前後に引っ張ってパッセンジャーハンドルが正しい位置に固定されていることを確認してください。

元に戻すには、つまみ（2、図 116）を持ち上げ、パッセンジャーハンドル（1、図 116）をバックテール（1、図 117）の収納位置に完全に入るまで押します。シートを再度取り付けます（ページ 160 ページ、“シートの取り付け”参照）。

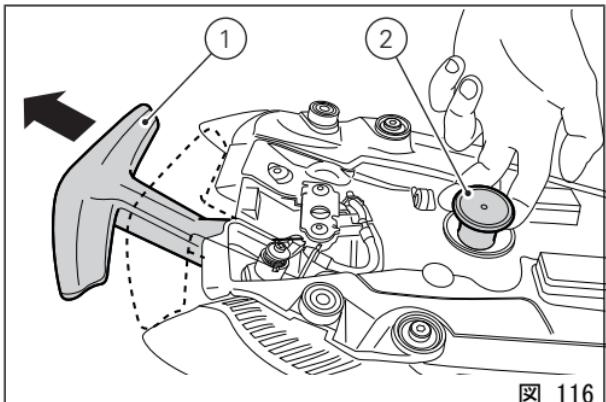


図 116

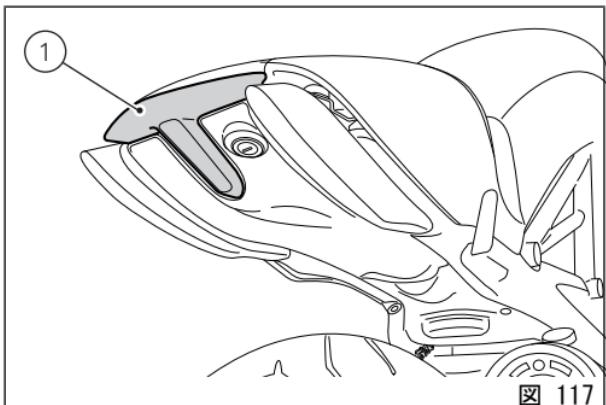


図 117

フロントフォーク調整

車両のフォークは、リバウンドダンピング（リターン）、コンプレッションダンピング、およびスプリングプリロードの調整が可能です。

調整はアジャスターを使用して行います。

- 1) リバウンドダンピング調整（図 118）
- 2) スプリングプリロード調整（図 118）
- 3) コンプレッションダンピング調整（図 119）

車両をサイドスタンドで支え、安定した場所に駐車します。リバウンドダンピングを調整するには、各フォークレッグ先端にあるアジャスター（1）を回します。コンプレッションダンピングを調整するには、各レッグのフォークボトムに設けられたアジャスター（3）をマイナスドライバーで回します。アジャスター（1）およびアジャスタースクリュー（3）を回してダンピングを調整します。アジャスターをいっぱいに締め込むと“0”位置になり、ダンピングが最強にセットされます。この位置から反時計回りに回し回転数を数えることができます。

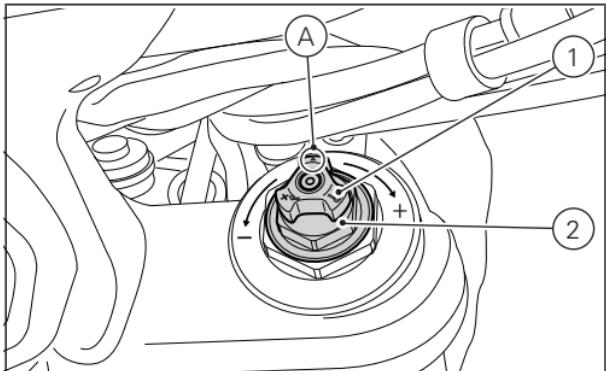


図 118

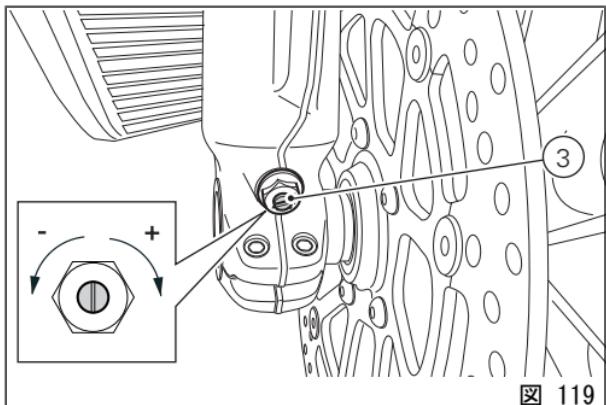


図 119

各レッグのスプリングプリロードを調整するには、すべて開いた位置から六角形のアジャスター(2、図 118)を 22 mm の六角レンチで回転させます（時計回り）。

基準位置（A、図 118）から時計回りに 1 回転がスプリングプリロード 1 mm に相当し、最大値 15 mm は 15 回転に相当します。

すべて閉じた位置からの標準設定は以下の通りです。

- コンプレッション：1.5 回転
- リバウンド：1.5 回転
- スプリングプリロード：すべて開く



警告 アジャスターは両方のレッグで同じ位置に調整してください。

リアショックアブソーバー調節

リアショックアブソーバーは荷重に合わせてバランスを調整できるよう外部アジャスターを装備しています。

アジャスター（1、図 120）は、リアショックアブソーバー下側をスイングアームに固定する位置にあり、リバウンドダンピングを調整します。

車体左側にあるアジャスター（2、図 121）は、ショックアブソーバーのスプリングプリロードを調整します。

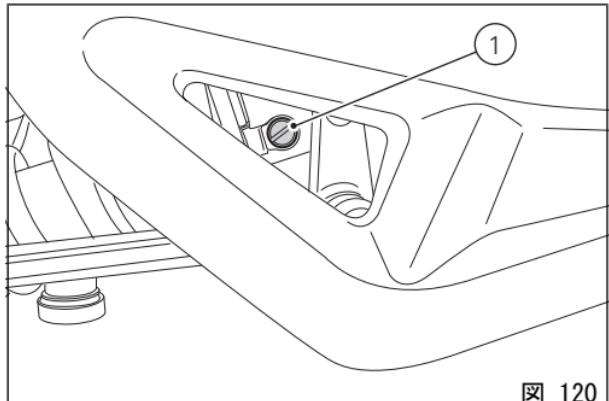


図 120

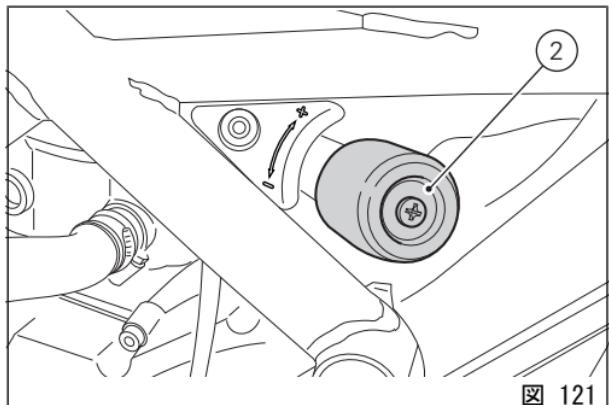


図 121

ショックアブソーバーのリザーバータンクに設けられたアジャスター（3、図 122）は、コンプレッションダンピングを調整します。アジャスター（1）をドライバーで、またはアジャスター（2）、（3）を時計回りに回すと、ダンピングもしくはプリロードが増加します。

標準設定：すべて閉じた状態から（時計回り）次の数値だけ緩めます。

- リバウンド：アジャスター（1）、すべて閉じた位置から 12 クリック開く
- プリロード：アジャスター（2）、すべて開く
- リバウンド：アジャスター（3）、すべて閉じた位置から 25 クリック開く

車両総重量で走行する場合は、リアショックアブソーバーのスプリングプリロードを最大に調整してください。これによりハンドリングを向上し、車両が地面に接触するのを防ぎます。

参考

車両総重量で走行する場合は、リアショックアブソーバーのスプリングプリロードを最大に調整してください。これによりハンドリングを向上し、車両が地面に接触するのを防ぎます。

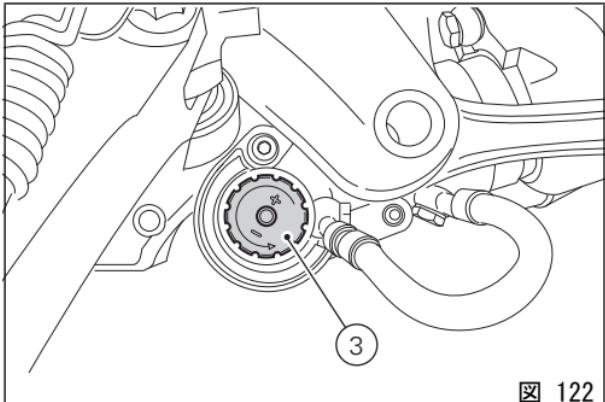


図 122



警告

ショックアブソーバーには高圧のガスが充填されています。未経験者による分解作業は重大な損傷の原因となる恐れがあります。

サスペンション設定の選択

表に記載されている値は、ライダーの衣類込みの体重を 80~90 kg、パッセンジャーの衣類込みの体重を 70~80 kg と想定した場合の値です。

フロントフォーク					
	範囲	標準	スポーツ走行	コンフォート走行	ライダー + パッセンジャー
コンプレッション	0 ~ 3 回転	1.5 回転	1 回転	2 回転	1.5 回転
リバウンド	0 ~ 3 回転	1.5 回転	1 回転	2 回転	1.5 回転
プリロード	0 ~ 15 回転	0 回転	7 回転	0 回転	10 回転

リアショックアブソーバー					
	範囲	標準	スポーツ走行	コンフォート走行	ライダー + パッセンジャー
コンプレッション	0 ~ 40 クリック	25 クリック	6 クリック	35 クリック	20 クリック
リバウンド	0 ~ 24 クリック	12 クリック	2 クリック	12 クリック	12 クリック
プリロード	0 ~ 54 クリック	0 クリック	25 クリック	0 クリック	40 クリック

運転のしかた

慣らし運転の方法

慣らし運転時の最高速度

慣らし運転期間中および通常使用においてのエンジン最大許容回転数：

- 1) 1,000 kmまで
- 2) 1,000~2,500 kmまで

1,000 kmまで

最初の1,000 kmまではタコメーターに注意し、5,500 ~6,000 rpmを決して超えないようにしてください。

最初の数時間は、規定回転数の範囲内でエンジンの負荷と回転数を色々変えることをお勧めします。

エンジン、ブレーキ、サスペンションのより効果的な慣らしには、カーブが多く起伏に富んだ場所を行なうことが理想的です。

最初の100 kmは、ブレーキディスクに対してパッドの摩擦材を適切に慣らすために、優しくブレーキをかけ、急なブレーキや長い間ブレーキをかけることは避けて下さい。全ての機械部分を互いに馴染ませ

るため、また、エンジンの主要部分の寿命に悪影響が出ないよう、急な加速や、特に上り坂での長時間にわたる高速回転は避けて下さい。

定期的にチェーンを点検し、必要であれば潤滑し、調整して下さい。

1,000~2,500 kmまで

この間はエンジンからよりパワーを引き出す事は可能ですが、7,000 rpmを決して超えないようにしてください。

!**重要**

慣らし運転期間は、保証書に指定されている点検、整備を必ず受けてください。この条件が遵守されなかった結果としてのエンジンの損傷や寿命の短縮については、Ducati モーター・ホールディング社はいかなる責任も負うものではありません。

慣らし運転の方法を守ることでエンジンの寿命を延ばし、調整、オーバーホールの回数を抑えることができます。

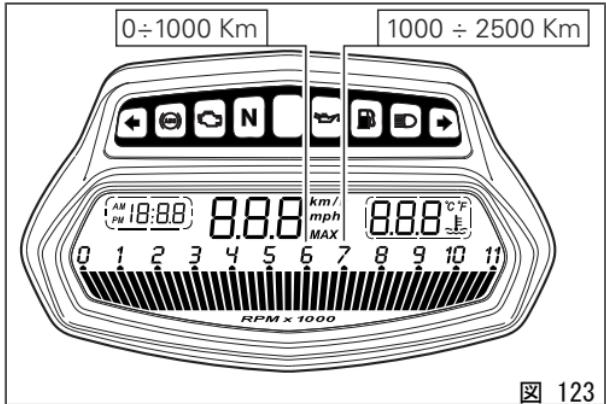


図 123

走行前の点検事項



警告

走行前にこれらの点検を怠ると、車両に損傷を与える、ライダーやパッセンジャーを危険に晒すおそれがあります。

走行前に以下の点検を実施してください。

- タンク内の燃料量

タンク内の燃料の残量を確認します。必要であれば給油してください (ページ 185)。

- エンジンオイル量

クランクケースの点検窓でオイルレベルを確認します。必要に応じて充填してください (ページ 213)。

- ブレーキおよびクラッチフルード量

各リザーバータンクのフルードレベルを確認します (ページ 187)。

- クーラント量

リザーバータンクのクーラントレベルを確認します。必要であれば補充してください (ページ 187)。

- タイヤコンディション

空気圧と摩耗度を点検します (ページ 211)。

- コマンド機能

ブレーキ、クラッチ、スロットルグリップ、ギアチェンジレバーまたはペダルを作動させて機能を確認します。

- ランプ類、インジケーター

ランプ、インジケーター、警告ホーンが正しく機能するかを確認します。ランプが作動しない場合は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

- ロック類

フィラープラグ (ページ 158) およびシート (ページ 160) のロックを確認します。

- スタンド

サイドスタンドがスマーズに作動し、適切な位置にあるかを確認します (ページ 163)。

ABS ランプ

Key-ON 後も ABS ランプ (9) は点灯し続けます。走行速度が 5 km/h を越えた時点でランプが消灯する場合は、ABS システムが正常に作動していることを示します。



警告

異常が見つかった場合は車両の使用を中止し、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

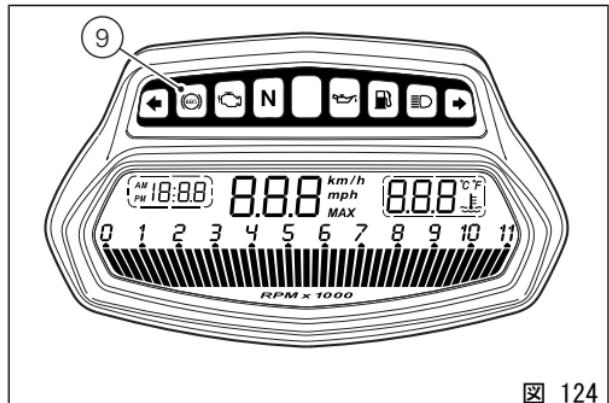


図 124

ABS 装置

フロントフォニックホイール（1）とリアフォニックホイール（2）が汚れていないことを確認します。

警告

汚れなどが付着して読み取り窓が詰まっていると、システムが正常に機能しないおそれがあります。泥道を走行する時には ABS システムがうまく機能しない場合があります。システムを OFF にしておくことをお勧めします。

警告

ウィリー走行を長く続けると、ABS システムが停止してしまうおそれがあります。

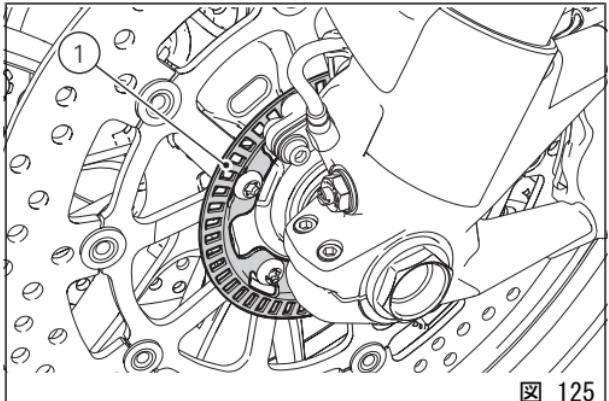


図 125

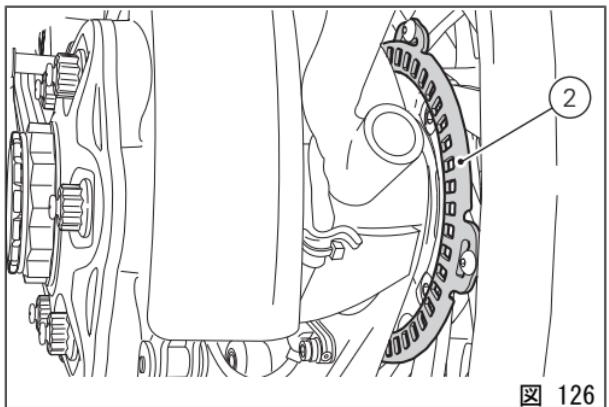


図 126

エンジン始動/停止



警告

エンジンを始動する前に、運転に必要なコマンド類の取り扱いに十分慣れておいてください。



警告

屋内では絶対にエンジンをかけないでください。排出ガスは有毒です。短時間で意識を失ったり、さらには死に至る危険性があります。

右ハンドルの赤いスイッチ(1)を下にずらしながら、アクティブキーまたはパッシブキーで“key-on”(Hands freeシステムと全てのエレクトリックデバイスの起動)状態にしてください。

ハンドルバーのインストルメントパネルは初期設定と車両システムコントロールを開始し、外側から内側に連続で全てのランプを数秒点灯します。このコントロールの後、緑のランプN(2)と赤いランプ(3)のみが点灯します。

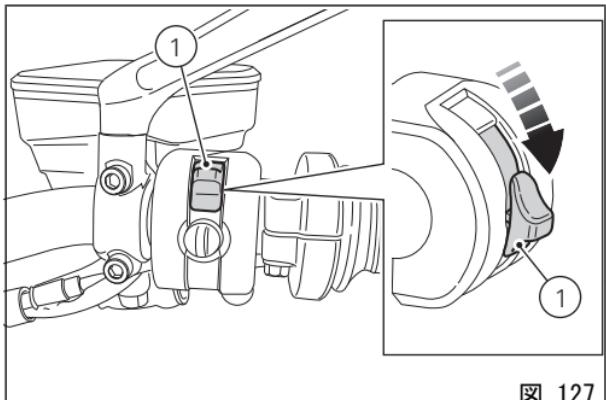


図 127

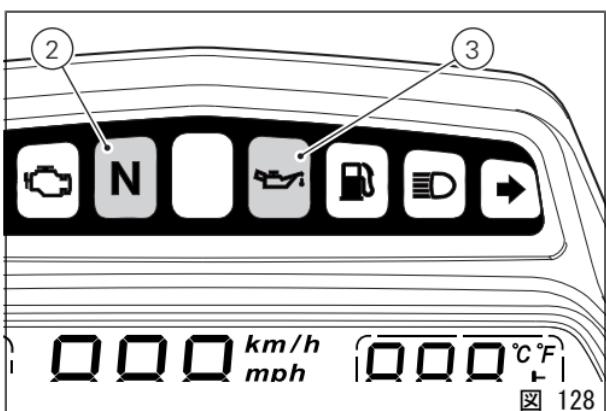


図 128

⚠ 警告

サイドスタンドが完全に上げられて（水平）いない場合は、安全センサーが作動してエンジンを始動することはできません。

Key-on後、まだエンジンを始動していない状態でアクティブキーが10秒間連続して感知されなかった場合、システムは自動的にkey-offになります。

参考

サイドスタンドを下ろし、ギアがニュートラルの状態でエンジンを始動させることができます。または、ギアが入った状態で始動する時は、クラッチレバーを引いたままの状態で始動させてください（この時サイドスタンドは上がっていなければなりません）。

黒いボタン（4）が見えるように、赤いスイッチ（1）を上にずらして下さい。

エンジン起動のため、ボタン（4）を押して下さい。

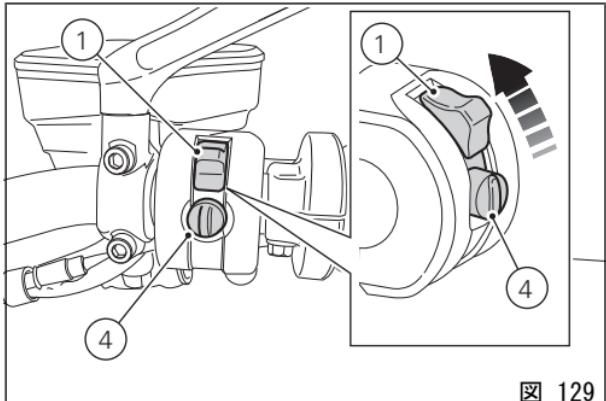


図 129

⚠ 重要

エンジン冷間時は回転数を上げすぎないでください。潤滑が必要なすべての部分にオイルを行き渡らせるために、エンジンが温まるまで待ってください。

オイル圧の赤いランプは、エンジン起動後数秒で消えます。

ハンドルの赤いスイッチ（1）をRUN OFFに入れるとエンジンが停止します。



参考

Hands freeシステムおよび全ての電子装置の起動に関しては、“Hands Freeシステム”も参照してください。

車両の発進

- 1) クラッチレバーを引いてクラッチを切れます。
- 2) 1速に変速するためにギアチェンジペダルをつま先でしっかりと押し下げます。
- 3) スロットルグリップを回してエンジンの回転数を上げ、同時にクラッチレバーを徐々につなぐと、車両は発進し始めます。
- 4) クラッチレバーを完全に放し、エンジンの回転数を上げます。
- 5) シフトアップするには、エンジン回転数を落とすためにスロットルを戻し、クラッチを切り、ギアチェンジレバーをもち上げ、クラッチレバーを放します。シフトダウンは以下のようになります。スロットルグリップを放し、クラッチレバーを引いてから、ギアを同調させやすくするためにエンジンを軽くふかしてシフトダウンし、クラッチを放します。

これらの作業は適切に素早く操作しなければなりません。上り坂を走行する際には、車速が落ちてからすぐにシフトダウンし、車両への異常なストレスやエンジンのノッキングを避けて下さい。



警告

急な加速操作は、オーバーフローやトランスマッション機構のスナッチングを招くおそれがありますので避けてください。走行中にクラッチレバーを引いた状態が続くと、摩擦機構の過熱や異常な摩耗を引き起こすおそれがありますので避けてください。



警告

ウィリー走行を長く続けると、ABS システムが停止してしまうおそれがあります。

ブレーキ操作

減速するには、最初にスロットルグリップを戻してエンジンブレーキをかけ、それからブレーキングします。

エンジンが急に止まるのを防ぐため、車両が停止する前に、クラッチを切れます。

ABSシステム

困難な条件下のブレーキ操作は、非常に慎重に行わなければなりません。

ブレーキ操作は二輪車の運転で最も難しく危険な瞬間です。ブレーキ操作中に転んだり事故を起こす可能性が統計的に最も高くなっています。フロントホイールがロックされると、牽引力、安定性が減り、車両のコントロールを失います。アンチブロックブレーキシステム(ABS)は、緊急のブレーキ時、悪道路、悪天候の下でブレーキの性能を最も効率的に使えるように開発されたものです。ABSは油圧電子システムです。ホイールがロックされそうになると、ホイールにあるセンサーからコントロールユニットに信号が送られ、ブレーキ回路内のプレッシャーが制御されます。一時的にプレッシャーが下がることで、タイヤが理想的な接地状態を維持したまま、ホイールは回転を続けます。ブレーキ回路内のプレッシャーはすぐにまた上がり始め、ブレーキが作動するようになります。ロックアップのリスクが完全になくなるまでこのサイクルが繰り返されます。

ブレーキが作動状態に入ると、ブレーキレバーとブレーキペダル上に軽い断続的抵抗が感知されます。フロントとリアブレーキのコントロールシステムはそれぞれ独立していますので、ABSもフロントとリアブレーキに同時に作動するわけではありません。このシステムを解除したい場合は、インストルメン

トパネルから“ABS停止機能”ページ 109を使用しておこないます。

! 警告

レバーとペダルの内、片方だけ使用するとブレーキ効力が低下します。ブレーキ類は急激に力づくで操作すると、ホイールのブロックが生じ、車両のコントロールを失います。雨中を走行する際や、滑りやすい路面上ではブレーキ力が著しく低下します。このようなコンディションでは慎重に優しくブレーキ操作をして下さい。急ブレーキは車両のコントロールを失う危険があります。長く急な下り坂を走行する際にはシフトダウンしてエンジンブレーキを使用します。ブレーキは断続的に短時間だけ使用して下さい。ブレーキの長時間にわたる連続使用は、摩耗材の過熱を招き、ブレーキ能力の著しい低下の原因となります。規定空気圧以外のタイヤはブレーキ能力を低下させるとともに摩耗を早め、また運転の確実性と、カーブでの安定を欠きます。

車両の停止

スロットルグリップを緩めると、車両は 徐々にスピードを落とし始めます。

シフトダウンしながらクラッチをつなぎ、最後に1速からニュートラルに入れます。

ブレーキをかけると、車両を完全に停止することができます。

赤いスイッチ (1) を下にずらし、エンジンをOFFにして下さい。

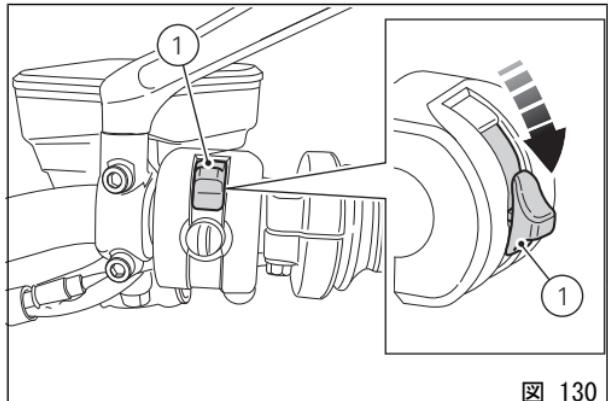


図 130

パーキング

停止させた車両をサイドスタンドを使い駐車します。ハンドルを左か右に振りります。エンジンを切手から60秒以内のこの作業をおこなうと、ステアリングブロックを起動させることができます。

ステアリングブロックを起動させたい場合、この間に赤ボタン(1)を下方方向に再度押し、ステアリングを左いっぽいから右いっぽいにした状態で3秒間押したままにします。

1秒後、インストルメントパネルには“KEEP PRESSED FOR LOCK”的メッセージが2秒間表示され、その後ステアリングブロックがかかります。ステアリングブロックが正常にかかると、インストルメントパネルには“STEERING LOCKED”的メッセージが表示されます。

ステアリングブロックがかからない場合、5秒後にインストルメントパネルに“RED SWITCH NOT RELEASED”的メッセージが表示されます。

この時点ですボタンを放し、60秒以内に再度ステアリングブロックをかけます。

それでもかからない場合は、ドゥカティサービスセンターまでご連絡ください。

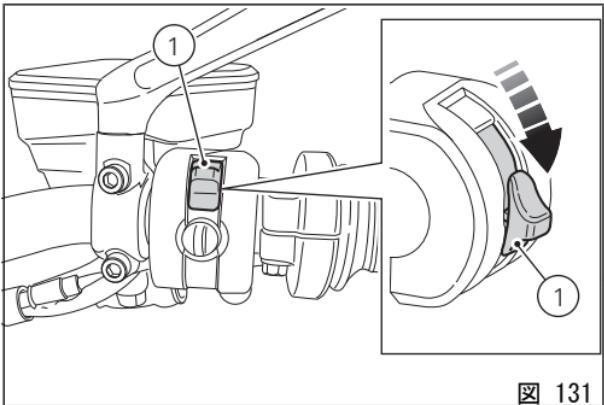


図 131

ボタン(2、図 132)を3秒以上押します。インストルメントパネルの円形ディスプレイに起動したことを示すマーク(図 133)が5秒間表示され、ランプは2時間点灯し続けます。この時間が経過すると、自動的に消灯します。

参考

Parking機能が起動中に、突然バッテリーが無くなるなどの理由で電源が遮断された場合、電源をリセットするため、インストルメントパネルは機能を停止します。

重要

この機能を頻繁に使用すると、バッテリーが著しく消耗する場合があります。必要な時にのみこの機能を使用するようしてください。

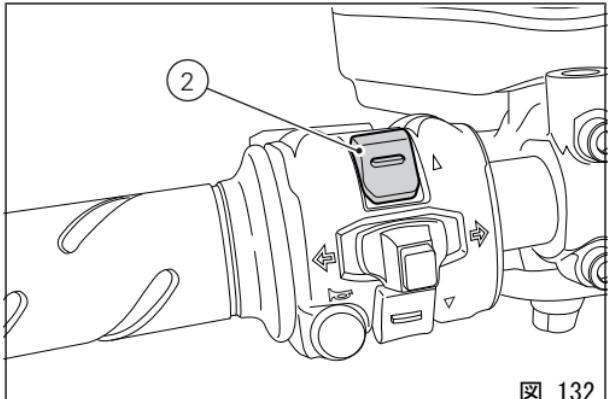


図 132



図 133

! 警告

エンジン停止後でもエキゾーストユニットは高温の場合があります。身体が触れないよう十分注意し、車両を木材や木の葉などの可燃物のそばに駐車しないようにしてください。

! 警告

発進を妨げるタイプの盗難防止用ロック（ディスクロック、リアスプロケットロック等）は大変危険です。車両の機能だけでなく、ライダーとパッセンジャーの安全をも損なうおそれがあります。

燃料の補給

給油の際、入れすぎないように注意してください。
燃料はプラグの下縁をこえてはいけません。

オクタン価が95以上で鉛含有量が低い燃料を使用して
ください。プラグの上部に燃料が溜まってないこ
とを確認します。



警告

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃
料 (E10) のみ使用することができます。
エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用する
ことは禁じられています。こうした燃料を使用すると
エンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れが
あります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを
使用した場合は保証の対象外になります。

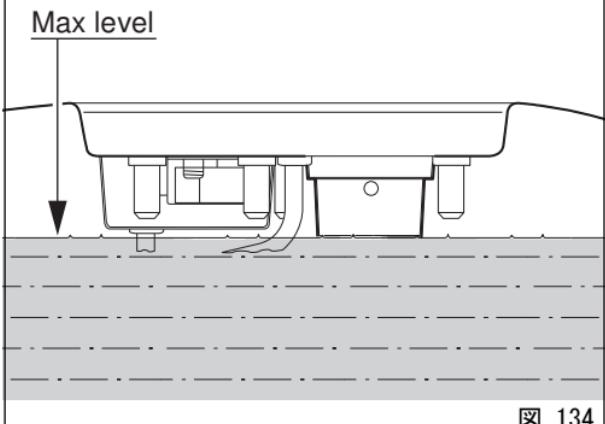
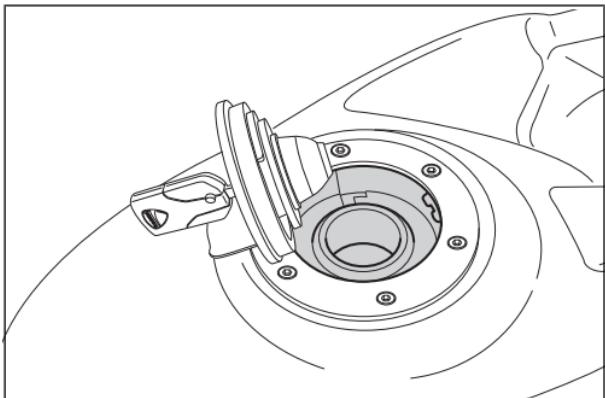


図 134

付属アクセサリー

シート(1)下にツールキット(2)があり、その下のスペースに取扱説明書が収納されています。

ツールキットは以下のものからなります。

- ヒューズ用ピンセット
- ヘルメット盗難防止ケーブル2本
- ドライバー
- ドライバー用ハンドル
- 14/16 mm ソケットレンチ
- 8/10 mm スパナ
- 6 mm リンケージ
- 3 mm 六角レンチ
- 4 mm 六角レンチ
- 5 mm 六角レンチ
- 6 mm 六角レンチ。

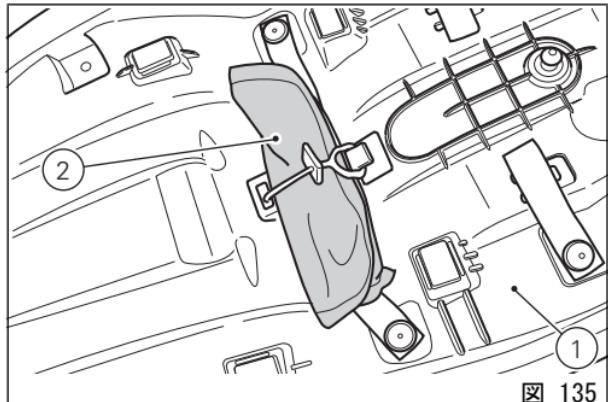


図 135

ツールキットを取り出すにはシートを取り外します
(ページ 160、“シートの取り外し”参照)。

主な整備作業とメンテナンス

エアフィルターの交換



重要

エアフィルターのメンテナンスは、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

クーラントレベルの点検および補充

車両右側にある拡張タンク内のクーラントレベルを点検します。ハンドルを左側にいっぶぱい切り、エキスパンションタンク脇に見えるMINからMAX目盛のどのレベルにあるかを確認します。液体レベルがMIN以下の場合は補充します。充填キャップ(1)を緩め、不凍液ENI Agip Permanent Spezialを薄めずにMAXレベルまで充填します。

プラグ(1)を閉めます。

上記に示された混合液を使用することで最良のコンディションを保つ事が出来ます (-20° C/-4° Fから凍結し始めます)。

クーリングシステムの容量 : 2.5リットル。

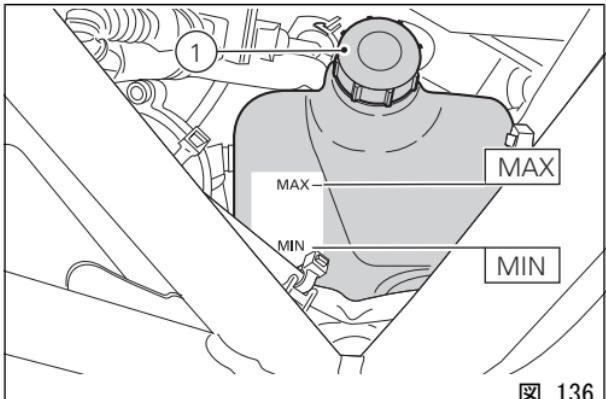


図 136



警告

この作業はエンジン冷間時に、水平な場所で車両を垂直に立てた状態で実施してください。

ブレーキ / クラッチフルードレベルの点検

ブレーキ、クラッチ液のレベルは、絶対に各リザーバータンクのMIN目盛りより下になってはいけません。

液体レベルが下がりすぎると、回路内に空気が混入し、システム作動に悪影響を及ぼします。

また、定期点検表で指定されているブレーキ/クラッチフルード補充及び交換は、Ducatiディーラーまたはサービスセンターに依頼して下さい。

重要

ブレーキ/クラッチシステムのホース類はすべて 4 年毎に交換してください。

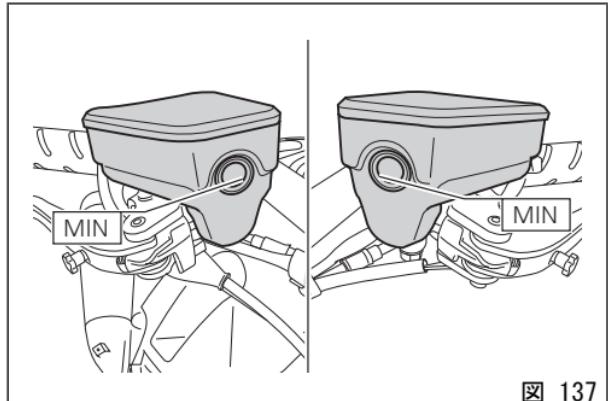


図 137

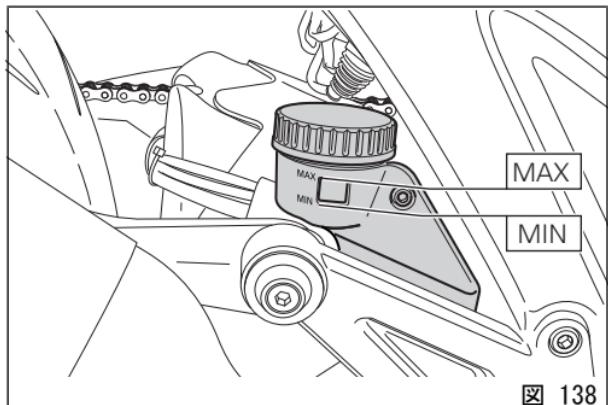


図 138

ブレーキシステム

ブレーキパッドが磨耗していないのに、ブレーキバー、ブレーキペダルの過度の遊びに気付いた場合には、Ducatiディーラーまたはサービスセンターに連絡し、システムの点検とエア抜きを行って下さい。



警告

ブレーキ/クラッチフルードはプラスチック製部品や塗装部分に損傷を与えるので、これらの部分にフルードが触れないよう注意してください。これらの液体は腐食性での損傷やケガを引き起こすことがあります。異なる品質のオイルを混ぜないで下さい。ガスケットの状態を点検してください。



警告

これらの液体は腐食性ですので傷害を与える恐れがあります。異なった品質のオイルを混ぜないで下さい。シールの状態をチェックしてください。

クラッチシステム

クラッチレバーに過度の遊びがあり、ギアチェンジの際クラッチにスナッチやジャダーが出る場合は、システム内にエアが混入している事があります。シ

ステムを点検しエアを排出する必要があるため、Ducatiディーラーまたはサービスセンターにご連絡下さい。



警告

クラッチフルードレベルはクラッチディスクの磨耗材が消耗すると上昇する傾向があります。規定レベルを超えないようにしてください（最低レベルの 3 mm 上）。

ブレーキパッドの摩耗点検

キャリパー間の開口部を通してパッドの摩耗を点検します。

摩耗剤の厚さが一つでもおよそ1mmならば、両方のパッドを交換します。



警告

パッドが消耗しすぎると、ブレーキディスクと金属製サポートが接触することでブレーキ性能、ディスクの正常な状態、またライダーの安全を損なうことがあります。



重要

ブレーキパッドの交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

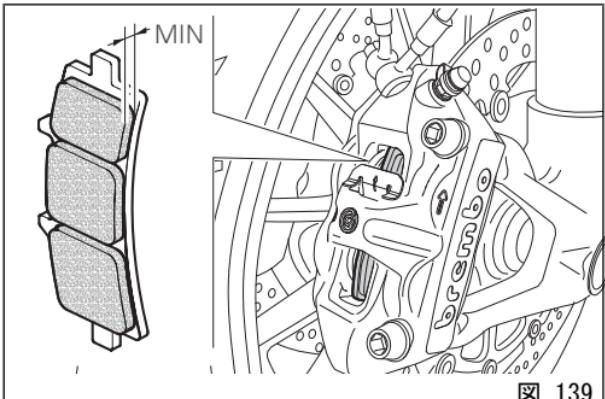


図 139

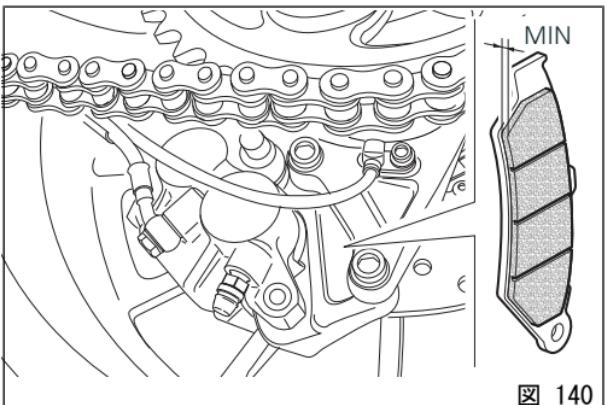


図 140

ジョイント部分の潤滑

スロットルコントロールケーブル外部のシースの状態を定期的に点検する必要があります。外側プラスチック部に亀裂や押し潰された跡があつてはいけません。

コマンドを操作して内部ケーブルが滑らかに動くことを確認します。引っかかったり何か異常を感じる場合は、ディーラーまたはDucatiサービスセンターに交換を依頼して下さい。

このようなことを避けるためスロットルトランミッショニの場合は2本の固定スクリュー(1)を緩めてスロットルを開き、ケーブルの両端とプーリー(2)をグリースSHELL Advance GreaseまたはRetinax LX2で潤滑します。



警告

プーリーにケーブルを挿入し、注意してコントロールを閉じます。

カバーを付け、スクリュー(1)を10 Nmのトルクで締め付けます。

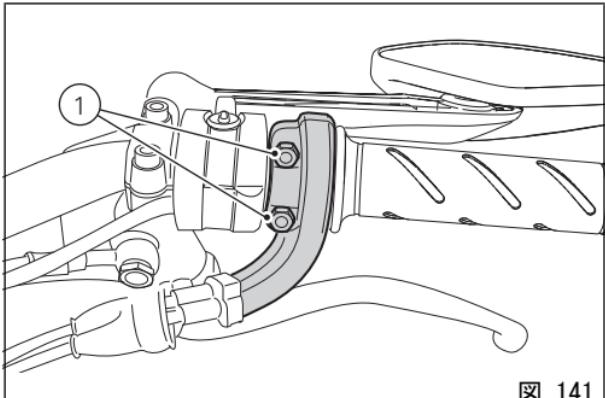


図 141

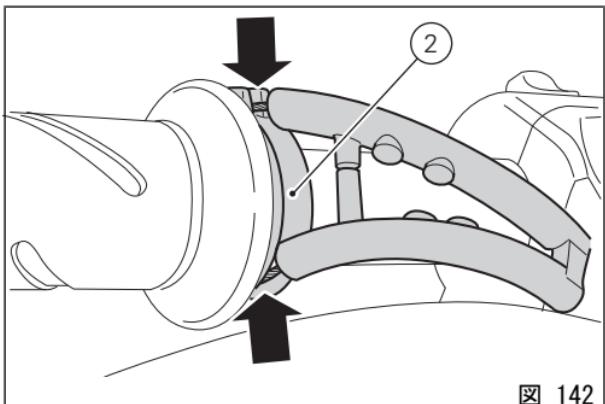


図 142

サイドスタンドのスムーズな作動を確保するために、
汚れを取り除き、全ての可動部分に規定のグリース
SHELL Alvania R3を塗布して下さい。

スロットルケーブルの遊びの調整

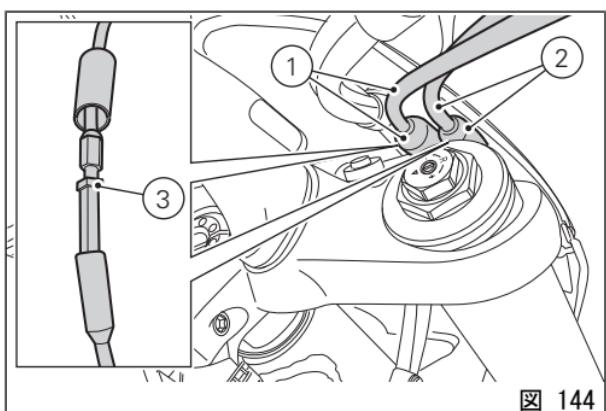
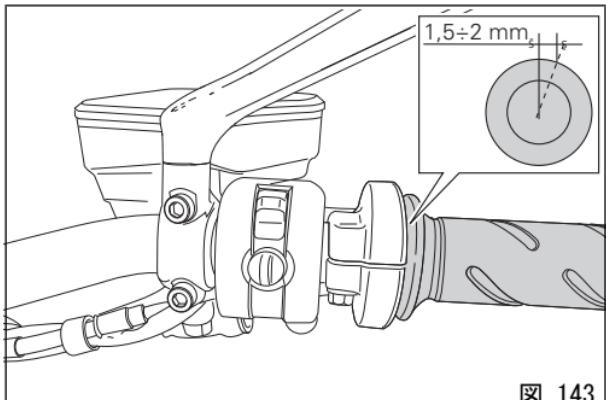
スロットルグリップはどのステアリング角度においても、1.5~2.0 mm(グリップの端で測定)の遊びがなければなりません。

必要であれば、車体右側のステアリングチューブにあるアジャスター(1および2)を使用して調整します。アジャスター(1)はスロットル開度調整用で、(2)は閉度調整用です。

アジャスターの保護カバーを引き抜き、ロックナット(3)を緩めます。

両方のアジャスターを釣り合うように操作して調整します。時計回りに回すと遊び量が増え、反時計回りに回すと減少します。

調整が終了したらロックナット(3)を締め、アジャスターに保護キャップを取り付けます。



バッテリーの充電

バッテリーを充電する際、バッテリーを車両から取り外してください。

重要

バッテリーはロアフェアリングに設置されており、取り外しには必ずDucatiオフィシャルディーラーまたはサービスセンターに依頼してください。

左ロアフェアリング(1)を以下のスクリューを緩めながら取り外します。

- エレクトリカル部品タンクへのサイド固定スクリュー(2)。
- エレクトリカル部品タンクへのアッパー固定スクリュー(3)。
- 中央ロアフェアリングへのアンダー固定スクリュー(4)。

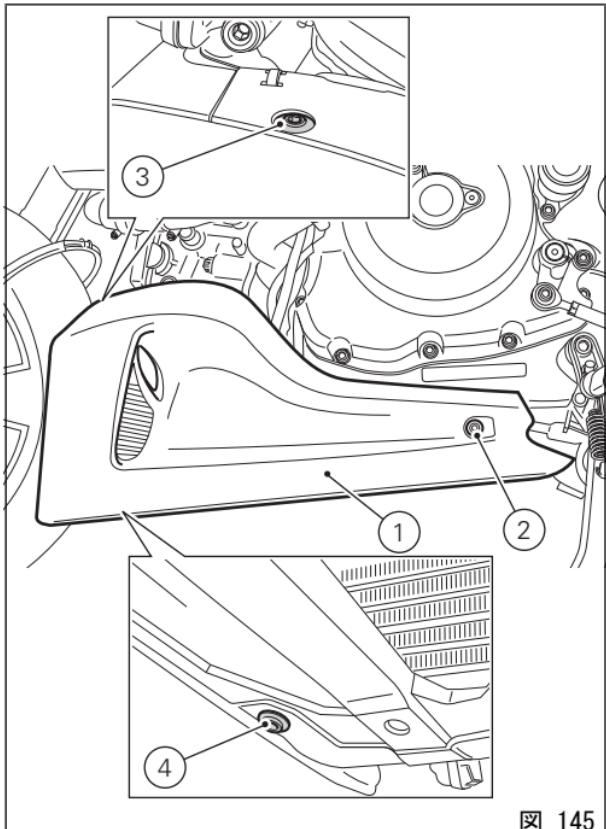


図 145

- 左ロアフェアリングに中央ロアフェアリングを固定するスクリュー(5)。
- スクリュー(6)を緩め、バッテリー固定カバー(7)を取り外します。

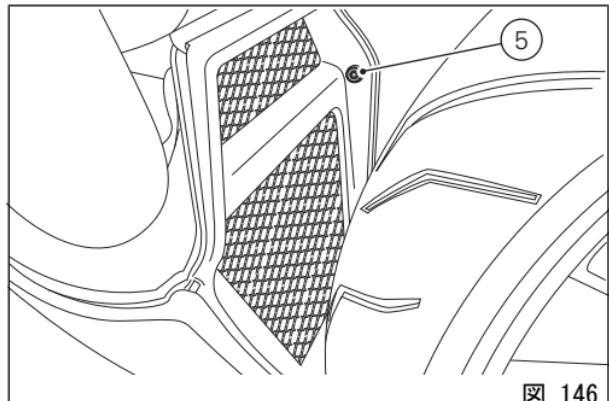


図 146

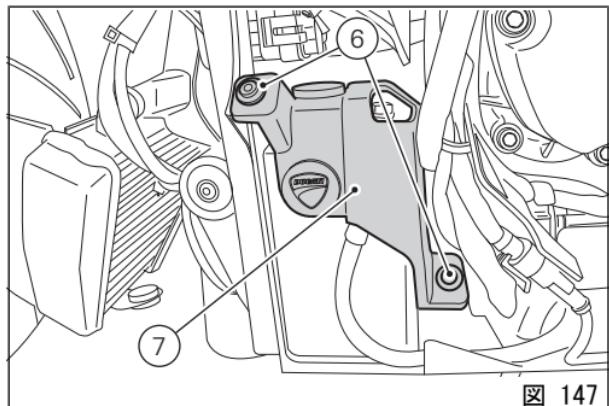


図 147

バッテリー(8)を所定の位置から抜き取り、常に陰極端子(-)から先にスクリュー(9)を緩めます。

陽極ケーブル(10)、ABS陽極ケーブル(11)を陽極から、陰極から陰極ケーブル(12)を外します。

!**警告**

バッテリーは爆発性のガスを発生させます。熱源から遠ざけてください。

!**警告**

バッテリーはお子様の手の届かないところに置いてください。

バッテリーは0.9Aで5～10時間充電します。

充電は換気のよい場所で行って下さい。端子に充電機のコンダクターを接続します。赤い端子はプラス(+)、黒い端子はマイナス(-)。

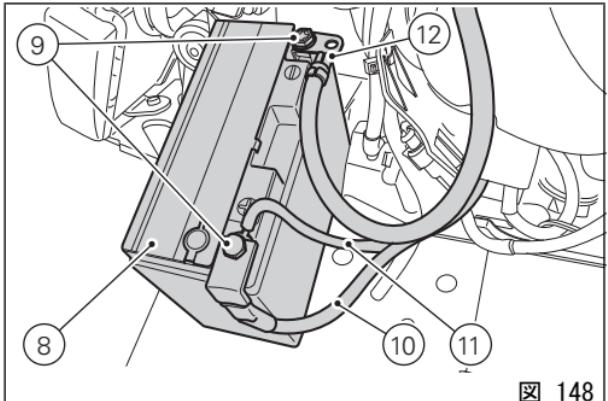


図 148

!**重要**

バッテリーを充電器に接続する前に充電器の電源を入れないでください。接続する際に火花が発生し、セル内の可燃性ガスに引火する恐れがあります。接続は常に赤のプラス(+)端子から行ってください。

ABSシステムの陽極ケーブル(11)を陽極ケーブル(10)の上に置き、スクリュー(9)をその上に差し込みます。

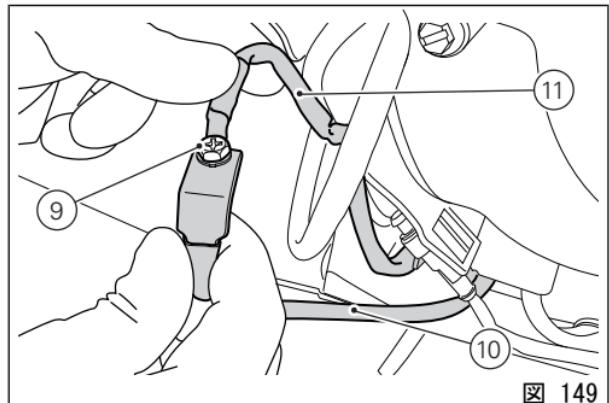


図 149

前もってABSケーブル(11)と繋げておいた陽極ケーブル(10)をバッテリーの陽極に、陰極ケーブル(12)をバッテリーの陰極に接続し、スクリュー(9)を差し込みます。

電極のスクリュー(9)を5 Nm \pm 10%のトルクで締め付けます。酸化を防ぐためにバッテリー電極周辺にグリースを塗布します。

(図 151)に示す方向にケーブル(10)および(11)を配置し、バッテリー(8)をマウントに取り付けます。

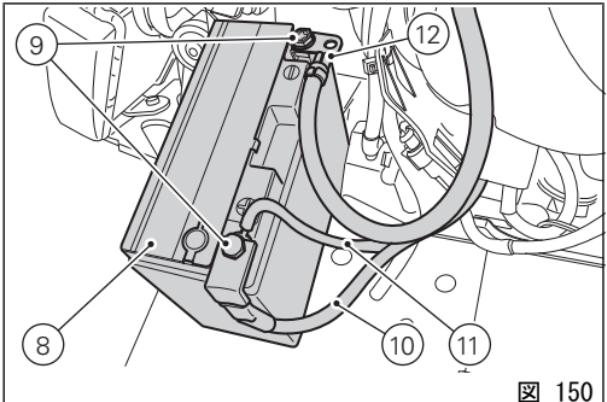


図 150

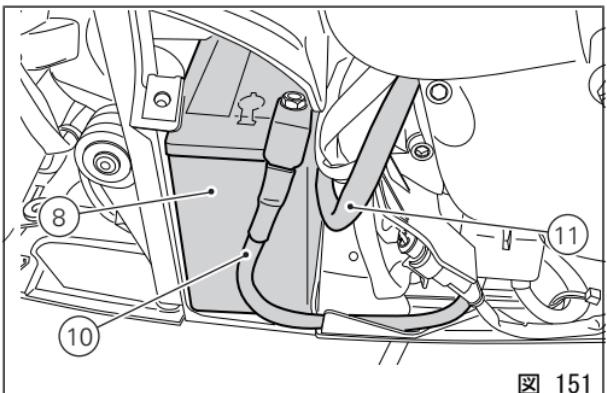


図 151

バッテリー固定カバー(7)を取り付け、スクリュー(6)を10 Nm ±10%のトルクで締め付け固定します。

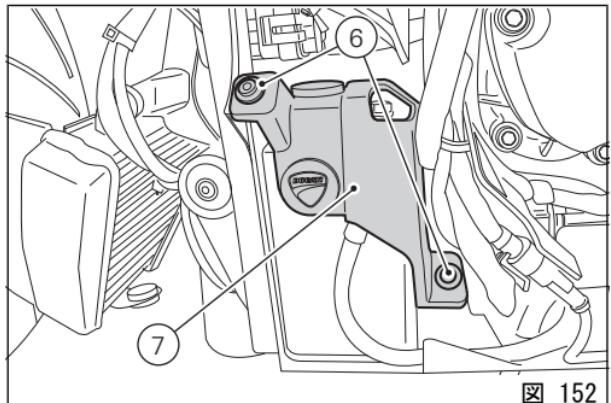


図 152

以下の要領で左ロアフェアリング(1)を取り付けます。

- エレクトリカル部品タンクへのサイド固定スクリュー(2)を差し込みます。
- エレクトリカル部品タンクへのアッパー固定スクリュー(3)を差し込みます。
- 中央ロアフェアリングへのアンダー固定スクリュー(4)を差し込みます。

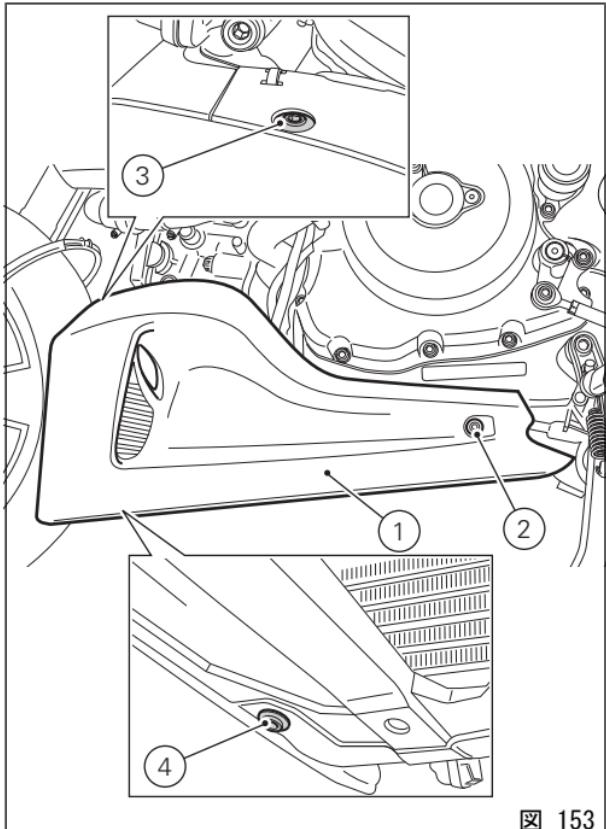


図 153

- 左ロアフェアリングに中央ロアフェアリングを固定するスクリュー(5)を差し込みます。

スクリュー(2、図 153)、(3、図 153)、
(4、図 153)、(5、図 154)を10 Nm ±10%のトルクで
締め付けます。

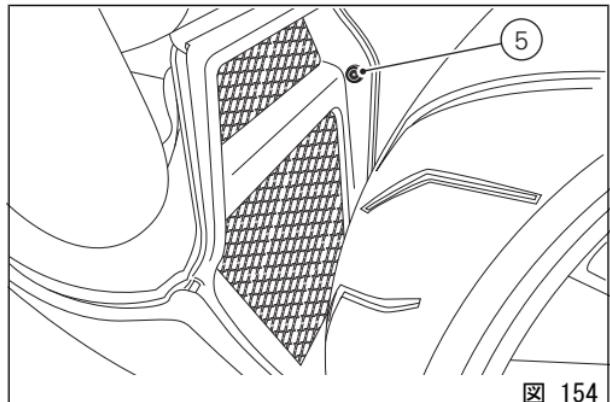


図 154

バッテリー充電および冬季の断熱

車両には所定の充電器(2)(バッテリーメンテナーキット、部品番号：69924601A - 多くの国、バッテリーメンテナーキット、部品番号：69924601AX - 日本、中国、オーストラリアのみ)を接続できるコネクター(1)が設けられています。充電器は当社販売ネットワーク店にてお求めいただけます。



本モデルのエレクトリカルシステムはエンジン停止状態での消費電力を非常に低く抑えるよう設計されています。ただし、バッテリーは自然に放電しており、放電量は使用していない期間や環境条件によって変化します。

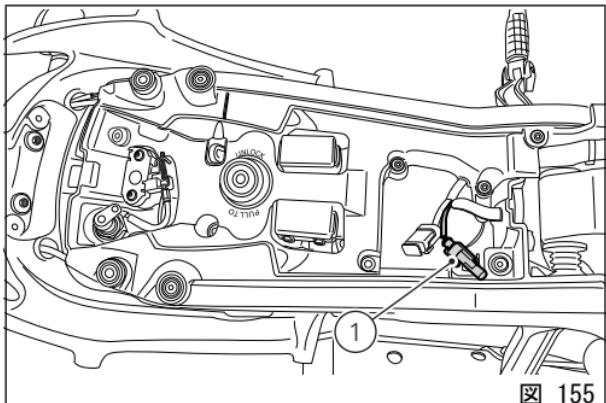


図 155

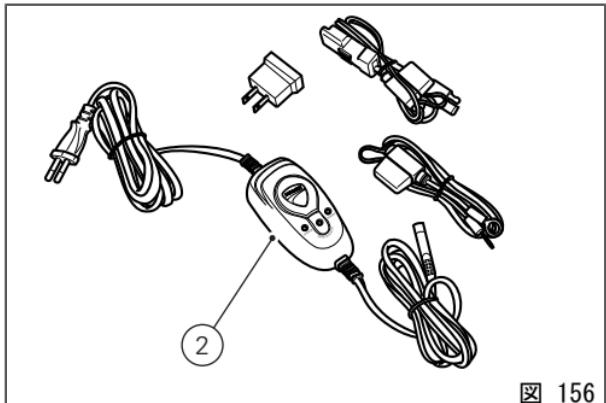


図 156



重要
所定のメンテナーを介してバッテリー電力の最低値が維持されないと、修理が不可能なバッテリーの劣化を招くサルフェーション現象が生じます。



参考
車両を使用しない期間（およそ30日以上）、Ducatiバッテリーメンテナー（バッテリーメンテナーキット、部品番号69924601A - 多くの国、バッテリーメンテナーキット、部品番号69924601AX - 日本、中国、オーストラリアのみ）のご使用を推奨します。電圧をモニターする内部エレクトロニクスが搭載されており、充電電流は最大1.5アンペア/hです。メンテナーを車両のテールにある診断プラグに接続します。



参考
Ducati が認可していないバッテリーメンテナーを使用すると、車両のエレクトリカルシステムに損傷を与えるおそれがあります。上記の理由でバッテリーが損傷した場合には、不適切なメンテナンスとみなし保証の対象にはなりません。

トランスミッションチェーン張力の点検



重要

チェーン張力の調整は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

リアホイールを回転させ、チェーンが最も張る位置を探します。

サイドスタンドに車両を駐車します。測定位置でチェーンを下方向に押し、その後離します。

“開口部”上辺とペグの中心との距離を測定します。
その距離は9 ~11 mmでなければなりません。



重要

ドライブチェーンが張りすぎ、もしくは緩みすぎている場合は、測定値が指定の値になるように調整します。

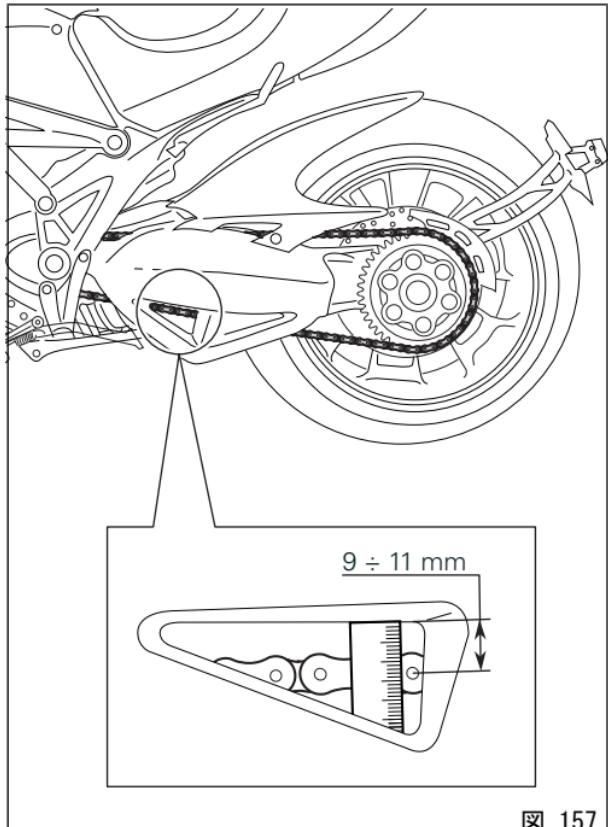


図 157

!**警告**

安全な走行状態を維持するには、スイングアームのスクリュー（1）の正しい締め付けが重要です。

!**重要**

チェーンの張りが不適切だとトランスマッショ
ン部品の磨耗を早めます。

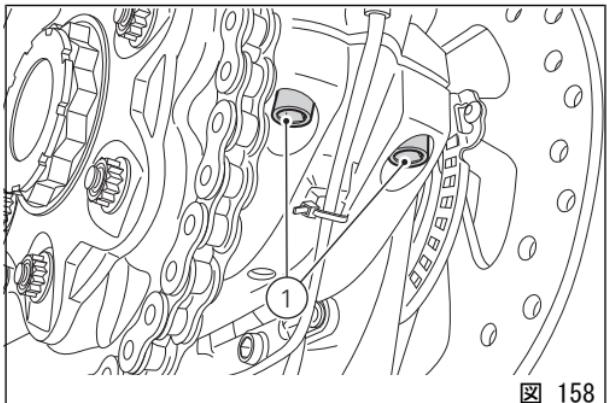


図 158

チェーンの潤滑

この車両には、泥などの侵入を防ぎ、潤滑をより保つ0リングシールの付いたチェーンが装備されています。

チェーンを洗浄する場合には、シールの損傷を防止するため、専用の溶剤を使用して下さい。ウォッシャー等でスチームや圧力のかかった水で洗浄しないで下さい。

洗浄後は、コンプレッションエアーでチェーンを乾かし、SHELL Advance ChainまたはAdvance Teflon Chainで潤滑します。



重要

規定以外の潤滑剤を塗布すると、チェーン、フロント/リアスプロケットに損傷を与えるおそれがあります。

ハイ/ロービーム電球の交換

切れた電球を交換する前に、新しい電球が“エレクトリカルシステム”ページ 235 の段落に記載されている電圧、電力と同じであることを確認してください。

取り外した部品を再度取り付ける前に、必ず新しく取り付けた電球の機能を点検してください。

図にはロービームランプ (L0)、ハイビームランプ (HI)、パーキングランプ (1) の位置を示しています。

ヘッドライト

ヘッドライトにはすべて LED 電球が使用されています。

重要

ヘッドライト電球の交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにご連絡ください。

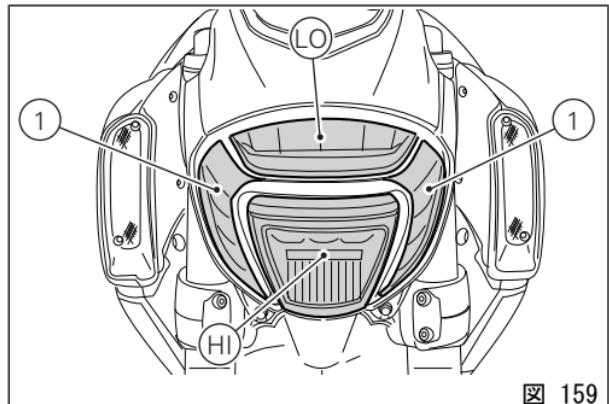


図 159



警告

雨天時または洗車後に車両を使用する際は、ランプレンズが曇っている場合があります。レンズ内の結露はランプを点灯すると短時間で消えます。

ヘッドライトの光軸調整

正しいタイヤ空気圧に調整し、乗員 1 名がシートに乗った状態で、車両を壁面またはスクリーンの前 10 メートルの場所で縦軸に対して垂直に立て、ヘッドライトが正しい向きになっていることを確認します。壁にヘッドラムプの中心と同じ高さで水平に線を引き、また車体の縦軸に一致する垂直線も引きます。

この点検は薄暗い場所で行ってください。

ロービームを点灯します。

光の照射領域の高さ（暗い部分と照射部分との境界の上限）が、地上からヘッドラムプの中心までの高さの $\frac{9}{10}$ 以下でなければなりません。

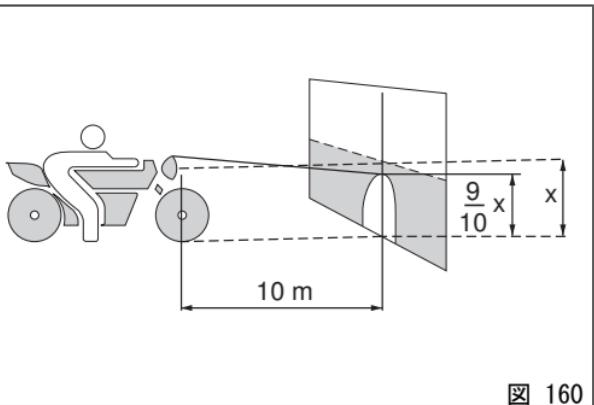


図 160



この方法は、光軸の高さに関するイタリアの規則に準拠したものです。車両を使用する国、地域の法律に従い光軸調整を行ってください。

垂直方向のロービームライト光軸調整はスクリュー(1)を操作して行います。垂直方向のハイビームライト光軸調整はスクリュー(2)を操作して行います。

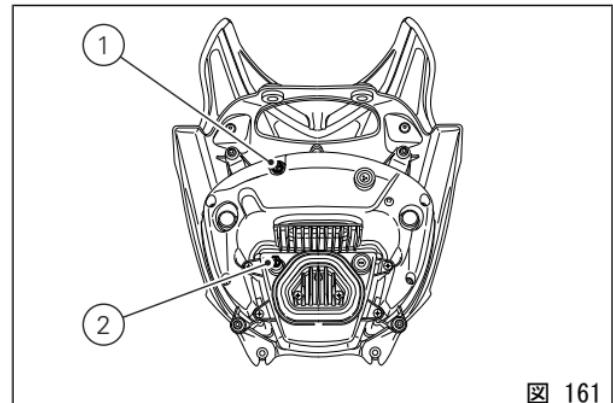


図 161

リアビューミラーの調整
(A)を手で押し、ミラーを調整します。

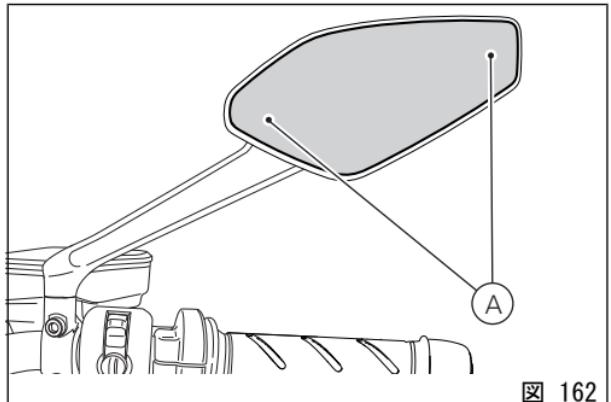


図 162

チューブレスタイヤ

フロントタイヤ空気圧 :

2.50 bar (ライダーのみ) - 2.6 bar (タンデムおよびバッグ、またはいずれか一方)。

リアタイヤ空気圧 :

2.50 bar (ライダーのみ) - 2.9 bar (タンデムおよびバッグ、またはいずれか一方)。

タイヤの空気圧は外気温度や高度によっても変化します。

高度の高い場所や気温差のある場所を走行する場合は、毎回点検と調整を行ってください。

重要

タイヤの空気圧はタイヤ冷間時に測定してください。フロントリムがダメージを受けないように、悪路を走行する時はタイヤの空気圧を 0.2~ 0.3 bar 上げてください。

タイヤの修理、交換（チューブレス）

タイヤに穴が開いた場合、チューブレスタイヤは空気の減り方が遅いため、気付くまでに時間がかかることがあります。タイヤの空気圧が下がってきた場合は、パンクの可能性をチェックします。



警告

パンクしたタイヤは交換してください。交換する際は、標準装備タイヤと同じメーカー、タイプを指定してください。走行中のエア漏れを防ぐため、タイヤのバルブキャップがしっかりと締まっていることを確認してください。チューブタイプのタイヤは絶対に装着しないでください。突然タイヤが破裂し、ライダー、パッセンジャーに重大な危険を及ぼすおそれがあります。

タイヤ交換の後には、必ずホイールバランスの点検を行ってください。



警告

ホイールのバランスウェイトを外したり、移動させたりしないでください。



参考

タイヤの交換ではホイールを正しく着脱することが重要です。タイヤ交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。ホイールにはセンサー、フォニックホイールなどの ABS システム部品が装着されており、特別の調整が必要になります。

タイヤの摩耗限度

タイヤのトレッド面が一番摩耗している箇所(S、図 163)の溝の深さを測定します。溝の深さは2 mm以上でなければならず、また現地法で定められた規定値以下であってはなりません。



重要

タイヤは定期的に点検し、特に側面に傷やヒビがないか、突起、広範囲のシミ、内部の損傷を表すような箇所がないかチェックしてください。損傷が著しい場合はタイヤを交換してください。

トレッドに入り込んだ石や異物は取り除いてください。

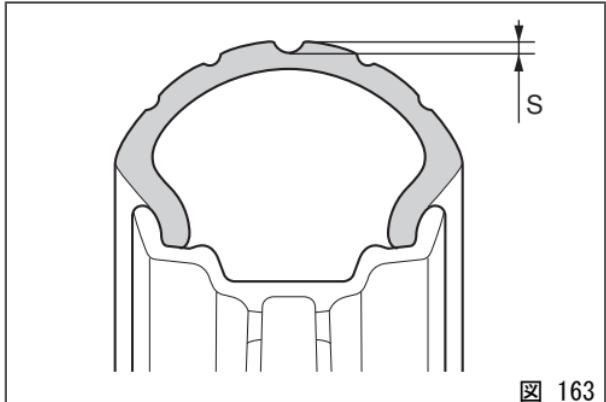


図 163

エンジンオイルレベル点検

エンジンオイルの量は、クラッチカバーにある点検窓（1）から見ることができます。レベルチェックは車体を垂直に配置し、エンジン冷間時にやってください。オイル液面は、点検窓の横に指示された目盛の間になければなりません。オイル量が不足している場合は、エンジンオイルを補充してください。

ドゥカティ社推奨オイルは Shell Advance 4T Ultra 15W-50 です。または、同じ粘度分類 SAE 15W-50 のバイク用エンジンオイルで規格 JASO : MA2、API : SM。

フィラーキャップ（2）を外し、指定オイルを規定のレベルまで補充してください。プラグを取り付けます。



重要

保証書に記載されている定期点検表に従い、エンジンオイルとオイルフィルターの交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターで実施してください。

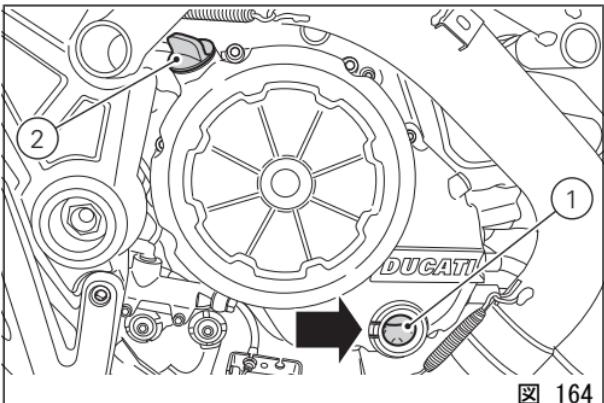


図 164

オイルに関する推奨事項

以下を満たすオイルの仕様が推奨されます。

- 粘度分類 SAE 15W-50
- API 規格 : SM
- JASO 規格 : MA2。

SAE 15W-50 は英数字のコード番号で、粘度を基にオイルの分類を特定し、W で分けられた 2 つの数字であらわされます。最初の数字は低温でのオイルの粘度を表し、二番目の数字は高温での粘度を表します。API（米国での分類）および JASO（日本標準）は、オイルが有する特徴を表します。

スパークプラグの清掃と交換

スパークプラグはエンジンの重要な部品ですので、定期的な点検が必要です。

定期的に検査をすることにより良好なエンジンの状態を保つ事が可能になります。

スパークプラグの点検・交換が必要な場合は、Ducati オフィシャルディーラーまたはサービスセンターまでお問い合わせください。

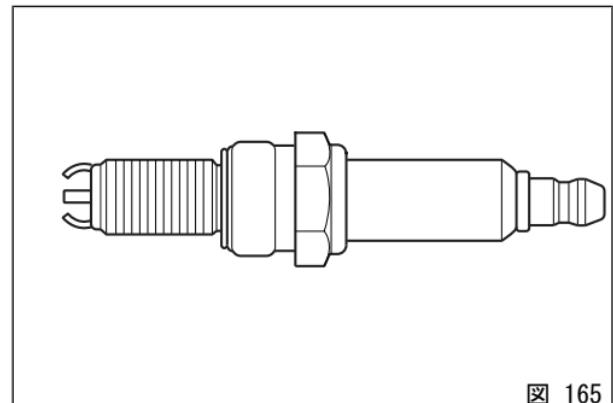


図 165

車両の清掃



参考

塗装部分と金属部分の本来の艶を長期間保つため、使用状態や走行する道路の状態に合わせて、定期的に車両の清掃、洗車を行ってください。強力な洗剤や溶剤の使用は避け、可能であれば生分解性の専用洗剤を使用してください。

プレキシガラス部分やシートのお手入れには、水と中性洗剤を使用してください。

アルミニウム製部品は定期的に手作業で清掃してください。研磨剤や水酸化ナトリウムが含まれていないアルミニウム専用洗剤を使用してください。



参考

研磨材付きスポンジやスチールワールは使用せず、柔らかい布のみを使用してください。

十分なメンテナンスが行われていない車両は保証の対象なりません。



重要

走行直後のボディがまだ熱い状態にあるときは、水染み等を防ぐため洗車は行わないでください。洗車には温水ジェットや高圧洗浄機を使用しないでください。

洗浄機の使用は、フォーク、ホイールハブ、電装システム、フォークガスケット、エアインテーク、エキゾーストサイレンサーの故障や不具合、ランプ内部の結露（くもり）を引き起こし、結果として車両の安全性を損ねるおそれがあります。

エンジンに著しい汚れや油脂汚れが見られる場合は、脱脂剤を使用して洗浄してください。その際、トランスマッション系統（チェーン、フロント/リアスプロケット等）に脱脂剤が付着しないように注意してください。

水道水で良くすすぎ、車体全表面部をセーム革で拭きます。



警告

洗車後は、ブレーキ性能が低下することがあります。ブレーキディスクには絶対にグリースや潤滑剤を塗布しないでください。ブレーキ性能が失われるおそれがあります。ディスクは非油性の溶剤で清掃してください。

警告

洗浄、雨、湿気などにより、ヘッドランプレンズにくもりが生じることがあります。レンズ内の結露はランプを点灯すると短時間で消えます。

ABSシステムが効率よく作動するように、フォニックホイールを入念に清掃してください。ホイールやセンサーをいためますので、強い洗剤、溶剤の使用は避けてください。

参考

インストルメントパネルの清掃には、アルコールやアルコール由来の製品を使用しないでください。

ビレットアルミが使用されている部品があるので、ホイールリムの清掃には十分注してください。車両を使用する度に清掃し、水分を拭き取ってください。

警告

サイドバッグのお手入れは、中性洗剤と柔らかい布を使用し、温水で清掃してください。ファスナーなどの留め金類は石鹼と柔らかいブラシを用いて清掃し、きれいな水ですすいでください。刺激の強い洗剤や非常に硬い道具などは使用しないでください。ファスナーが開きにくい場合は、少量のタルクをはたいて、滑らせることもできます。

長期間の保管

車両を長期間使用しない場合は、保管する前に以下の作業を行うようお薦めします：

- 車両を清掃します。
- 燃料タンクを空にします。
- スパークプラグの穴からシリンダーの中に数滴のエンジンオイルを注入し、エンジンを手で数回転させてシリンダー内壁に保護膜を形成させます。
- 車両をスタンドに立てかけて停車します。
- ケーブルを外し、バッテリーを取り外します。

1ヶ月以上車両を使用しなかった場合には、バッテリーの点検と充電、交換を行う必要があります。

結露を防止し塗装を保護するため、車体はカバーで覆います。

車体カバーはDucatiパフォーマンスにて取り扱っています。

重要注意事項

国によっては(フランス、ドイツ、イギリス、スイス等)排気ガス、騒音規制の基準を設けている場合があります。

法規に義務付けられた定期点検を行う他、規制に適さない部品がある場合は、適合するDucatiオリジナルパーツと取り替えて下さい。

メンテナンスプログラム

メンテナンスプログラム：ディーラーで行うメンテナンス

メンテナンス項目/作業内容 (km/マイル 毎、または経過時間*)	Km x1000	1	15	30	45	60	期間(月)
	マイル x1000	0.6	9	18	27	36	
DDS による不具合メモリーの読み取り、およびコントロールユニットのソフトウェアバージョンの更新確認		●	●	●	●	●	12
テクニカルアップデートおよびリコールの有無の確認		●	●	●	●	●	12
エンジンオイルおよびフィルターの交換		●	●	●	●	●	12
エンジンオイルインテークフィルター清掃	●						-
バルブクリアランスの点検と調整				●		●	-
タイミングベルトの交換				●		●	60
スパークプラグの交換				●		●	-
エアフィルターの清掃			●		●		-
エアフィルターの交換				●		●	-
ブレーキ/クラッチフルードレベルの点検	●	●	●	●	●		12
ブレーキ/クラッチフルードの交換							36
ブレーキパッドおよびディスクの摩耗点検必要な場合は交換	●	●	●	●	●		12

メンテナンス項目/作業内容 (km/マイル 毎、または経過時間*)	Km x1000 マイル x1000	1	15	30	45	60	期間(月)
		0.6	9	18	27	36	
ブレーキキャリパー、ブレーキディスクフランジスクリューの締め付け点検		●	●	●	●	●	12
フロント、リアホイールナットの締め付け点検		●	●	●	●	●	12
エンジンへのフレーム固定部品の締め付け点検			●	●	●	●	-
ホイールハブベアリングの点検				●		●	-
リアホイールシャフトの点検と潤滑				●		●	-
リアスプロケットのダンパーの点検				●		●	-
ファイナルドライブのリアスプロケットのナット、フロントスプロケットのナット締め付け点検		●	●	●	●	●	12
ファイナルドライブ（チェーン、フロントスプロケット、リアスプロケット）、およびチェーンスライダーの磨耗点検			●	●	●	●	12
ドライブチェーン張力の点検と潤滑		●	●	●	●	●	12
ステアリングベアリングの点検と潤滑				●		●	-
フロントフォークオイルの交換				●		●	-
フロントフォーク、リアショックアブソーバーのシーリング部品の目視点検		●	●	●	●	●	12

メンテナンス項目/作業内容 (km/マイル 毎、または経過時間*)	Km x1000 マイル x1000	1	15	30	45	60	期間(月)
		0.6	9	18	27	36	
サイドスタンド、センタースタンドの動作および締め付け点検（装備している場合）		●	●	●	●	●	12
フューエルホースの目視点検			●	●	●	●	12
フレキシブルケーブルと配線ケーブルの摩擦部分、遊びと動作、取り付け位置の目視点検		●	●	●	●	●	12
ハンドルレバー、ペダルコマンドの潤滑			●	●	●	●	12
クーラントの交換					●		48
クーラントレベルの点検、冷却回路の状態の点検		●	●	●	●	●	12
タイヤ空気圧、磨耗点検		●	●	●	●	●	12
バッテリー充電レベルの点検		●	●	●	●	●	12
セキュリティ電気装置の作動点検（サイドスタンドセンター、フロント/リアブレーキスイッチ、エンジン停止スイッチ、ギア/ニュートラルセンサー）		●	●	●	●	●	12
ランプ、インジケーター類、警告ホーン、コマンド類の点検		●	●	●	●	●	12
DDS を介したサービスインジケーターのリセット		●	●	●	●	●	-
安全装置（ABS、DTC など）、エレクトリックファン、アイドリングの機能点検を兼ねた路上での走行テスト		●	●	●	●	●	12

メンテナンス項目/作業内容 (km/マイル 毎、または経過時間*)	Km x1000 マイル x1000	1	15	30	45	60	期間（月）
		0.6	9	18	27	36	
車両のソフトクリーニング		●	●	●	●	●	12
定期点検実施の車載書類（サービスブック）への記入		●	●	●	●	●	12

メンテナンスプログラム：お客様が行うメンテナンス

	Km x1000	1
	マイルx1000	0.6
	月	6
メンテナンス項目/作業内容(km/マイル毎、もしくは経過時間 *)		
エンジンオイルレベル点検	●	
ブレーキ / クラッチフルードレベルの点検	●	
タイヤ圧、磨耗点検	●	
チェーン張力の点検と潤滑	●	
ブレーキパッドの点検。 必要であれば、ディーラーにて交換して下さい。	●	

テクニカルデータ

重量

車両重量（液体類およびバッテリーを除く）：

210 kg (Diavel ABS)

205 kg (Diavel Carbon ABS)

車両総重量：400 kg



警告

重量制限を遵守しない場合、操縦性と性能の低下を招き、車両のコントロールを失う原因となります。

寸法

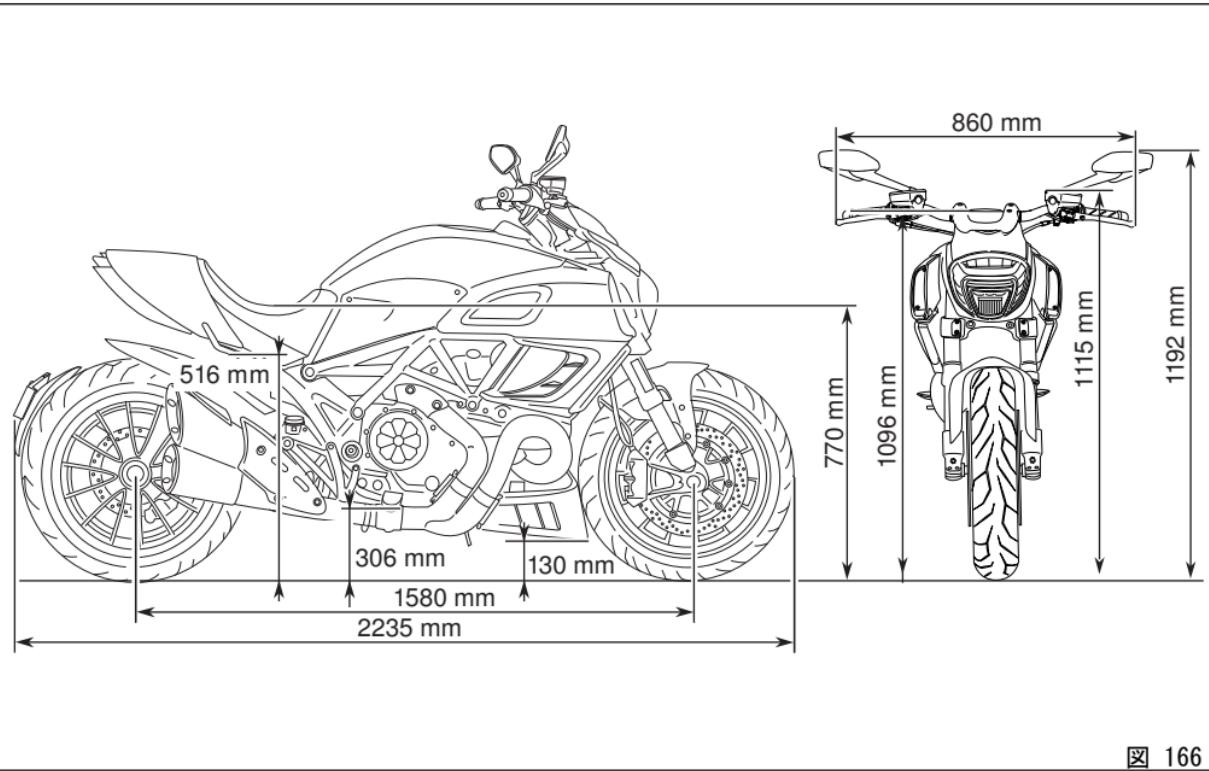


図 166

給油

補給	タイプ	
燃料タンク、リザーブ 4 リットルを含む	オクтан価 95 以上の無鉛ガソリン	17 リットル
エンジンクラシクケースおよびフィルタ	ドゥカティ社推奨オイルは Shell Advance 4 リットル	
一	4T Ultra 15W-50 です。または、同じ粘度	
	分類 SAE 15W-50 のバイク用エンジンオイルで規格 JASO : MA2、API : SM。	
フロント/リアブレーキシステム、クラッッチ	SHELL Advance Brake DOT 4	-
電極保護液	配線用スプレー SHELL Advance Contact Cleaner	-
フロントフォーク	SHELL Advance Fork 7.5 または Donax TA 720 cc (レッグごと)	
冷却システム	不凍液 ENI Agip Permanent Spezial (薄 2.5 リットルめずに使用)	

重要

燃料、潤滑液等には絶対に添加剤を加えないでください。このような燃料を使用すると、エンジンや車両の部品に重大な損傷をきたすおそれがあります。

警告

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料 (E10) のみ使用することができます。
エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁じられています。こうした燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用した場合は保証の対象外になります。

エンジン

テスタストレッタ 11°、90° "L" 型 2 気筒、シリ
ンダーごとに 4 バルブタイミングシステム、水冷、
低タンクダイキャストクランクケース

ボア :

106 mm

ストローク :

67.9 mm

総排気量、cm³ :

1198.4

圧縮比 :

11.5 ± 0.5:1

タイミングシステム

デスマドロミックシステム：シリンダーごとに4本のバルブ、8本のロッカーアーム（4オープニングロッカーアーム、4クロージングロッカーアーム）、ダブルオーバーヘッドカムシャフト。スペーギア、ベルトローラー／コグドベルトを介してクランクシャフトにより制御されます。

デスマドロミックタイミングシステム

- 1) オープニング（アッパー）ロッカーアーム
- 2) アッパーロッカーシム
- 3) クロージング（ロア）ロッカーシム
- 4) ロアロッカーアームリターンスプリング
- 5) クロージング（ロア）ロッカーアーム
- 6) カムシャフト
- 7) バルブ

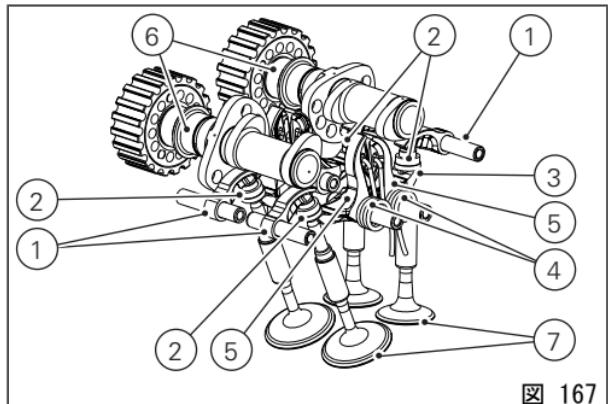


図 167

性能データ

各ギアにおける最高速度は、決められた慣らし期間を正しく行き、適切な定期点検整備を受けた場合にのみ出すことができるようになります。

! 重要

これらの条件が守られなかった結果としてのエンジンの損傷や寿命の短縮について、Ducati モーターホールディング社は一切責任を負うものではありません。

スパークプラグ

メーカー : NGK

タイプ : MAR9A-J

燃料供給

ミツビシ製間接式エレクトロニックインジェクションシステム。橙円対応スロットルボディ(直径準拠)

56 mm

インジェクター(各シリンダー) : 1

インジェクタ一口径 : 12

ガソリン燃料 : 95-98 RON。



警告

この車両にはエタノール含量が 10% 以下の燃料 (E10) のみ使用することができます。

エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用することは禁じられています。こうした燃料を使用するとエンジンや車両の部品に重大な損傷をきたす恐れがあります。エタノール含量が 10% 以上のガソリンを使用した場合は保証の対象外になります。

ブレーキ

各ブレーキに独立して作用するアンチブロックシステムは、両タイヤに搭載されたフォニックホイールを読み取るホール効果センサーによって制御されます。

ABSの解除が可能です。

フロント

穴付きセミフローディングダブルディスク。

ブレーキシュー材質：ステンレス。

ハウジング材質：アルミニウム

ディスク径：320 mm。

右側ハンドルレバーによる油圧コントロール。

ブレーキキャリパーメーカー：BREMBO。

タイプ：M4.34a (4ピストンキャリパーØ 34)

ブレーキパッド材質：TT 2182 FF

ポンプタイプ：PR18/19。

リア

穴付き固定ディスク、スチール製。

ディスク径：265 mm。

車体右側ペダルによる油圧コントロール。

メーカー：BREMBO

タイプ：PF 30/32a (2ピストンフローディングキャリパーØ 30 / Ø 32)。

ブレーキパッド材質：Toshiba TT2182 FF。

ポンプタイプ：PS 13。



警告

ブレーキフルードは腐食性があります。

万一目に入ったり肌に触れたりした場合は、流水でしっかりと洗い流してください。

トランスマッision

湿式クラッチ/左側ハンドルバレバーによる操作。
エンジンとギアボックスメインシャフト間の駆動伝達。

エンジンスプロケット/クラッチスプロケット比：

33/61

6速コンスタントギア、車体左側ペダルによる操作。

ギアスプロケット/リヤスプロケット比：15/43

変速比：

1速 15/37

2速 17/30

3速 20/27

4速 22/24

5速 24/23

6速 25/22

トランスマッisionチェーン：

メーカー：DID

タイプ：HV2 525

サイズ：5/8 "x1/16 "

リンク数：118

! 重要

上記のギア比は認可時の値ですので、いかなることがあっても変更してはいけません。

この車両を競技用に仕様変更する場合には、Ducati モーター・ホールディング社から特別なギア比に関する情報を提供いたしますので、オフィシャルディーラーまたはDucatiサービスセンターにお問い合わせ下さい。



警告

リアスプロケットの交換は、Ducati 正規ディーラーまたはサービスセンターにお問い合わせください。

この部品の誤った交換は、ライダーおよびパッセンジャーの安全に深刻な危険をもたらし、車両に修復不能な損傷を与える恐れがあります。

フレーム

ALS450スチール製パイプトレーリスフレーム。

アルミニウムキャストリアフレーム。

ステアリングヘッドアングル：28°。

ステアリングアングル：左34° / 右34°。

トレール：130 mm

ホイール

14 本スポーク軽合金リム (Diavel ABS)

9 本スポーク軽合金リム (Diavel Carbon)

フロント

寸法 : MT 3.50x17"

リア

寸法 : MT 8.00x17"

タイヤ

フロント

"チューブレス"ラジアルタイヤ

寸法 : 120/70-ZR17

リア

"チューブレス"ラジアルタイヤ

寸法 : 240/45-ZR17

サスペンション

フロント

ハイドロリック倒立フォーク、プリロード(フォークインナースプリング)及びリバウンド/コンプレッション調整システム付き。

スタンションチューブ直径 : 50 mm.

ホイールトラベル : 120 mm.

リア

リバウンド/コンプレッション調整、スプリングプリロードのリモコン操作が可能なショックアブソバ

ーは、フレーム上部とスイングアーム下部の中心に位置します。スイングアームはフレーム、エンジン用ピンの基点の回りを回転します。

このシステムは車両に高い安定性をもたらします。

ショックアブソバーストローク : 59.5 mm.

ホイールトラベル : 120 mm.

エキゾーストシステム

アルミ製エンドキャップ付ステンレス製サイレンサー。

触媒コンバーター内蔵、ラムダセンサー(2個)。

カラーバリエーション

Diavel ABS

ダークステルス

2 K ブラックベース、部品番号 : 873. A002 (Palinal)

ブラックステルスベース (ブラック 94)、部品番号 : 929. R223 (Palinal)

マットクリアーブラック、部品番号 : 929. R223 (Palinal)

レーシングブラックフレーム、部品番号 : 43805 (Inver)

グラファイトグレーリアサブフレーム、部品番号 : 36345 (Inver)

ブラックリム

Diavel ABS Carbon

マットクリアー 4 Gloss、部品番号：923I2176
(PALINAL)

Ducati ダーククロームフレーム、部品番号：
73471114 (AZK0)

グラファイトグレーリアサブフレーム、部品番号：
36, 345 (Inver)
グロッシーブラックリム

エレクトリカルシステム

主要構成部品は以下の通りです。

ヘッドライト：

ロービーム LED 電球タイプ : LED (13.5V - 24.3W)
4 個

ハイビーム LED 電球タイプ : LED (13.5V - 18.9W)
5 個

パーキングランプ LED タイプ : LED (13.5V - 6.2W)
5 個

ハンドル上スイッチ

フロントターンインジケーター : LED (13.5V - 4.7W)

警告ホーン

ストップランプスイッチ

バッテリー 12V-10 Ah、密閉型

ジェネレーター 14V-490W - 35A

メインヒューズ 2 個の専用ヒューズを備える ABS
を除き、自動車用タイプの 30A ヒューズでシステム
を保護します。バッテリー後ろのスターターコンタ
クター上に設置されています (C、図 170)。

スターターモーター : 12V-0.7 kW

テールライト、ストップランプ、リアターンインジ
ケーター :

パーキングランプ : (13.5V-0.3W)

ストップランプ : LED (13.5V-1.4W)

リアターンインジケーター : LED (13.5V-2.06W)

ナンバープレートランプ : LED (13.5V-0.7W)



参考

電球の交換は、“ハイ/ロービーム電球の交換”
を参照してください。

ヒューズ

電装品の保護ヒューズはフロントヒューズボックスとリアヒューズボックス内に 12 個、スターターコンタクター上に 1 個あります。各ヒューズボックス内には予備ヒューズ (S) が 3 個あります。

ヒューズが保護する装置、アンペア値については表を参照してください。

左リアヒューズボックス (A、図 168) 右リアヒューズボックス (B、図 169) はシート下のスペースに設置されています。

ヒューズの作業を行うにはシートを取り外す必要があります (ページ 160 ページ、"シートの取り外し" 参照)。

ヒューズを交換するには、各ヒューズの配置と定格が表記された保護カバーを外します。

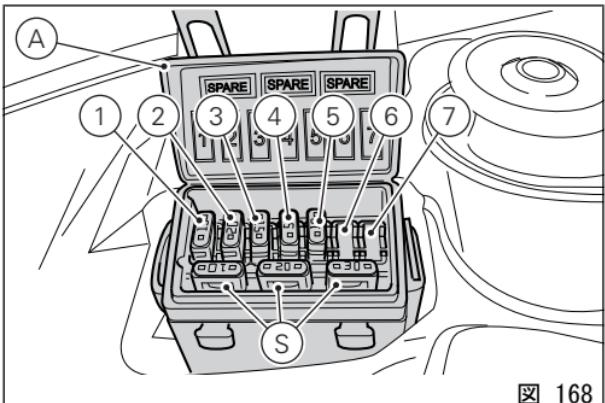


図 168

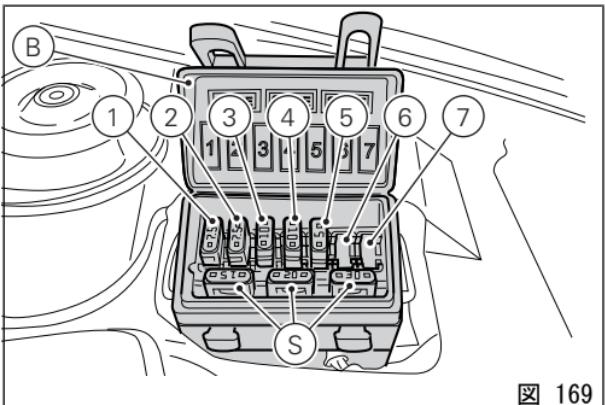


図 169

左リアヒューズボックス凡例 (A)

配置	保護装置	容量
1	スロットルオーブンリレー (ETV)	15 A
2	インジェクションリレー	20 A
3	Key-sense	15 A
4	エンジンコントロールユニット	10 A
5	インストルメントパネル	10 A
6	-	-
7	-	-

右リアヒューズボックス凡例 (B)

配置	保護装置	容量
1	診断/充電	7.5 A
2	ナビゲーター/アラーム	7.5 A
3	Black Boxシステム (BBS)	15 A
4	Black Box システム (BBS) キー	10 A
5	グリップヒーター	5 A
6	-	-
7	-	-

参考

メインヒューズの作業を行うには、左アンダーフェアリングを取り外します。

メインヒューズ(C、図 170)はバッテリー近く、スターターモーター(D、図 170)上に設置されています。ヒューズの作業をおこなうには、保護キャップ(E、図 170)を取り外します。

切れたヒューズは、インナーフィラメント(F、図 171)が溶断しているかどうかで確認することができます。

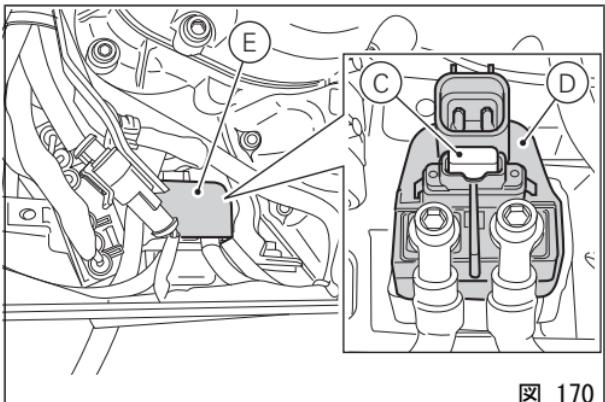


図 170

重要

回路のショートを防止するために、ヒューズ交換の前にイグニッションキーを OFF にしてください。

警告

規定の性能と異なるヒューズは決して使用しないでください。上記事項を守らなかった場合、エレクトリカルシステムの損傷や火災を引き起こすおそれがあります。

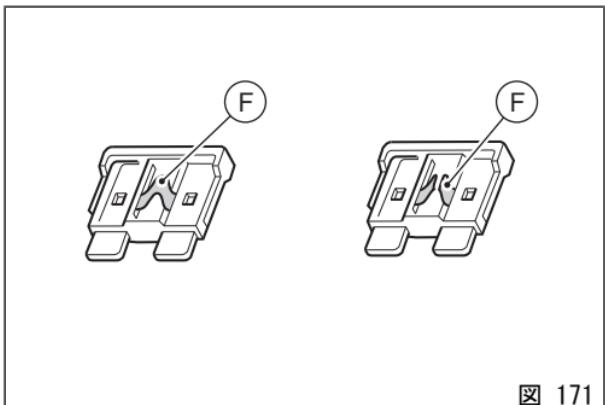


図 171

インジェクション/エレクトリカルシステム配線図凡例

- | | |
|-----------------------------|---------------------------------------|
| 1) 右側スイッチ | 24) 車両コントロールユニット(BBS) |
| 2) イモビライザー | 25) 盗難防止アラーム |
| 3) Hands Free リレー | 26) エキゾーストバルブモーター |
| 4) Hands Free | 27) ギアセンサー |
| 5) 左ヒューズボックス | 28) リアスピードセンサー |
| 6) 右ファン | 29) ABS コントロールユニット |
| 7) 左ファン | 30) スロットルグリップポジションセンサー(APS) |
| 8) 燃料ポンプリレー | 31) ポテンシオメーターモーター / ライドバイワイヤ(TPS/ETV) |
| 9) ライドバイワイヤリレー(ETV) | 32) エンジン回転数/タイミングセンサー |
| 10) インジェクションコントロールユニット(EMS) | 33) パーチカル MAP センサー |
| 11) 右ヒューズボックス | 34) ホリゾンタル MAP センサー |
| 12) データ取得/診断 | 35) エンジン温度 |
| 13) スターターモーター | 36) 気温センサー |
| 14) ヒューズコンタクター | 37) パーチカルラムダセンサー |
| 15) バッテリー | 38) ホリゾンタルラムダセンサー |
| 16) 配線アース | 39) オイル圧スイッチ |
| 17) レギュレーター | 40) リアストップ |
| 18) ジェネレーター | 41) サイドスタンンドスイッチ |
| 19) フューエルポンプ | 42) クラッチスイッチ |
| 20) 燃料レベル | 43) フロントストップ |
| 21) 右リターンインジケーター | 44) パーチカルメインインジェクター |
| 22) テールライト | 45) ホリゾンタルメインインジェクター |
| 23) 左リターンインジケーター | 46) パーチカルコイル |
| | 47) ホリゾンタルコイル |
| | 48) セカンダリーエアクチュエーター |

- 49) 左側スイッチ
50) 警告ホーン
51) フロントスピードセンサー
52) 左フロントターンインジケーター
53) ハンドルバーのインストルメントパネル
54) タンクのインストルメントパネル
55) 右フロントターンインジケーター
56) グリップヒーターコントロールユニット（オプション）
57) ハイビーム/ロービームランプ
58) ポジションランプ
59) グリップヒーター（オプション）

P ピンク



参考

配線図はマニュアルの最後部にあります。

配線カラー表

B 青

W 白

V 紫

BK 黒

Y 黄

R 赤

LB ライトブルー

GR グレー

G 緑

BN 茶

O オレンジ

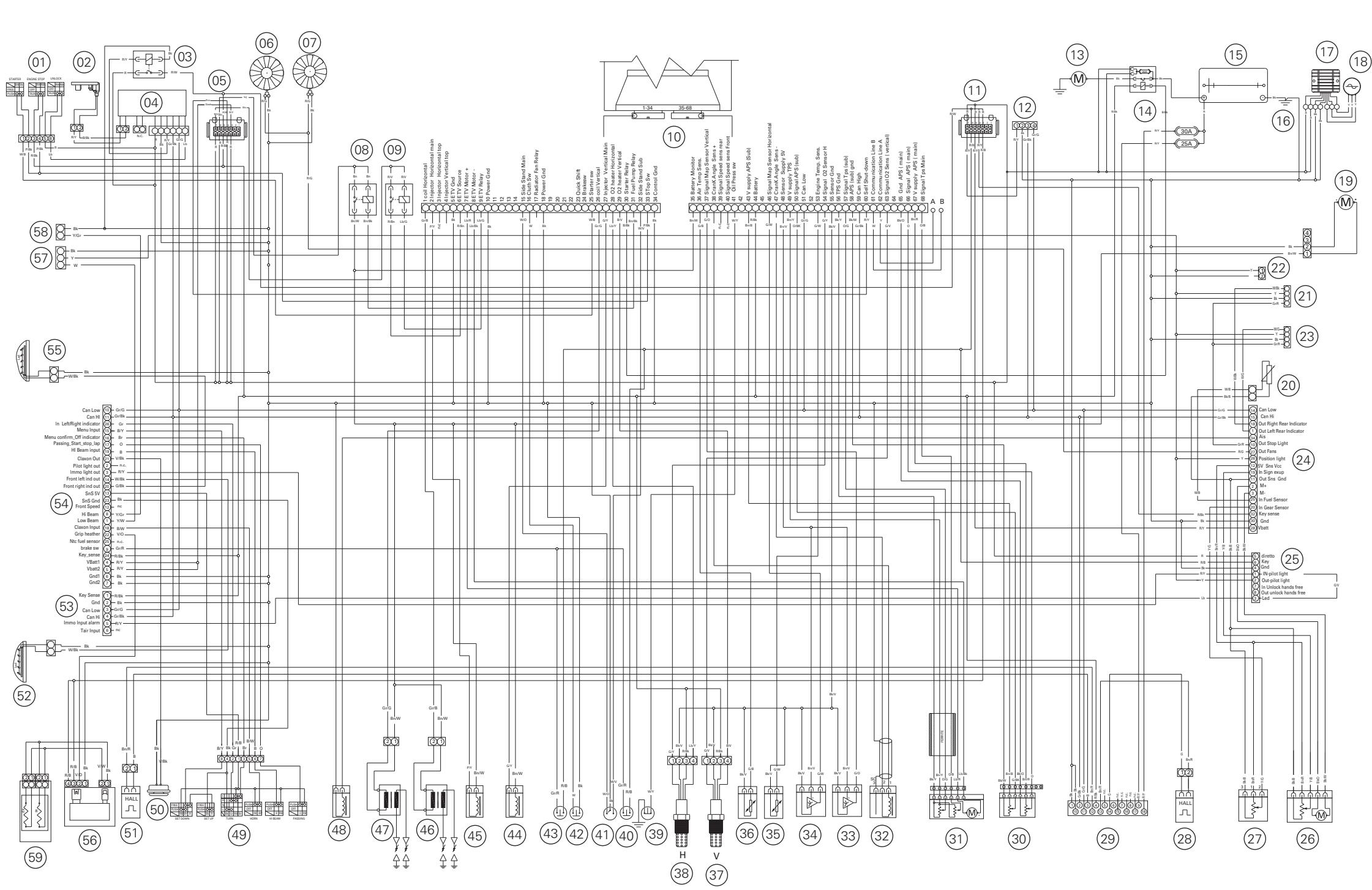
定期点検メモ

定期点検メモ

KM	名前	走行距離	実施日
	ドゥカティサービス		
1000			
15000			
30000			
45000			
60000			

Stampato 09/2015

Cod. 913.7.290.1B Rev.01



DIAVEL ABS / DIAVEL CARBON ABS

cod. 913.7290.1B

Ducati Motor Holding spa
www.ducati.com

Via Cavalieri Ducati, 3
40132 Bologna, Italy
Ph. +39 051 6413111
Fax +39 051 406580

A Sole Shareholder Company
subject to the Management and
Coordination activities of AUDI AG